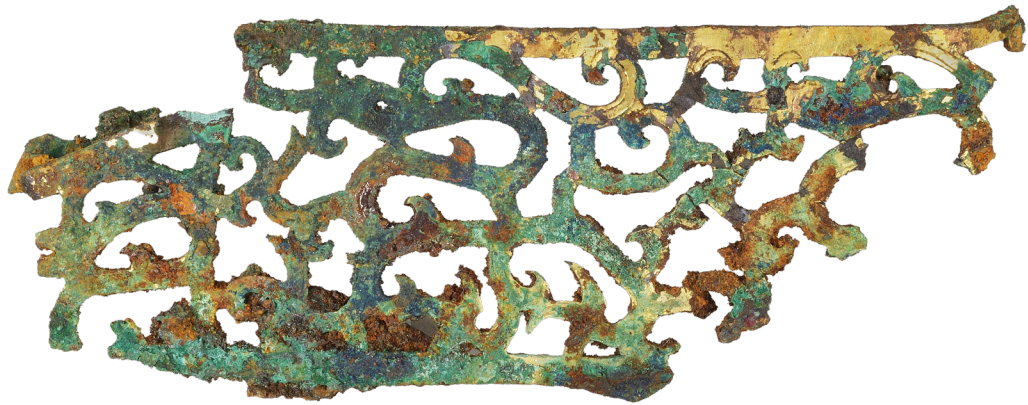


從二位左大臣藤原朝常長方  
 方略事、款狀、一見  
 此、儒術、事、日本  
 志、策、家、連、綿、光、獨、也  
 知、亦、其、又、既、有、替、勳、也  
 子、何、無、様、用、其、以、趣  
 の、被、計、差、間、氣、張、賜  
 謹、言、  
 八月某日 藤原朝常

# 明治大学博物館

年 報

2025 年度



明治大学博物館

# 年 報

2025 年度



明治大学博物館

# 目 次

|      |                                                                                                      |    |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| I    | 展示活動 .....                                                                                           | 3  |
|      | 1. 常設展示の刷新（刑事部門） 2. 常設展示の刷新に係わる教材開発                                                                  |    |
|      | 3. その他の展覧会／コラム展示                                                                                     |    |
| II   | 教育普及活動 .....                                                                                         | 9  |
|      | 1. 生涯学習講座 2. 博物館実習 3. 在学生対象事業 4. 社会連携・大学間連携                                                          |    |
|      | 5. 博物館ボランティア活動 6. その他の普及イベント 7. 明治大学博物館友の会活動                                                         |    |
| III  | 広報活動と情報発信 .....                                                                                      | 17 |
|      | 1. オンライン発信 2. 印刷物 3. 報道機関等による取材 4. ミュージアムショップ                                                        |    |
| IV   | 研究活動 .....                                                                                           | 22 |
|      | 1. 調査研究 2. 研究業績 3. 刊行物                                                                               |    |
| V    | 収蔵資料 .....                                                                                           | 25 |
|      | 1. 資料収集 2. 資料整理 3. デジタルデータ化 4. 資料利用 5. 図書                                                            |    |
| VI   | 統計・資料・規定 .....                                                                                       | 34 |
|      | 1. 入館データ 2. 組織・構成 3. 予算・決算 4. 施設概要・見取り図 5. 規定                                                        |    |
|      | 6. 2025年度博物館事業計画 7. 明治大学博物館のあゆみ                                                                      |    |
| VII  | 講義録 伝統的工芸品の経営とマーケティングVol.17 陶磁器のプロデューサー<br>——京焼・清水焼卸売商社の事業展開——<br>「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会..... | 56 |
| VIII | 牢屋からの手紙 日比佳代子 .....                                                                                  | 69 |
| IX   | 栃木県米山東古墳の形象埴輪配列の検討 忽那敬三 .....                                                                        | 72 |

# I 展示活動

## 1. 常設展示の刷新（刑事部門）

### （1）概要

アカデミーコモンに博物館が開設されてから2024年4月で20年が経ち、また2026年4月には前回の展示替えから10年が経つことから、2023～2025の3ヶ年度にかけて常設展示3部門（商品・考古・刑事）を刷新する。刷新にあたっては、提供する学術情報を最新のものに更新し、展示内容に持続可能な17の開発目標（SDGs）や建学の精神（権利自由、独立自治）に基づく人権・平和教育の観点を盛り込む方針とした。2025年度は刑事部門の展示を刷新すると共に、地下1階のミュージアムショップを館の来歴を紹介するスペースに改修した。

### （2）展示コンセプト

- ・〈法と刑罰の歴史〉を基本コンセプトとし、刑事部門の有する豊富な学術資源を、学内的にも対外的にもアピールする
- ・SDGsの16 公正、平和かつ包括的な社会を推進する（法の支配の確保）や、建学の精神（権利自由・独立自治）の前提となる歴史事実を展示に組み込む
- ・学術情報を最新のものに更新する
- ・「感覚的な分かりやすさ」から「深く考える喜び」まで、多様な楽しみ方を提示する
- ・上記を実現する施設改修及び施設の経年劣化への対応を行う

### （3）具体的な変更点

#### ①民事訴訟や弁護士前史に関するコーナーの追加

従来の刑事部門の展示では、江戸時代の刑事訴訟のみをとり上げており、民事訴訟には触れていなかった。江戸時代の民事訴訟についての展示を追加し、弁護士などの法曹の育成を目的に設立された明治法律学校の歴史を踏まえて、江戸時代の弁護士と言われる公事宿についても取り上げた。

#### ②コラム展示スペースの新設

刑事部門がコラム展（短期間で展示品を入れ替える展示）として利用していたスペースは、本来は入れ替えを想定していない常設部分であったため、展示ケースの開閉などに不具合が生じていた。一方で、博物館が学内利用機関としての役割を果たす上で、学部と共催したコラム展の開催など、コラム展の役割はますます大きくなっている。コラム展の活用を進めるためにも、環境の改善が課題となっていたので、改修にあたりコラム展用の展示スペースを新設した。これにより、充実した環境で刑事部門の豊かな資料を紹介すること、本学の学術資源を広く社会に発信することが可能になった。

#### ③展示レイアウトの更新

常設展の欧州の刑罰具のコーナーに展示していた「鉄の処女」は、拷問や刑罰の道具として作成・使用された歴史的事実はなく、好事家による創造物だと指摘されている。展示品の歴史的な位置づけを検証し更

新していくことは博物館の責務である。「鉄の処女」は〈法と刑罰の歴史〉を基本コンセプトとする常設展の展示品にはそぐわないため、欧州の刑罰具のコーナーからは移動した。移動に合わせ、この部分の展示を整理し、刑罰の近代化についての展示スペースとコラム展のスペースに刷新した。

#### ④館の来歴を紹介するスペースの新設

旧刑事博物館は1929年に活動を開始したので、2029年に100周年を迎える。100周年に向けて、博物館の地下1階ショップスペースに、旧3博物館の創設期を紹介するゾーンを設置し、旧3館の来歴を語るパネル、初期の活動に関わる資料を展示した。常設点から移動した「鉄の処女」も、拷問や刑罰の道具としては歴史的な裏付けがえられないことを説明した上で、旧刑事博物館の歴史を語る資料として、ショップスペースに移設した。

### (4) 理解の深化への方策

#### ①分かりやすさへの工夫

##### グラフィック

従来の壁面画像掲示方法は、印刷した紙を板に貼って掲示する方法であったが、これを改め、大型タペストリーを導入し、インパクトのある画像提示を可能にした。

##### 大型ディスプレイを利用した展示解説動画の放映

古文書資料などの理解を助けるため、代表的な古文書資料について1品あたり1分半程度の解説動画を作成し、大型ディスプレイで再生を行うようにした。

##### ONLINEミュージアムの大型絵図の高精細画像コンテンツと絵図タペストリーの連動を可能にする環境整備

コラム展用の新スペースにはピクチャーレールを設置し、絵図の原寸大タペストリーを容易に展示できるよう環境を整えた。ONLINEミュージアムで公開している大型絵図の高精細画像の内6点について、絵図の原寸大タペストリーを制作しているので、今後、コラム展スペースにて、ONLINEミュージアムの該当ページのQRコードを添えて絵図タペストリーを掲示していく。

##### カラーユニバーサルデザイン（CUD）の導入

「カラーユニバーサルデザインとは、多様な色覚に配慮して、情報がなるべくすべての人に正確に伝わるように、利用者の視点に立ってデザインすること」で、この考え方をパネルやキャプション類のデザインに反映し、多様性への配慮を実現した。

#### ②研究動向を踏まえた展示内容の更新

学術情報の更新という課題に応えるため、刑事訴訟と民事訴訟の両方に配慮した江戸時代の裁判制度の全体像を描く展示内容に刷新し、新たな展示品を加えると共に、解説パネルやキャプションの記述内容を更新した。

#### ③新規の展示資料

村山郡山口村文書41冊X153「東都来状」、村山郡山口村文書20状書簡50「書簡」、村山郡北口町文書17冊T1「評定所鑑盤之写」

### (5) 施設整備・ケース改修・パネルの刷新など

ミュージアムショップの展示スペースへの施設改修、常設展通路側展示ケース上のライト新設、覗きケースの製作（大2台、小1台）、覗きケースのクロスやケース内の展示台の張り替え（16台）、絞罪柱と鉄の

処女の台の新設、捕者三道具のテグス張り直し、パネル・キャプション類のデザイン刷新、タペストリー作成（５枚）



タペストリーによる画像提示をした展示室の様子



新設の出入筋のコーナー



サイネージによる動画での解説風景

## 2. 常設展示の刷新に係わる教材開発

- ・ホームページ上に常設展3部門の小中学生向けワークシートを掲載しPDFデータを提供した。
- ・商学部「商品学」（上原義子兼任講師）の授業内で商品部門常設展を見学・レポートする際、展示見学の視点や補足情報を記したシートを展示室に配置した。

## 3. その他の展覧会／コラム展示

### (1) 主催・共催展覧会

#### ア 進化する信楽焼の『伝統』

会期 3月26日～5月20日

入場者数 3,585名

主催 明治大学博物館

2019～2024年にかけて実施した信楽焼（滋賀県）調査の成果を紹介。実用品生産の有力産地として常に時代のニーズに沿って進化を続けてきた来歴を反映したバラエティ豊かな現代の信楽焼商品の特性と近年のトレンドを分析した。

#### イ 明治大学商品陳列館企画展の軌跡

会期 3月26日～5月20日

入場者数 3,585名 ※アと同時開催

主催 明治大学博物館

大学紛争鎮静の後、再興に際して伝統的工芸品を主要な収集・展示資料とした旧商品陳列館は、1990年代後半に伝統的工芸品コレクションの地域別・種目別に系統立った充実を目指して収集活動に注力した。その成果を反映して開催された企画展を回顧した。

#### ウ 瓦が語る歴史—前場幸治瓦コレクションの名品—

会期 5月29日～7月16日

入場者数 4,363名

主催 明治大学博物館

国内の個人収集瓦コレクションとしては屈指の内容で知られる前場コレクションの代表的な資料を紹介した。稀少な文字瓦の例として知られ

る「大伴五十戸」銘をもつ神奈川県千代廃寺の瓦（奈良時代）のほか、豊臣秀吉が築いた大坂城の金箔瓦など様々な瓦資料から日本の歴史をたどる構成とした。服部英龍『西郷隆盛南洲翁兎狩図』（1885）など、瓦以外の資料も展示した。ギャラリートークを2回行った。

### エ 名刀繚乱—くろがねの美—

会期 9月20日～11月4日

入場者数 6,452名

主催 梅朝洞コレクション 晶平鍛刀道場

共催 明治大学博物館

後援 明治大学校友会

「晶平鍛刀道場」を主宰する刀匠川崎晶平師（本学校友）の作品とともに、梅朝洞コレクションが所蔵する江戸から現代に至る貴重刀剣を展示した。併せて刀の鍛造工程などをパネル展示し、幅広い年代の来館者が純粋に日本刀の美しさに魅せられ、日本刀を取り巻く歴史的背景や文化を楽しめる企画とした。

### オ 新収蔵品展2025

会期 11月14日～12月22日

入場者数 4,421名

主催 明治大学博物館

2024年度に新たに収集した資料を紹介した。考古部門からは古墳時代（5世紀）の龍文の透かし彫りが施された金銅製品（伝群馬県綿貫古墳群出土）、刑事部門からは14世紀後半の公家広橋兼綱の書状、商品部門は前年度に続く「記録写真にある資料」の第2弾を開催した。会期中に、金銅製品に関するギャラリートークを3回実施した。

### カ 弥生時代の再葬墓

会期 2026年2月6日～3月26日

入場者数 4,719名

主催 明治大学博物館

杉原荘介氏以来、明治大学の考古学専攻が研究を続けてきた弥生時代の再葬墓について、その前史から発見、その後の調査まで、主要な収蔵

資料を提示して紹介した。国指定重要文化財の栃木県出流原遺跡や千葉県天神前遺跡では10年ぶりの出展となる土器群を展示した。福島県南御山遺跡出土土器や新潟県大曲遺跡出土資料（北越考古学研究会蔵）は、今回が初の公開となった。ギャラリートークを1回実施した。

## (2) その他の展覧会

### ア 明治大学図書館所蔵エジプト学貴重書展2

会期 7月28日～8月29日

入場者数 4,219名

主催 明治大学文学部佐々木憲一研究室

共催 明治大学図書館

明治大学図書館所蔵の貴重書を2017年以来8年ぶりに展示した。『エジプト誌』初版（1809～22、ナポレオンのエジプト侵攻時の報告書）、レプシウス『エジプト・エチオピアのモニュメント』（1849～59）、シャンポリオン『エジプトとヌビアのモニュメント』（1835）に加え、シャンポリオンがヒエログリフ解読の成果を最初に発表した際の配布資料『ダシエ氏への書簡』（1820）を本学で初めて公開した。ギャラリートークを2回開催した。

## (3) コレクション展

### ① 刑事部門

#### ア お江戸の契約書～近世町人社会の請人と請状～

会期 3月25日～6月23日 74日間

主催 明治大学文学部史学地理学科日本史学専攻日本近世史ゼミ・刑事部門

江戸時代の古文書の中から、雇用をめぐる契約書である請状と引取一札を取り上げ、当時の人々の契約の様子や働き方を紹介した。展示は明治大学文学部史学地理学科日本史学専攻日本近世史ゼミに所属する学生が担当した。

#### イ 江戸時代の温泉

会期 7月17日～10月27日 75日間

江戸時代には庶民も武士も、病を癒すために、また旅の途中に温泉に入った。熱海や箱根を利用する大名家の人々、湯治のために休暇を取る武士の姿、湯治人を受け入れる温泉のある村の様子などを紹介した。

### ウ 悪党、天下をかたる 慶応二年村山騒動の世界

会期 2026年3月26日～8月31日（予定）

慶応二（1866）年に、出羽国村山郡（現・山形県山形市ほか）で発生した打ちこわし・村山騒動を取り上げ、首謀者たちが出した手紙や事件の報告書、物価高を描く錦絵などから、幕末の混沌とした社会を描く。さらに、歴史・法・哲学・認知情報論を専門とする明治大学の4人の教員によるコメントを展示の一部に組み込み、合わせて紹介した。

### ② 考古部門

#### ア 明大コレクション60：佐賀県桜馬場遺跡の甕棺

会期 3月26日～7月5日 80日間

弥生時代中・後期の甕棺墓群である桜馬場遺跡の甕棺の中から、杉原荘介氏調査時に出土した第2号甕棺と副葬品であるガラス製管玉に加え、関連する有鉤銅釧（レプリカ）を展示した。

#### イ 明大コレクション61：「はにわ工場」の発見 —茨城県馬渡埴輪製作遺跡発掘60周年—

会期 7月11日～10月11日 66日間

発掘調査から60周年を記念し、当館が所蔵する同遺跡の出土資料の数々を紹介した。

#### ウ 明大コレクション62：記念館前遺跡⑤

##### 江戸のやきもの—暮らしの道具たち—

会期 10月17日～12月22日 55日間

シリーズ第5回として、陶磁器をはじめとしたやきもののなかから注目の資料を選び、日常生活の中で親しまれた多種多様なやきものの姿を紹介した。

## エ 明大コレクション63：古代スイスの湖上住居遺跡

会期 2026年1月14日～3月31日 59日間  
1956年にスイス・ベルン歴史博物館より寄贈されたスイス国内の湖上住居遺跡から出土した土器・石器・骨角器・青銅製品を20年ぶりに出展した。

### ③商品部門

#### ア 1970 万博前夜の舶来品

会期 3月5日～5月31日 72日間  
1961～1966年に百貨店が販売していた輸入雑貨は1ドル360円の固定相場だった当時、庶民にとって高嶺の花だった。現在との値頃感の違いに着目した。

#### イ 切子ーカットガラス キラキラワールド

会期 6月3日～8月29日 67日間  
「切子」はカットガラス製品の名称として広く認知されている。本展では薩摩切子や江戸切子を中心に、館蔵のカットガラス類を展示した。

## ウ デザインの革新：漆器 Gusto ITALIANO

会期 9月3日～12月1日 74日間  
川連漆器（秋田県）の伝統工芸士とイタリア在住デザイナーが提携して開発し、2000年2月にミラノで開催された国際的な家庭用雑貨・ギフト用品の見本市「マチェフ」に出展された漆器製品を紹介した。

## エ くらべてみよう 宮城のこけし

会期 12月3日～2026年3月10日 65日間  
鉄道利用者の増加や観光旅行の流行で温泉地が賑わった。土産物としてこけしが多く売れ、第2次こけしブームが起こった1960年から1980年にかけて収集された館蔵品を展示した。

## オ 瓢箪から駒

会期 2026年3月12日～7月14日 102日間  
午年のため、馬にちなんだ縁起物として、時田昌瑞ことわざコレクションの中から「瓢箪から駒」のこことわざをモチーフとした資料を紹介した。

## II 教育普及活動

### 1. 生涯学習講座

#### (1) リバティアカデミー博物館入門講座

##### 今日から始める古文書講座

|                                                 |                                                                      |        |     |
|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|--------|-----|
| 日 時<br>定 員                                      | 10月15日、11月12日、12月17日、<br>2026年1月14日 水曜日<br>11:00～12:30〈全4回〉 定員 対面15名 |        |     |
| 講 師                                             | 日比佳代子（刑事部門学芸員）                                                       |        |     |
| 受講料                                             | ¥8,800                                                               | 受講登録者数 | 15名 |
| 辞書の使い方、字を見分けるポイントなど、古文書<br>解説の基礎的な知識を学ぶ受講者参加型講座 |                                                                      |        |     |

#### (2) リバティアカデミー博物館公開講座

##### ①明治大学博物館考古学ゼミナール

##### 第74回 人物埴輪の世界を知る—関東地方の多 彩な「はにわ」たち—(ハイブリッド)

【企画】忽那敬三・若狭徹

【企画協力】文学部史学地理学科考古学専攻

|                                                                                        |                                                                                        |        |                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|--------|-----------------------|
| 日 時<br>定 員                                                                             | 5月16日～7月18日 毎金曜日<br>15:00～16:30〈全5回〉<br>定員 対面60名、オンライン90名                              |        |                       |
| 講 師                                                                                    | ①伝田郁夫（芝山町立芝山古墳・はにわ博物館）、②齋藤直樹（藤岡市教育委員会）、③若狭 徹（明治大学文学部教授）、④小澤重雄（茨城県立歴史館）、⑤篠田泰輔（行田市郷土博物館） |        |                       |
| 受講料                                                                                    | ¥11,000                                                                                | 受講登録者数 | 72名（対面42、<br>オンライン30） |
| 関東地方の中でも特に人物埴輪が多く樹立された群馬・埼玉・茨城・千葉の各地域の特色から、人物埴輪が表現した世界を紹介した。                           |                                                                                        |        |                       |
| ①千葉県的人物埴輪(伝田)<br>②群馬県的人物埴輪(齋藤)<br>③人物埴輪群像が表すものとは(若狭)<br>④茨城県的人物埴輪(小澤)<br>⑤埼玉県的人物埴輪（篠田） |                                                                                        |        |                       |

##### 第75回 縄文時代のまつり（ハイブリッド）

【企画】忽那敬三・阿部芳郎

【企画協力】文学部史学地理学科考古学専攻

|                                                                                                      |                                                                                                  |        |                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------|
| 日 時<br>定 員                                                                                           | 10月17日～12月 5 日 毎金曜日<br>13:30～15:00〈全 5 回〉<br>定員 対面60名、オンライン90名                                   |        |                   |
| 講 師                                                                                                  | ①吉川耕太郎（秋田県教育庁）②鈴木素行（常陸大宮市史編さん委員会）③宮内慶介（飯能市教育委員会）④吉岡卓真（さいたま市教育委員会）⑤八木 勝枝（(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター） |        |                   |
| 受講料                                                                                                  | ¥11,000                                                                                          | 受講登録者数 | 76名（対面40、オンライン36） |
| 環状列石、石棒、動物形土製品、土版・岩版などから縄文時代の人々のまつりの実像と「こころ」の世界に迫った。                                                 |                                                                                                  |        |                   |
| ①環状列石（ストーンサークル）と縄文時代人の精神世界を探る（吉川）②石棒のまつり（鈴木）③動物形土製品の世界（宮内）④土版と岩版が意味するもの（吉岡）⑤岩手県雨滝遺跡に見る縄文時代のまつりの姿（八木） |                                                                                                  |        |                   |

#### (3) 商学部・商学研究科と連携の公開特別講義

##### 伝統的工芸品の経営とマーケティングVol.17

##### 陶磁器のプロデューサー — 京焼・清水焼卸売商 社の事業展開 —

|                                                                                                                          |                                          |      |      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|------|------|
| 日 時<br>定 員                                                                                                               | 11月27日 木曜日 9:00～10:30<br>リバティタワー リバティホール |      |      |
| 講 師                                                                                                                      | 熊谷隆慶氏(株式会社熊谷聡商店代表取締役社長)                  |      |      |
| パネリスト                                                                                                                    | 町田一兵(商学部教授) 上原義子(商学部兼任講師・高千穂大学商学部准教授)    |      |      |
| 進 行                                                                                                                      | 外山徹(商品部門学芸員)                             |      |      |
| 受講料                                                                                                                      | 無料                                       | 受講者数 | 299名 |
| 商学研究科「商品学特論B」「国際交通論特論B」、<br>商学部「商品学B」「国際交通論B」の拡大版として実施。陶磁器産地における卸売商社は、既製品の中継に止まらず、商品の開発から製造、流通までを統括するプロデューサーとしての性格を帯びてきて |                                          |      |      |

いる。店舗やオンラインによる直売を含めマルチチャネル化した近年の流通形態、OEMの受注や外部デザイナーとの提携による商品の開発、さらには職人を雇用しての自社製造の体制、特に京都という立ち位置からは国際化の動向としてインバウンド対応や海外出荷などに注目して議論を深めた。

## 2. 博物館実習

### (1) 館務実習

#### ①刑事部門

参加者 明治大学8名

《実習内容》

館内施設・設備見学、錦絵整理、古文書整理、高札整理、展示調査・解説発表

#### ②考古部門

参加者 明治大学19名

《実習内容》

収蔵資料整理、木製品・金属製品保存処理、梱包資材制作、坂本万七写真研究所コレクション整理、コレクション展パネル制作、企画展・コレクション展撤収作業補助、展示解説、図書排架整理、職場体験補助、生涯学習講座運営見学、防災訓練見学

#### ③商品部門

参加者 明治大学14名 武蔵野音楽大学1名

《実習内容》

館内施設・設備見学、ワークシート作成実習、収蔵資料整理(台帳カード作成、保存容器組立と資料収納、再配架作業)

## 3. 在学生対象事業

### (1) 全学共通総合講座「大学博物館の現場を 実見する」

秋学期開講 月曜2限

《授業の概要・到達目標》

本学の博物館は90年以上の歴史を持つ。収蔵資料の充実や利用者サービスで大学博物館トッ

プクラスの評価を得ており、その存在が明治大学の教育・研究活動を特色付けている。この授業では、学術資源の豊富な収蔵を特徴とする大学博物館を事例として、資料収集の経緯と手順、学術資源として幅広く研究に活用されるための手当て、さらに研究成果を社会に還元する装置としての展覧会開催に言及し、大学及び大学博物館と一般市民による生涯学習活動との関わりなど、収集・研究・教育という博物館活動の一連の流れを理解する。

| 回  | テーマ                        | 担当者   |
|----|----------------------------|-------|
| 1  | イントロダクション／博物館の役割と機能        | 駒見和夫* |
| 2  | 我が国における大学博物館の現状と明治大学博物館の歴史 | 外山 徹  |
| 3  | 博物館資料の形成1（刑事関係文献・歴史資料）     | 日比佳代子 |
| 4  | 博物館資料の形成2（商品関係資料）          | 外山 徹  |
| 5  | 博物館資料の形成3（旧石器～縄文）          | 忽那敬三  |
| 6  | 博物館資料の形成4（弥生～古墳）           | 忽那敬三  |
| 7  | 博物館資料の保管と整理1（古文書資料）        | 日比佳代子 |
| 8  | 博物館資料の保管と整理2（考古資料）         | 忽那敬三  |
| 9  | 生涯学習と友の会活動                 | 外山 徹  |
| 10 | 博物館の施設・設備                  | 日比佳代子 |
| 11 | 考古部門常設展の企画立案から制作まで         | 忽那敬三  |
| 12 | 古文書資料の調査・研究と資料公開           | 日比佳代子 |
| 13 | 伝統的工芸品産業の調査・研究             | 外山 徹  |
| 14 | 総括 ふりかえりと意見交換              | 駒見和夫  |

※文学部教授（学芸員養成課程）・博物館運営委員・本講座コーディネーター

受講登録者 18名

※実物資料の取り扱いの都合上、履修者の上限を24名とした。また、都合により一部授業の担当者と順番を入れ替えて実施した

## (2) 在学生対象バックヤードイベントの実施

学部・学科の枠組を越えた教育の実践として、ワークショップ及びバックヤードツアーを実施した。学生向けポータルサイトOh-o!Meijiへの告知により各回定員15名を募集した。

### ①ワークショップ@バックヤード

| 回 | 月日    | テーマ                      | 担当 | 人数  |
|---|-------|--------------------------|----|-----|
| 1 | 6/7   | 博物館ガイドツアー：“触れて聴く”考古部門新展示 | 忽那 | 3名  |
| 2 | 7/5   | 絵図や錦絵を通して江戸を見る           | 日比 | 10名 |
| 3 | 7/19  | 抹茶碗を手にとってやきものの魅力を知る      | 外山 | 4名  |
| 4 | 11/15 | 「はにわ」を復元する一破片の接合にチャレンジ   | 忽那 | 10名 |
| 5 | 11/28 | 絵図や錦絵を通して江戸を見る           | 日比 | 7名  |
| 6 | 12/2  | 抹茶碗を手にとってやきものの魅力を知る      | 外山 | 3名  |

### ②バックヤードツアー

①5/10 12名 ②5/24 10名 ③6/21 7名  
④10/2 10名 ⑤10/18 2名 ⑥11/8 10名  
合計51名

## (3) 本学教員による展示解釈を組み込んだコラム展「悪党、天下をかたる」の開催準備

刑事部門コラム展に、分野の違う複数の本学教員がコメントを寄稿し、展示解釈を展示の一環として見せるという試みに向けた開催準備を行った。

展示名称 コラム展「悪党、天下をかたる」

会期予定 2026年3月26日～8月31日

参加教員 法学部黒澤睦教授、文学部合田正人教授、情報コミュニケーション学部須田努教授、同石川幹人教授

打合せ会 11月26日、2026年1月22日に実施

## (4) 史学地理学科考古学専攻・日本史学専攻 新入生見学会

### ①考古学専攻

日時 4月12日 10:00～11:30

参加者 新入生50名

常設展示室・考古エリアの展示解説と、博物館図書室ならびに写真保管庫・作業室・収蔵庫のバックヤード施設を見学し、利用方法や施設の機能のレクチャーを行った。

### ②日本史学専攻

日時 4月12日 15:00～17:00

参加者 学生63名

村方文書の実物、内藤家文書の実物を2会場に列品し、常設展示室、2つの古文書会場を順に学生が見学。古文書会場では、教員と学芸員が協力して、史料の解説や質問への受け答えなどを行った。

## (5) 展覧会関連イベント

### ア 企画展「瓦が語る歴史—前場幸治瓦コレクションの名品—」ギャラリートーク

日時 ①6月14日(土) 11:00～11:40

②6月24日(火) 14:00～14:40

講師 忽那敬三(考古部門学芸員)

会場 特別展示室

参加者 ①8名、②11名

### イ 企画展「明治大学図書館所蔵 エジプト学貴重書展2」ギャラリートーク

日時 8月21日(木)

①11:00～12:00 ②13:00～14:00

講師 佐々木憲一(文学部教授)

会場 特別展示室

参加者 ①11名、②10名

### ウ 企画展「名刀繚乱—くろがねの美—」ギャラリートーク

ホームカミングデー企画として、開催中の企画展に作品を出展している刀匠川崎晶平氏による対談と列品解説を行った。

日時 10月26日（日）

①11:00～11:50 ②15:00～15:50

出演 川崎晶平（晶平鍛刀道場主宰者／92政経卒）外山 徹（商品部門学芸員）

会場 博物館教室及び特別展示室

参加者 ①19名、②20名

## エ 企画展「新収蔵品展2025」関連ギャラリートーク

伝群馬県綿貫古墳群出土の龍文透彫金銅製品について解説した。全国紙掲載後に追加開催した。

日時 ①12月6日（土）11:00～11:30

②12月6日（土）11:50～12:10

③12月20日（土）11:00～11:30

講師 忽那敬三（考古部門学芸員）

会場 博物館教室及び特別展示室

参加者 ①3名、②44名、③23名

## オ 企画展「弥生時代の再葬墓」ギャラリートーク

日時 2026年3月14日（土）13:00～13:30

講師 忽那敬三（考古部門学芸員）

会場 特別展示室

参加者 12名

## (6) 学生広報アンバサダー

学生同士が交流を深め、充実した学生生活を過ごせるよう支援するプログラムとして、2021年5月から学生広報アンバサダーを募集、活動をサポートしている。2025年度は27名のメンバーが活動を行った。

### ①春学期の活動（4月1日～9月19日）

#### ア 公式Instagramの開設

学生広報アンバサダーの活動を広く伝えるため、新たにInstagramのアカウントを開設した（meiji\_museumambassador）。

新入生交流会、各キャンパスでのチラシ配布、子どもれきしアカデミー等、合計10本の記事を投稿した。

### イ 新入生交流会の開催（4月26日）

新入生に博物館を観て、知ってもらうとともに、学部を越えた明大生同士の絆づくりのきっかけとなることを目的とした企画。

7学部から12名の新入生が参加、自己紹介の後、謎解きサークルSHERLOCKと博物館学生広報アンバサダーのコラボ企画「明治大学博物館の回顧録」に挑戦、博物館常設展の展示を回りながら、謎解きをして交流を深めた。博物館学生広報アンバサダーを交えた懇談では、授業に関する先輩への質問や、サークル・出身地などさまざまな話題に花が咲いた。

### ウ 各キャンパスでのチラシ配布

企画展「明治大学と山の上ホテル」と明大生が使える「美術館・博物館の会員制度」の両面チラシを各キャンパス昼休みに配布。

5月22日中野、23日和泉、26日生田、30日駿河台、全4キャンパス各1回。

チラシ配りにはめいじろうも協力、一緒に写真を撮りたい学生も集まり、広報効果を更に高めた。

### エ 明大スポーツ新聞での博物館紹介

明大スポーツ新聞オープンキャンパス号（第548号、8月1日発行）にて、「魅力発見明大スポット」の1つとして、学生広報アンバサダーが博物館の紹介を行った。

Meisupo WEBインタビュー（前編）

<https://meisupo.net/special/41337/>

Meisupo WEBインタビュー（後編）

<https://meisupo.net/special/41344/>

### オ 子どもれきしアカデミーの開催（8月8日）

千代田区在住・通学の小学生を主たる対象としたイベント「子どもれきしアカデミー」は、①紙粘土を用いた埴輪工作（自分だけのほにわを作ろう）、②黒曜石を用いた石器づくり体験「黒曜石を割ってみよう!」を開催。30名が参加した。千代田区ミュージアム連絡会

及び千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定に基づき、千代田区公式LINEと区内掲示板にて広報活動を実施した。

## ②秋学期の活動（9月20日～3月31日）

### ア 博物館漫画家・今井しょうこ氏講演会の開催

出版文化産業振興財団が主催する「BOOK MEETS NEXT」に参画し、博物館漫画家・今井しょうこ氏による講演会を開催した。博物館に関わるきっかけや今後のミュージアム体験の展望などについての講演には、近隣大学の学芸員養成課程履修生や一般社会人など多くの聴衆が集まった。併せて、講演会終了後に博物館の夜間開館も実施した。

11月14日（金）18時30分～19時30分、グローバルフロント1階グローバルホールにて開催。

参加費無料、参加者80名。

### イ 第21回父母交流会への参加（11月23日）

明治大学連合父母会が主催する第21回父母交流会にて、「現役明大生がナビゲート！博物館ツアー」を行った。アンバサダーが来館した父母をご案内するもので、約180名の参加があった。

### ウ 子どもれきしアカデミーの開催（3月21日）

千代田区在住・通学の小学生を主たる対象としたイベント「子どもれきしアカデミー」にて、「紙粘土を用いた埴輪工作（自分だけのはにわを作ろう）」を開催。25名が参加した。千代田区ミュージアム連絡会及び千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定に基づき、千代田区公式LINEと区内掲示板にて広報活動を実施した。

### エ 博物館運営についてご意見を伺う会への参加（3月31日）

博物館事務長からの依頼に応え、博物館運営についてご意見を伺う会にメンバー4名が参

加した。

学生、若年層の視座から、2025年度に実施した刑事部門の常設展示刷新及び博物館の広報戦略に対する意見を述べた。

## (7) その他学生教育への協力

### ア 学芸員養成課程「ミュージアムコミュニケーションA（担当：駒見和夫文学部教授）」

授業内の「明治大学博物館でミュージアムグッズの新製品を企画する」という課題から考案された「顔だけポーチ」を商品化。山形土偶・遮光器土偶・馬形埴輪のイラストが印刷され、300円（コレクションカード4枚付）。

### イ 明治大学付属明治中学校への出講

2年生の社会科見学の事前学習として登呂遺跡について講義（忽那学芸員・5月13日）

## 4. 社会連携・大学間連携

### (1) 地域連携

#### ア 宮城県延岡市

宮城県延岡市史編集委員会専門部会（近現代部会）の委員を委嘱（日比学芸員）。部会打ち合わせ（7月25日、2026年3月24日）への出席。延岡市史による内藤家文書の調査7月25日3名、11月11日3名、2026年3月4日1名、3月6日1名受け入れ。

#### イ 茨城県

報告書作成に伴う三昧塚古墳出土武具の3次元撮影を国立歴史民俗博物館上野祥史准教授に依頼して実施。

### ウ 大英博物館所蔵ウィリアム・ガウランド写真資料（寄託資料）及び関連資料の活用事業

島根大学名誉教授渡辺貞幸氏の写真利用に関し、大英博物館に仲介。

## (2) 大学間連携

該当なし。

## 5. 博物館ボランティア活動

### (1) 常設展解説ボランティア

#### ①参加者

友の会会員31名

毎週月曜・木曜・金曜の週3日体制で実施。

#### ②研修日程及び内容

##### ア 展示解説員研修

5月28日：博物館教育 展示解説の理念と博物館教育の特性／避難経路の確認／考古部門1・2（旧石器時代・縄文時代ほか）

6月4日：考古部門3・4（弥生・古墳時代）

6月11日：刑事部門1・2（日本の罪と罰、捜査と逮捕）

6月25日：刑事部門3・4（取り調べ、刑罰）

7月2日：商品部門1・2（“伝統的工芸品”の成立）

7月9日：商品部門3・4（“伝統的工芸品”の価値形成）

##### イ フォローアップ研修

2026年3月4日実施

### (2) 図書室ボランティア

#### ①参加者

友の会会員21名

水・土の週2日実施。

## 6. その他の普及イベント

### (1) 常設展示クイズラリー

各種イベントにおいてクイズラリーを行い、全問正解者には博物館特製缶バッジ等をプレゼントした。

#### ア オープンキャンパス

8月6・7日：参加者 276名

#### イ ホームカミングデー

10月26日：参加者 200名

#### ウ 父母交流会

11月23日：参加者 200名

### (2) 夏休み古墳教室 2025

埴輪をテーマに、接合体験等を実施。今年は2部制とし、小学生向けと中高生向けの2回に分けて実施した。

日時 7月30日

①小学5・6年生対象 10：30～11：15

②中高生対象 13：00～14：00

講師 忽那敬三（考古部門学芸員）

参加者 ①26名（うち保護者12名）

②13名（うち保護者4名）

## 7. 明治大学博物館友の会活動

### (1) 概要

#### ①会員数

586名

#### ②総会

5月17日開催。2024年度事業報告／2024年度会計監査報告／2025年度事業計画案／2025年度予算案

### (2) 活動記録

#### ①講演会

ア 総会特別講演会（対面）「4世紀の倭国—政権の動向と『記紀』伝承—」（5月17日）

参加者 91名（会員限定）

講師 神戸女子大学名誉教授 寺沢知子

イ 第28回古代史講演会（対面）「鯨面からみえてくる邪馬台国」（6月24日）

参加者 60名（会員限定）

講師 東京大学名誉教授 設楽博己

**ウ 近世史講演会 (Zoom) 「大阪・茨木のキ  
リシタン遺物発見とかくれキリシタン『発  
見譚』」 (7月26日)**

参加者 33名 (会員限定)

講師 なら歴史芸術文化村学芸員 (美術工  
芸) 桑野梓

**エ 日本考古学2025講演会 (対面) (9月20日)**

参加者 63名 (会員限定)

「低地の民の資源戦略—弥生時代の木材利用  
構造を探る—」

講師 明治大学文学部専任講師 鶴来航介  
「日本水中考古学の可能性」

講師 國學院大學研究開発推進機構教授  
池田榮史

**エー2 (上記エのオンデマンド)**

(視聴期間 11月5日～13日 9日間)

視聴申込者 31名 (会員限定)

**オ 世界史講演会 (対面) (10月31日)**

参加者 52名 (会員限定)

「シルクロードのソグド都市と文化交流—拝  
火寺院の調査成果を中心に—」

講師 東北芸術工科大学芸術学部文化財保存  
修復学科准教授 村上智見

**カ 博物館館長講演会 (対面) (12月20日)**

参加者 60名 (会員限定)

「人工知能は人間に迫れているのか～生成AI  
の急速な発展に寄せて」

講師 明治大学博物館館長・情報コミュニケ  
ーション学部教授 石川幹人

**キ 第29回古代史講演会 (Zoom) (2026年  
1月28日)**

参加者 48名 (会員限定)

「福井洞窟の最新調査報告—洞窟遺跡の保存  
と活用—」

講師 佐世保市教育委員会文化財課主査 文  
化財専門職員 柳田裕三

**ク 会員発表会&忽那学芸員講演会 (ハイブリ  
ッド、2026年3月10日)**

参加者 86名 (対面37名、Zoom49名)

**第1部 会員発表会**

「日本の中心は、なぜ北部九州から大和に移っ  
たのか?—弥生後期・庄内期の日本激動—」

小川充会員

「船形木棺—他界へ翔る船」

細川恵司会員

**第2部 講演会**

「『国宝級』龍文金銅透彫板付頸甲が語るもの  
—ヤマト王権と上毛野君」

講師 明治大学博物館学芸員 忽那敬三

**②見学会**

**ア 会員企画による東京近郊の遺跡探訪「縄文  
の漆の里『下宅部遺跡』に行ってみよう!」  
(6月5日)**

企画案内 桜井美代子

現地講師 千葉敏朗 (東村山市教育委員会東  
村山ふるさと歴史館学芸員)

参加者 22名

**イ 博物館企画展関連見学会「信楽焼の里と琵琶  
湖東岸の遺跡を巡る」(12月4日～5日)**

同行講師 外山徹 (明治大学博物館学芸員)

現地講師 杉浦隆支 (東近江市埋蔵文化財セ  
ンター所長・東近江市能登川博物館館長)、  
進藤武 (野洲市歴史民俗博物館 (銅鐸博物  
館) 専門員 (学芸員))、伴野幸一 (守山市伊  
勢遺跡史跡公園所長)、渡部圭一郎 (甲賀市  
教育委員会事務局歴史文化財課埋蔵文化財係  
主査)

参加者 23名

**ウ 江戸時代を探訪するPart11「旧板橋宿平尾  
から上板橋宿・板橋区立郷土資料館へ—川  
越街道を歩く—」(2026年2月25日)**

同行講師 森朋久 (明治大学兼任講師)

現地講師 宮本孝一 (東京都健康長寿医療セ  
ンター総務課司書)、増田由貴 (板橋区立郷  
土資料館学芸員)

参加者 12名

### ③広報活動

#### ア 会報発行

年4回（春・夏・秋・冬）

#### イ 行事案内

友の会ホームページでの情報提供

#### ウ 友の会掲示板の活用、行事チラシの作成

### ④博物館への協力

博物館図書室管理は2025年2月から土曜のみの週1日体制となったが、4月から毎週水・土の週2日体制とした。展示解説は25年度は毎週月・木・金の週3日体制とした。

| 担当       | 活動日   | 活動者数 |
|----------|-------|------|
| 博物館図書室管理 | 水・土   | 21名  |
| 展示解説     | 月・木・金 | 31名  |

### ⑤学習サークル（活動は原則として月1回）

| 分科会名          | 会員数 | 担当者・講師                      |
|---------------|-----|-----------------------------|
| 古文書を読む会       | 20名 | 外山学芸員<br>森朋久氏 <sup>※1</sup> |
| 平成内藤家文書研究会    | 10名 | 伊能秀明氏 <sup>※2</sup>         |
| 工芸の会          | 10名 | 外山学芸員                       |
| 旧石器・縄文文化研究会   | 18名 |                             |
| 弥生文化研究会       | 16名 | 忽那学芸員                       |
| 古文書の基礎を学ぶ会    | 30名 | 日比学芸員                       |
| 前方後円墳研究会      | 30名 | 忽那学芸員                       |
| 「倭国から大和」を学ぶ会  | 22名 |                             |
| 古代東北アジアと日本研究会 | 19名 |                             |
| 飛鳥・奈良の会       | 27名 |                             |

※1 明治大学農学部兼任講師

※2 元明治大学刑事博物館学芸員

# Ⅲ 広報活動と情報発信

## 1. オンライン発信

### (1) ホームページの公開

#### 利用案内

- ＞開館情報
- ＞団体見学について
- ＞博物館図書室のご案内
- ＞古文書閲覧について
- ＞ミュージアムショップM2
- ＞博物館所蔵資料の利用
- ＞館内の取材・撮影について

#### 交通アクセス

#### 展示紹介

- (常設展示)
  - ＞大学史展示室
  - ＞商品部門
  - ＞刑事部門
  - ＞考古部門
  - ＞常設展ワークシート
- (企画展・特別展)
  - ＞2026年展覧会案内
  - ＞2025年展覧会案内
  - ＞過去の展覧会案内（2004年～2013年）
  - ＞過去の展覧会（2014年～2023年）
  - ＞過去の展覧会案内（2024年～）
- (その他)
  - ＞ONLINEミュージアム
  - ＞Mm×おうちミュージアム

#### 博物館概要

- ＞博物館長ごあいさつ
- ＞理念・目標
- ＞博物館紹介動画
- ＞博物館所蔵資料紹介
- ＞博物館の重点事業
- ＞学芸スタッフ紹介
- ＞広報誌「ミュージアムアイズ」
- ＞博物館年報
- ＞リンク

#### よくある質問

#### 博物館友の会

- ・入会のご案内
- ・行事予定

- ・展示解説ボランティアについて
- ・博物館図書室受付ボランティアの募集について
- ・分科会のご案内

#### 明治大学博物館へ寄付をお考えの方へ

#### ニュース一覧・イベント一覧

#### このような方はこちら

- ＞明治大学博物館の団体見学をご希望の方
- ＞明治大学博物館所蔵資料を出版・放送等に利用される方
- ＞明治大学博物館へ取材を希望される方

#### 明治大学博物館 公式Facebook

#### 明治大学博物館 公式X

#### 明治大学博物館 公式Instagram

#### 明治大学博物館 公式note

#### 明治大学博物館ONLINEミュージアム

#### 明治大学デジタルアーカイブ

#### Mm×おうちミュージアム

### (2) 明治大学博物館ONLINEミュージアムの拡充

#### ①概要

2025年度には、以下のシステム改修とコンテンツ制作を行なった。

#### ア Movable Typeバージョンアップ

コンテンツマネジメントシステムのライセンス更新とバージョンアップを行った。

#### イ 2023～2025年度に刷新した常設展示室のVR撮影

2026年度のVR展示室公開を目指し、3月27日に展示室内の撮影を行った。

#### ウ 新展示版VRに使用するポップアップデータの原稿作成及び音声データの作成

刷新の完了している商品・考古部門についてポップアップの原稿を入稿、コーナー解説の

音声データを制作した。

#### エ 「じっくり見る」コンテンツの追加

考古遺物 3 点（三角縁神獣鏡〈伝京都府〉、尖頭器〈神奈川県月見野遺跡〉、銅戈鋳型〈伝福岡県〉）の3D画像の撮影を行った。

古絵図高精細画像の新規コンテンツは「豊後国延岡領図」「宮崎旧御領絵図」2 点の撮影を行った。

#### ②主要コンテンツ

##### ア 「展示室をあるく」

Matterportを用いて常設展示室をVR化し、自由探索型のバーチャル展示室を実装。

##### イ 「じっくり見る」

オブジェクトVRや3Dモデル、高精細2D画像を用いた資料観察用のインタラクティブコンテンツ

##### ウ 展示会アーカイブ

特別展・企画展ほかの動画コンテンツを配信

##### エ カタログ

前場幸治瓦コレクション資料目録

### (3) 明治大学デジタルアーカイブへの参画

#### ①概要

明治大学デジタルアーカイブは、明治大学が収集・蓄積してきた文化的資産へのアクセスを容易とし、知の創造と人材の育成を通し、自由で平和、豊かな社会を実現することを目的としている。デジタル化未対応資料は、継続的にデジタル化を行い、随時追加公開する予定である。※当サイトは公益財団法人図書館振興財団の2023年度助成を受けて構築された。（サイト利用案内より抜粋）

#### ②掲載画像数（2025年度現在）

ア 刑事部門 181点

イ 考古部門 528点

ウ 商品部門 219点

### (4) Mm×おうちミュージアム

北海道博物館が呼びかけている「おうちミュージアム」の取り組みに参画している。賛同する全国の200館を超える博物館・美術館が「おうちミュージアム」という共通の冠名称を共有して、コロナ禍による臨時休館措置の代替事業として、あるいは自宅学習を余儀なくされている児童・生徒向けのサービスとして、館内情報の発信、また自宅で学べるコンテンツなどの紹介をはじめた。

#### ①収蔵資料紹介コンテンツ（2025年度現在）

##### ア 刑事部門

武家諸法度（PDF）／生類憐みの令（PDF）／公事方御定書（PDF）／武家諸法度一文言の変化と幕府政治の変化―（YouTube）／生類憐みの令―生き物の保護と中野の犬小屋―（YouTube）／公事方御定書（YouTube）／様々な十手（YouTube）／江戸の物価と世直し一揆（PDF）／図解五拾五ヶ條（YouTube）／捕者道具 他（YouTube）／印章の話（YouTube）／高札①②（YouTube）

##### イ 考古部門

亀ヶ岡遺跡出土 遮光器土偶（YouTube）／舟塚古墳出土馬形埴輪（YouTube）／茂呂遺跡出土ナイフ形石器（YouTube）

##### ウ 商品部門

むかしの絵でみることわざ 小学校高学年向け（PDF）／小学5～6年生向け 伝統工芸をまなぶ（PDF）／漆器①②③（YouTube）

#### ②企画展記録動画

備前焼の新たな価値創造／こ・と・わ・ぎ―風刺とユーモア―／因・伯・雲のやきもの―山陰の手仕事から

#### ③展示解説シート

北東北の縄文遺跡群（PDF）

#### ④アクティビティ

武道修行鍛錬競ぬりえ／土器をくっつけて復元してみよう（神奈川県二ツ池遺跡出土：壺形土器・パズル）／めいじろうぬりえ「やよいどき

をぬってみよう！」「アマビエめいじろうをぬ  
ってみよう！」

## (5) 博物館利用案内動画

常設展刷新中のため2025年度は新規なし。

## (6) SNSによる広報活動

原則として休日授業実施日を除く開館日は「X」  
「Facebook」「Instagram」の3媒体に毎日投稿  
した。

### ① 展覧会に係わる広報

#### ア 考古常設展刷新

4/2, 16, 30, 5/8, 14 (5回)

#### イ 企画展「進化する信楽焼の『伝統』」

4/4, 11, 18, 25, 5/2, 9, 16 (7回)

#### ウ 企画展「瓦が語る歴史—前場幸治瓦コレク ションの名品—」

5/23, 30, 6/6, 13, 20, 27, 7/4, 11 (8回)

#### エ 「明治大学図書館所蔵エジプト学貴重書展2」

7/25, 8/1, 18, 25 (4回)

#### オ 共催展「名刀繚乱—くろがねの美」

9/12, 19, 26, 10/3, 10, 17, 24, 31 (8回)

#### カ 「新収蔵品展2025」

11/7, 12, 14, 19, 21, 26, 28, 12/3, 5, 10,  
12, 17, 19 (13回)

#### キ 企画展「弥生時代の再葬墓」

1/31, 2/6, 13, 20, 27, 3/6, 11, 13, 18, 25  
(10回)

### ② 定期コンテンツ

#### ア 自由投稿 通年 (166回)

#### イ 大学史さんぽ 通年 (37回)

## (7) オンラインイベントへの参加

#### ア IMインターネットミュージアム「ミュー ジアム千支コレクション2026」

考古部門収蔵の玉里舟塚古墳出土馬形埴輪を  
エントリーした。12月10日から1月23日ま  
での45日間にわたる投票期間に139票を得て

32位となった。

## 2. 印刷物

### (1) 展覧会リーフレット

#### ア 「瓦が語る歴史前場幸治瓦コレクションの名 品」

1,700部 5月29日発行

#### イ 「新収蔵品展2025」

1,300部 11月14日発行

#### ウ 「弥生時代の再葬墓」

2,200部 2026年2月6日発行

#### エ 「近代の柿右衛門と鍋島」

1,000部 2026年4月7日発行

### (2) 『明治大学博物館年報2024年度』

冊子版 A4判、82頁、100部、2025年9月30日  
発行（配布は学内関係者のみ）

デジタル版 2025年10月14日公開（博物館HP）

### (3) その他

展覧会案内2026年（A4判三ツ折）20,000部

## 3. 報道機関等による取材

### (1) 新聞掲載

#### 企画展「進化する信楽焼の『伝統』」告知

「朝日新聞夕刊」 朝日新聞社

#### 刑事部門展示及び展示資料に言及

「朝日新聞朝刊」 朝日新聞社

#### 商品部門収蔵資料（小田原人形）紹介

「タウンニュース小田原・箱根・湯河原真鶴版」  
タウンニュース

#### 明治大学博物館紹介

「日本経済新聞高校生向け特別版」 日本経済新  
聞社

#### 考古部門収蔵資料（伝群馬県綿貫古墳群出土龍文 金銅透彫付頸甲）紹介

「朝日新聞朝刊」「朝日小学生新聞」朝日新聞社、  
「上毛新聞朝刊」上毛新聞社

**企画展「弥生時代の再葬墓」告知**

「朝日新聞夕刊」朝日新聞社

**企画展「弥生時代の再葬墓」展示内容紹介**

「毎日新聞夕刊」毎日新聞社

**年度版 毎日新聞出版**

明治大学博物館紹介

**『美術界データブック2026』生活の友社**

明治大学博物館案内

**『美術年鑑』2026年度版 美術年鑑社**

明治大学博物館案内

**(2) テレビ放映**

**明治大学博物館紹介**

「THE TIME,」TBS

**明治大学博物館紹介**

「めざましテレビ」フジテレビジョン

**展示資料紹介（『御仕置例類集』、十手）**

「歴史探偵」NHK

**明治大学博物館紹介**

「東京GOOD！TREASURE MAP」テレビ東京

**展示資料紹介（鉄の処女）**

「ダークサイドミステリー」NHK BS

**(3) 雑誌・書籍掲載**

**『楽しく健康東京さんぽ』コスミック出版**

明治大学博物館案内

**『東京周辺大人のミュージアム』昭文社**

明治大学博物館紹介

**『47都道府県 行かなきゃ損する!? 美術館・博物館・図書館』教育劇画**

明治大学博物館紹介

**『歩く地図 東京散歩』成美堂出版**

明治大学博物館案内

**『蛍雪時代』8月臨時増刊 旺文社**

明治大学博物館案内

**季刊『古代文化』77巻-1 古代学協会**

企画展「エジプト学貴重書展2」案内

**『女性セブン』27号 小学館**

明治大学博物館紹介

**『日本歴史』10月号 吉川弘文館**

「新収蔵品展2025」告知

**『サンデー毎日』増刊「大学入試に勝つ！ 2026**

**(4) その他掲載**

**『Hato-san（はとさん）』東京都宅地建物取引業協会全宅保証協会東京本部**

明治大学博物館紹介

**(5) 官公庁刊行物掲載**

**『ちよだ生涯学習ガイドブック』九段生涯学習館**

**『千代田ミュージズ&シアターマップ』千代田区地域振興部文化振興課**

**『東京バリアフリーガイドブック』東京都産業労働局**

以上、明治大学博物館案内

**(6) ウェブサイト掲載**

**「ウォーカープラス」KADOKAWA**

**「千代田ミュージズ&シアターマップ」千代田区地域振興部文化振興課**

**「HugKum」小学館**

**「NAVITIME」ナビタイムジャパン**

以上、明治大学博物館案内

**You Tube「上道流防衛戦術チャンネル」**

**You Tube「忍道家習志野修行チャンネル」**

以上、明治大学博物館 刑事部門 捕者道具紹介

**4. ミュージアムショップ**

**(1) グッズ販売**

見本を展示、受付窓口で刊行物等有償頒布

**2025年度新規開発商品**

三角物神獣鏡デザイン手鏡 1,353個 5月販売開始

Tシャツ（古墳ヘイジーネイビー）S、M、L、XL、  
XXL 計160枚 7月販売開始  
顔だけポーチ 100個 10月販売開始  
ボールペン（刑事）300個 2026年2月販売開始

## **(2) 他館の情報**

大学博物館及び関連する博物館・美術館・学会等  
のリーフレット・チラシを配布

## **(3) 来館者の声**

来館者による展示見学に関するアンケート用紙を  
掲示

## **(4) 友の会ブース**

博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示

## **(5) 博物館からのお知らせ**

博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術  
館関係の記事切り抜きの掲示

# IV 研究活動

## 1. 調査研究

### (1) 刑事部門

#### ① 科研費基盤研究(B) 23H00605 (代表・文学 部牧野淳司教授)「中近世毛利家における知的 体系の復元的研究—明治大学図書館所蔵毛利家 旧蔵書を起点に」(研究期間2023～2027年 度)の実施(研究分担者:日比佳代子)

近代以前、全国各地の大家では、それぞれ特色ある蔵書が形成された。それらのうち、もっとも重要なものの一つが毛利家の蔵書である。現在、毛利家の蔵書は、全国各地の文書館・博物館・図書館に分散して保管されている。所蔵機関の多くで毛利家文庫旧蔵書の整理が行われているものの、毛利家の蔵書の全体像は未だ不明であり、関係諸機関と連携をはかりつつ、かつて毛利家が築いた蔵書の全体像とその性格に迫ることを目指す。明治大学図書館所蔵の毛利家文庫旧蔵書も、毛利家の蔵書を構成する重要な一群であり、本研究ではこれを調査・整理して目録を作成する。同時に、博物館にも毛利家文庫旧蔵の史資料が保管されており、これについても目録を作成する。

2025年度は、博物館所蔵毛利家文庫旧蔵史料の目録刊行に向けて、史料の来歴調査に関する文献調査と山口県文書館所蔵資料との比較調査を行った。

### (2) 考古部門

#### ① 「古墳時代の霞ヶ浦北岸における首長系譜の研究」報告書作成作業

作図が困難な重文資料の3次元計測とデジタルデータ化を国立歴史民俗博物館上野祥史氏に依頼して実施(9月17日)

#### ② 栃木県米山東古墳出土埴輪整理作業

接合・作業を開始。栃木県の埴輪研究者による実見・評価(12月16日)

#### ③ 伝群馬県綿貫古墳群龍文透彫金銅製品の調査研究

元群馬大学教授梅澤重昭氏に関連古墳調査時の聞き取り調査を実施(7月10日)、東京国立博物館で関連古墳出土資料の調査(8月4日)、国立歴史民俗博物館上野祥史氏に依頼して3次元デジタル計測を実施(9月17日、25日)

### (3) 商品部門

#### ① 伝統的工芸品のマーケティング研究

##### ア 甲州印伝細工調査(2025年8月27日)

調査先:印傳屋上原勇七印傳博物館、株式会社印傳屋上原勇七 取締役総務部長出澤忠利氏

調査員:町田一兵(商学部教授)、上原義子(商学部兼任講師・高千穂大学商学部准教授)、外山徹

1961～1980年にかけて収集した印伝細工製品を持参し評価コメントを頂いた。また、商品のデザイン、販路、職人の後継者育成についてヒアリング調査をおこなった。特に東京青山支店の出店を契機とする事業転換と1980年代以降における同社の事業展開については、新規資料収集の根拠となった。

##### イ 江戸切子調査(2025年9月8日)

調査先:江戸切子協同組合広報副部長・清水硝子常務取締役清水祐一郎氏

調査員:上原義子(商学部兼任講師・高千穂大学商学部准教授)、外山徹

江戸切子製造の歴史、商品開発の動向、デザイン、流通、価格設定、ブランド戦略とそれ

に係わる商標使用問題、職人の後継者育成と作家活動などについてヒアリング調査をおこなった。

#### ウ 南部鉄器調査（2026年3月23・24日）

調査先：株式会社岩鋳 営業部長高橋潔充氏、南部鉄器伝統工芸士会 会長八重樫亮氏、水沢鋳物工業協同組合 事務局長戸田努氏

調査員：町田一兵(商学部教授)、上原義子(商学部兼任講師・高千穂大学商学部准教授)、外山徹

南部鉄器と括られている中でも、国の伝統的工芸品指定品とそれ以外の製品に分かれる生産の実態とともに、盛岡市周辺と県南の水沢地区に分かれる産地構造を理解した。そして、各々商品開発、販路、価格設定、職人の後継者育成等についてヒアリング調査をおこなった。岩鋳では、特に売上の4割を占める同社の海外展開の状況について知ることができた。

#### (4) 調査等出張

ひたちなか市埋蔵文化財センター（茨城県、古墳保存対策作業、4月7日：忽那招聘）／東京国立博物館（東京都、修理契約委員会、6月9日、忽那招聘）／兵庫県立考古博物館ほか（兵庫県、収蔵資料関連展示視察、6月27日：忽那）／梅澤重昭氏宅（群馬県、収蔵資料関連調査、7月10日：忽那）／東京国立博物館（東京都、収蔵資料関連資料調査、8月4日、忽那）／岩宿博物館（群馬県、借用予定資料の事前調査、10月3日、忽那）／東京美術倶楽部ほか（東京都、購入候補資料調査、10月17日）／ひたちなか市埋蔵文化財センター（茨城県、古墳保存対策作業、10月28日：忽那招聘）／ひたちなか市埋蔵文化財センター（茨城県、古墳保存対策作業、11月18日：忽那招聘）／友の会前方後円墳研究会北部九州の古墳時代遺跡踏査（福岡県・佐賀県・熊本県、同行講師、11月28・29日：忽那）／ひたちなか市役所（茨城県、市

文化財保存対策委員会、12月26日：忽那招聘）／岩宿博物館（群馬県、借用資料の事前状態確認、1月15日、忽那）／国立歴史民俗博物館（千葉県、資料買取評価会委員、2月25日、忽那招聘）／東京国立博物館（東京都、寄贈品評価委員、3月18日、忽那招聘）

## 2. 研究業績

### (1) 論文・著書

忽那敬三 2025「伝上野国綿貫古墳群出土の龍文金銅透彫製品」『明治大学博物館年報2024』pp.77-82, 明治大学博物館

外山徹 2026「第5章 5.1大学博物館」黒澤浩編著『博物館概論』pp.134-144, 講談社 ※分担執筆

### (2) 学会発表

谷口陽子、ジョイ・マズレック、西田典由、貴田啓子、高嶋美穂、寺島海、忽那敬三、中泉雄太、稲田健一「6世紀の常陸、久慈川・那珂川下流域の形象埴輪にみられる「紺」色：針葉樹のタールを用いた彩色」日本文化財科学会第42回大会、2025年7月6日

Mazurek, J., Taniguchi, Y., Nishida, N., Kida, K., Takashima, M., Terashima, K., Kutsuna, K., Nakaizumi, Y., Inada, K., 2025. Newly discovered "Hitachi navy (conifer tar blue)" from terracotta decoration in Hitachi area of Japan, 6th century, PacificChem 2025: International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025, Honolulu, USA (15-20 December 2025)

### (3) 講演等

該当なし

### 3. 刊行物

#### 『近代の柿右衛門と鍋島 館蔵精陶社資料図録』

編者：外山徹

発行：明治大学博物館（A5判 本文40ページ  
500部）2026年3月31日刊行

2015から2020年度にかけて受贈した、かつて  
東京銀座にあった陶器商の取扱商品の内、まと  
まった数が揃い将来的に研究活用が期待される  
近代の柿右衛門焼、鍋島焼の写真を収録した。

# V 収蔵資料

## 1. 資料収集

### (1) 資料数（部門別）

|                |    | 刑事      | 考古      | 商品    | 合計      |
|----------------|----|---------|---------|-------|---------|
| 受入             | 購入 | 4       | 1       | 12    | 17      |
|                | 受贈 | 1       | 7       | 0     | 8       |
| 合計             |    | 5       | 8       | 12    | 25      |
| 前年度総数          |    | 215,287 | 218,661 | 5,201 | 439,149 |
| 今年度総数          |    | 215,292 | 218,669 | 5,213 | 439,174 |
| 時田昌瑞ことわざコレクション |    |         |         |       | 1,450   |
| 前場幸治瓦コレクション    |    |         |         |       | 10,725  |
| 総合計            |    |         |         |       | 451,349 |

※実測図・書籍・写真は含めない

### (2) 購入資料一覧

| 種別・分類 | 資料名                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 錦 絵   | 正月元日 大名規式行列図<br>大日本物産図会東京錦絵製造之図<br>東都青山絵図<br>江戸名勝図会 虎の門                                                                                                                                                                                                                            |
| 考古遺物  | 出流原遺跡顔面付壺形土器体験用レプリカ（製作）                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 商品資料  | 京焼・清水焼（株式会社熊谷聡商店＝K＋（イコールケープラス）ブランド）<br>置風鈴（黒錆）<br>花結晶 カップ（黄）<br>花結晶 ボウル（青）<br>花結晶 デミタスカップ（白）<br>BEAK BOWL 5脚セット<br>甲州印伝細工（株式会社印傳屋上原勇七）<br>白詰草 ハンドバッグ<br>白詰草 スマホポシェット<br>INDEN EST.1582 NYミラー Z<br>[RED×RED/ Chevron]<br>INDEN EST.1582 NYキーケースA<br>[BLU×BLK/ Seven Treasure（七宝繫ぎ）] |

キース・ヘリングコレクション サ  
コッシュ[Beige]  
小銭入れ（黒地/白漆/爪唐草）  
札入れE（赤地/白漆/とんぼ）

### (3) 受贈資料

| 部門 | 資料名                  |
|----|----------------------|
| 刑事 | 蜂須賀茂宛特命委任状           |
| 考古 | 製塩土器復元品、福岡県行橋市周辺採集石器 |
| 商品 | なし                   |

### 《参考》年度別収蔵数（部門別）

|      | 刑事 |    | 考古 |    | 商品 |     |
|------|----|----|----|----|----|-----|
|      | 購入 | 受贈 | 購入 | 受贈 | 購入 | 受贈  |
| 2020 | 8  | 8  | 0  | 1  | 1  | 109 |
| 2021 | 2  | 0  | 1  | 7  | 0  | 14  |
| 2022 | 7  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0   |
| 2023 | 1  | 0  | 1  | 0  | 19 | 5   |
| 2024 | 1  | 1  | 2  | 1  | 16 | 3   |

### (4) 寄託資料

#### ア 『刑罪大秘録』他3点

受託期間2022年4月1日～2027年3月31日

※5年ごとに更新。

#### イ 故里見庫男氏所蔵文書（3,373点）

受託期間2025年4月1日～2030年3月31日

福島県いわき市域の村方文書。譜代大名内藤家の旧領地域。地元の郷土史研究団体「いわき地域史学会」及び大学院文学研究科日本史専攻生等による調査・整理作業がおこなわれた史料群。  
※5年ごとに更新。

#### ウ 大英博物館所蔵ガウランド写真資料複写

（458点）

受託期間2024年4月1日～2027年3月31日

※3年ごとに更新。

**エ 茨城県三昧塚古墳出土冑・短甲・小札**

受託期間2024年4月1日～2027年3月31日

※3年ごとに更新。

**(5) 資料修復**

**① 刑事部門**

絵図修復 2点

料紙の剥離剥ぎ・フラットニング

**② 考古部門**

単鳳環頭 (A-84)

保存処理

**③ 商品部門**

本年度は該当なし

**2. 資料整理**

**(1) 刑事部門**

- ・文学部日本史学専攻の教員・院生・学生との古文書共同調査（8回、教員・学生・院生のべ103名参加）
- ・博物館所蔵毛利家文書の来歴に関する調査
- ・錦絵の保存容器入れ替え
- ・故島田正郎先生所蔵フィルムの調査
- ・古文書の酸性封筒から中性紙封筒への交換
- ・古文書資料の史料目録との照合による欠本確認
- ・マイクロフィルム調湿剤
- ・ガス吸着材入れ替え

**(2) 考古部門**

- ・坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備
- ・収蔵資料の所在確認
- ・栃木県米山東古墳出土資料洗浄・接合

**(3) 商品部門**

- ・資料台帳カード作成（旧14号館ゴム製品・合成樹脂製品・紙類ほか）

・資料保存容器作製

・架蔵態勢の整備（再梱包、収納箱ラベルの更新等）

・資料原簿のデジタル化

**3. デジタルデータ化**

**(1) 刑事部門**

**① 錦絵撮影**

20点

**② 大型絵図の高精細画像撮影**

豊後国延岡領図（内藤家文書3-23-11-36-26）

宮崎旧御領絵図（内藤家文書3-23-11-36-27）

**(2) 考古部門**

**① フォトグラメトリーによる3Dモデル制作**

伝京都府三角縁神獣鏡、伝福岡県銅戈鋳型、月見野遺跡尖頭器

**② 資料撮影**

館蔵鏡34面

**③ 坂本万七写真資料デジタル化**

法隆寺関連写真28点

**④ 調査資料のデジタル化**

調査風景写真387点

**(3) 商品部門**

**① 資料撮影**

観光土産文化資料31点

**4. 資料利用**

**(1) 資料貸出・掲載・撮影件数**

|               | 刑事          | 考古            | 商品       | その他 | 合 計  |
|---------------|-------------|---------------|----------|-----|------|
| 一次資料<br>出 品 数 | 0           | 727点          | 0        | 0   | 727点 |
| レプリカ<br>等出品数  | 0           | 7点            | 0        | 0   | 7点   |
| 撮 影           | 416点        | 81点           | 0        | 0   | 497点 |
| 掲 載 等         | 138点        | 308点          | 2点       | 0   | 448点 |
| 合 計           | 99件<br>554点 | 71件<br>1,123点 | 1件<br>2点 | 0   |      |

《参考》年度別資料利用数推移

|      | 出展数（レプリカ内数） | 撮影  | 掲載  |
|------|-------------|-----|-----|
| 2020 | 790（77）     | 133 | 527 |
| 2021 | 707（8）      | 439 | 623 |
| 2022 | 587（0）      | 652 | 414 |
| 2023 | 865（14）     | 811 | 574 |
| 2024 | 848（2）      | 839 | 564 |

(2) 収蔵資料閲覧

|            | 刑事部門         |        | 考古部門 | 商品 |
|------------|--------------|--------|------|----|
| 調 査<br>閲 覧 | 古文書          | マイクロ   | 54件  | 0件 |
|            | 770点<br>一括1件 | 156リール |      |    |
| 人 数        | 67名          |        | 100名 | 0名 |

《参考》年度別資料閲覧数推移

|      | 刑事     |         |     | 考古 |
|------|--------|---------|-----|----|
|      | 古文書（点） | マイクロ（本） | 人数  | 件数 |
| 2020 | 31     | 20      | 12  | 15 |
| 2021 | 807    | 196     | 48  | 15 |
| 2022 | 1,041  | 235     | 78  | 48 |
| 2023 | 982    | 247     | 78  | 38 |
| 2024 | 1,144  | 132     | 102 | 54 |

(3) 資料貸出先・展覧会・出展資料一覧

①刑事部門

本年度は該当なし。

②考古部門

ア 岩宿博物館常設展示

貸出期間：2025年7月1日～2026年6月30日  
群馬県武井遺跡出土石器 他 計330点

イ 東京国立博物館平成館考古展示室（特別企画）「ビフォー縄文 旧石器時代発見80周年」

貸出期間：2025年12月1日～2026年8月31日  
群馬県岩宿遺跡出土ナイフ形石器 他 計40点

ウ 福島県立博物館令和7年度秋の企画展「発掘ふくしま00(ゼロ)―ふくしま考古学事始め―」

貸出期間：2025年10月1日～12月25日

福島県南御山遺跡出土鉢型土器 他 計81点

エ 小美玉市小川資料館企画展「荒海式土器―東関東最古の弥生土器―」

貸出期間：2026年2月21日～5月30日

茨城県殿内遺跡出土土器 計7点

オ 国立歴史民俗博物館総合展示第1展示室（先史・古代）継続出品

貸出期間：2025年4月1日～2026年3月31日  
長野県矢出川第1遺跡出土石器 他 計28点

カ 岩手県立博物館常設展示及び調査研究資料

貸出期間：2025年4月1日～2026年3月31日  
岩手県雨滝遺跡出土資料 計29点

キ 港区立郷土歴史館常設展示

貸出期間：2025年4月1日～2026年3月31日  
東京都芝公園出土須和田式壺形土器 他 計109点

ク 市立市川考古博物館常設展示

貸出期間：2025年4月1日～2026年3月31日  
佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器 他 計80点

ケ 佐賀県立博物館常設展示「佐賀県の歴史と文化」

貸出期間：2025年4月1日～2026年3月31日  
金印「漢委奴国王」（複製） 計1点

コ 東京国立博物館継続出品（3年更新の3年目）

貸出期間：2023年7月1日～2026年6月30日  
重要文化財 神奈川県夏島貝塚出土深鉢形土器 計1点

サ 明治大学付属明治高等学校・中学校1階ホワイエ展示ケース（6年目）

貸出期間：2020年11月26日～ 東京都下原・富士見町遺跡出土石器 他 計28点

③商品部門

本年度は該当なし。

#### (4) その他の資料利用

##### ①刑事部門

###### ア 延岡城・内藤記念博物館

マイクロフィルムの複製を行い、延岡城・内藤記念博物館の業務で行う調査に使用 内藤家文書マイクロフィルム リールNo.1233～1283

###### イ 高垣亜矢

山川出版社発行『皮革流通と近世社会』にて史料内容を紹介 内藤家文書 1-23-641 牛馬皮方覚 他

##### ②考古部門

本年度は該当なし。

##### ③商品部門

本年度は該当なし。

#### (5) 資料掲載利用一覧

##### ①刑事部門

常設展示室 刑事部門 ギロチン 他 帝京大学ホームページ

近衛砲兵暴発録之画 「関口宏の一番新しい近現代史 #155 憲法制定・国会開設への動き」 BS-TBS

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 『小石川後楽園唐門復元工事報告書』 東京都東部公園緑地事務所

阿波国板野郡那東村文書 『阿波国板野郡那東村文書』(30周年記念誌) 板野町古文書を読む会

武蔵国多摩郡日野本郷文書 6-書冊・横帳-K-32 土入樋板橋土橋仕来書上帳 上野さだ子「江戸時代の御林(領主林)について」(『多摩地域史研究会会報』166号) 多摩地域史研究会  
鑑札 株仲間札 「英雄たちの選択 田沼意次大ピンチ!～意知 殿中刺殺事件～」 NHK BSプレミアム BS4K

鑑札 株仲間札 他 高等学校日本史探究教科書『精選日本史探究 新訂版』(紙媒体および

デジタル媒体) 実教出版

今川仮名目録 第29条 「NHK高校講座 日本史 第16回 『下剋上の社会と戦国大名』」(再放送・配信) NHK Eテレ

出羽国置賜郡上伊佐沢村文書 21-書状-A-18 第九大区七小区上伊佐沢村消防組取調 他『長井市史』(平成版) デジタルアーカイブ 長井市

内藤家文書 3-23-11-35-6 有馬家中延岡城下屋敷付絵図 他 延岡城跡復元CG動画内に掲載

『徳川幕府刑事図譜』 御様の図 「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪 国立公文書館」第1弾 NHKオンデマンド

邪蘇宗門御改帳 延宝五年 2026共通テスト直前対策問題集 Vol.12 歴史総合, 日本史探求』河合出版

図解五拾五ヶ條 令和8年度用高等学校検定教科書『詳述歴史総合 新訂版』(紙媒体・指導用教科書・デジタル教科書) 実教出版

常設展示室内観風景 駿台外語グローバルビジネスカレッジエアライン学科 Instagram

『徳川幕府刑事図譜』 斬罪仕置之図 「あなたの知らない京都旅 幕末のモテ男 土方歳三 本当の素顔」 BS朝日

邪蘇宗門御改帳 延宝五年 中山口村 『社会の自主学习 歴史2・3』(紙媒体・PDF版) 新学社

鑑札 株仲間札 「NHK高校講座 日本史 第23回 『幕藩体制の動揺と政治改革』」(再放送) NHK

地方測量之図 「NHK高校講座 日本史 第25回 『新しい学問の形成と化政文化』」(再放送) NHK

神田昌平橋模様換掛替目鏡橋要路光景之眞図「じゅん散歩」 テレビ朝日

内藤家文書 3-23-11-35-6 有馬家中延岡城下屋敷付絵図 「のべおかさるきブラアガタ

第三弾～延岡の始まりと今物語りその3～」リーフレット クリップ

**内藤家文書1-7-148 安政七年万覚帳 他**  
小野塚謙太編著『真説 桜田門外の変』（仮）  
メディアパル

**生麦発殺之図** 「開運！なんでも鑑定団」 テレビ東京

『徳川幕府刑事図譜』 旧江戸伝馬町牢獄内 屋の図 隔週刊『鬼平犯科帳DVDコレクション 再刊行版』第23号 デアゴスティーニ・ジャパン

**明治元戊辰年五月十五日東台戦争落去之図** 千代田区立日比谷図書文化館企画展「千代田の大奥」展示パネル・図録 千代田区、千代田区教育委員会

**常設展示室 刑事部門 ニュルンベルクの鉄の処女** 「ダークサイドミステリー 不老不死伝説～八百比丘尼からサンジェルマン伯爵まで～」 NHK

『徳川幕府刑事図譜』 旧江戸伝馬町牢獄内 屋の図 『歩く・見る・学ぶ 江戸古地図さんぽ』朝日新聞出版

**鑑札 株仲間札** 「偉人の年収How much?」NHK

**城州伏見に於て戦争の図（慶応4年正月）** 恵那市「佐藤一斎學びのひろば」施設内「佐藤一斎を感じるシアター」映像素材として使用

**内藤家文書 1-14-6 承応三年案詞** 令和7年度企画展「遠野和紙」（展示、パンフレット掲載）いわき市勿来関文学歴史館

『御仕置例類集』 他 「歴史探偵 長谷川平蔵と火付盗賊改」 NHK

**相模国足柄上郡千津嶋村瀬戸家文書 12-書状-C-20 永代売渡申田地之事** 荒木仁朗「近世小田原地域の地主小作慣行—不在地主を中心に—」（『近世人の身分格式と地域社会』）岩田書院

『徳川幕府刑事図譜』 旧江戸伝馬町牢獄内 屋

**の図** Khohchahar E. Chuluu, Junichiro Matsuzono 「Asia:Japan」(『The Routledge Handbook of Global Early Modern Prison and Confinement』) Routledge

**内藤家文書 五十三次ねむりの合いの手 鮎やな** 「ロクいち！福岡」NHK福岡放送局

**鑑札 株仲間札** 『年表でたどる日本の歴史—縄文から令和まで— 第3巻 江戸時代 江戸幕府と、文化・くらし』 汐文社

**下野国安蘇郡閑馬村絵図 他** 「大学入学共通テスト歴史総合、日本史探究 単元別問題集」学校販売教材 駿台文庫

**山城国綴喜郡江津村文書 46-書冊・横帳-A-633 禁裏様御料御除料申年御蔵詰メ諸入用勘定帳** 京田辺市史編さん委員会『京田辺市史資料編第2巻 中世・近世資料』京田辺市  
**御定書百箇條** 「偉人の年収 How much?」NHK

**神田昌平橋模様換掛替目鏡橋要路光景之真図** 「日本探求アカデミックバラエティー 火曜の良純孝太郎」テレビ朝日

『徳川幕府刑事図譜』 **拷問の図（海老責）** 「歴史探偵 長谷川平蔵と火付盗賊改」 NHK

**名和コレクション 八州道案内 目明し（二足わらじ）所用 赤房付十手** 『ポプラディアプラス 日本の伝統文化』ポプラ社

**内藤家文書 2-10-8 延岡砲台絵図** 堀田孝博『西南戦争関連遺跡調査・活用事業成果報告書』宮崎県埋蔵文化財センター

**吉田神社鈴鹿家文書 3-書冊-イ-6 各国神社宮司、神主氏名控** 江副秀昭『佐賀江副一族とは何か』鳥影社

『徳川幕府刑事図譜』 旧江戸伝馬町牢獄内 屋の図 他 NHK WORLD HISTORY UNCOVERED「鷹狩りと将軍～徳川家の戦略～」(本放送・配信) NHK WORLD

**水戸藩小石川御屋敷御庭之図** 赤澤真理「庭園の名所としての八橋の風景」(展覧会図録『三

井記念美術館 開館20周年特別展 生誕1200年 歌仙 在原業平と伊勢物語』 三井記念美術館

**内藤家文書 1-31-124 延陵史談 他** 延岡市教育委員会『延岡市史』史資料編 近世1 延岡市

『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 「THE JUDICIAL SYSTEM AND COURTS IN JAPAN」(裁判所ホームページにて動画配信) 最高裁判所

**伊勢国度会郡田曾浦文書 27-書状-P-5 御城米浦手形之事** 糸川風太「近世城米輸送体制の確立と変容」(『史学雑誌』) 史学会

**出羽国村山郡陣場村文書 44-書冊・横帳-A-3 都而記録控** 佐伯花香「幕末期佐倉藩飛地羽州村山領における藩政展開と領主一領民関係の変遷」(明治大学卒業論文)

**地方測量之図** 『学研まんがNEW日本の歴史』 付属DVD・WEB視聴 Gakken

**鑑札 株仲間札** 「さかのぼり日本史 江戸“天下泰平”の礎」第2回 飢饉が生んだ大改革(NHK ONEで1年間配信) NHK

**今川仮名目録 第8条** 釘貫亨『日本語の書き言葉はどう変わってきたか』(紙媒体・電子版) 中央公論新社

**今川仮名目録追加 第6条** 『歴史人』4月号 ABCアーク

**常設展示室 他** 黒澤浩編著『博物館概論』 講談社

**内藤家文書 増補追加目録5-12 五十三次ねむりの合の手** 吉村洋一『幕末女道中記(仮題)』(史料を現代文に改めたものを掲載)

**8-書冊・横帳-U-27 設大工仲間定法二付諸証文一札案文帳他一括** 田坪賢人「近世中後期京都における大工組の存在形態」(『京都学・歴彩館紀要』第9号) 京都府立京都学・歴彩館

『板倉家文書』「亀山市史」ウェブ版 亀山市名和コレクション 鎖鎌(石見守直次作) ネットミュージアム兵庫文学館 企画展示「宮本

武蔵館」

**鑑札 株仲間札** 『フォレストガール 社会』 『フォレストガール社会 PDF』 スプリックス 城州伏見に於て戦争の図(慶応4年正月)

「YOUは何しに日本へ?」(本放送・配信) テレビ東京

『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 他 「タイムスクープハンター スペシャル 幕末決死行! ~江戸牢獄・限界長屋の実態~」 NHKオンデマンド

**往古うハなり打の図** 「タイムスクープハンター 修羅場! 決戦の妻たち」 NHKオンデマンド **地方測量之図 他** NHKデジタル教材「NHK for School」

**内藤家文書 1-6-143 文化十三年七月万覚書 他** 大賀郁夫「近世期における他領引合事件と地域社会」(『宮崎公立大学人文学部紀要』第33巻第1号) 宮崎公立大学

## ②考古部門

**馬渡埴輪製作遺跡発掘風景** 常陽藝文2025年6月号『特集虎塚古墳』 公益財団法人常陽藝文センター

**群馬県岩宿遺跡出土打製石器** 『2025年版ウイニングサマー1年』(紙版・デジタル版) 株式会社好学出版

**塚原古墳石室内に立つガウランド** 『Japan: A History in Objects』 British Museum Press (大英博物館出版局)

**埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他** 『2025年度関関同立大チャレンジ日本史(高3生対象)』 河合塾

**茨城県玉里舟塚古墳形象埴輪列推定復元図** 常陽資料館企画展「はにわー深い眠りからさめた埴輪たちー」 展示パネル 公益財団法人常陽藝文センター

**神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器** 『8月ゼミ小6社会』 塾用プリント 株式会社ティエラコム

**北海道白滝服部台遺跡出土細石刃 他** 高等学校用検定教科書『日本史探究 新訂版』実教出版

**群馬県岩宿遺跡出土打製石器** 図書館蔵書向け書籍『年表でたどる日本の歴史』全5巻（仮）株式会社汐文社

**島根県出雲市知井宮多聞院遺跡 調査画像** 出雲弥生の森博物館2025ギャラリー展Ⅱ「知井宮多聞院遺跡―弥生時代の貝塚を探る―」展示パネル、解説パンフレット、広報媒体 出雲弥生の森博物館

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧** 『増補改訂版 全彩漫画世界歴史』（『増補改訂版 学研まんが NEW世界の歴史』台湾翻訳版）Walkers Cultural Co., Ltd. / Little Bear Books

**茨城県玉ひたちなか市鉾の宮2号墳調査画像** 企画展「はにわ―深い眠りからさめた埴輪たち―」展示パネル 公益財団法人常陽藝文センター

**佐賀県多久三年山遺跡 遺物出土状況画像** 企画展「発掘された日本列島2025―地域展：洞窟王国佐世保―」図録等 佐世保市

**千葉県市川市堀之内貝塚調査画像（シーⅡ地点（Bトレンチ）の貝層、イボキサゴ層、慶應義塾大学考古学研究室昭和29年合同調査）** 『市川市史 歴史編Ⅰ―地形と環境―（通巻1）』市川市

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧** 『2025年度 考える力・プラス中学受験講座 6年生 中学入試合格テキスト／1月号／共通』ベネッセコーポレーション

**茨城県玉里舟塚古墳出土力士埴輪** 特別展「埴輪大相撲 豊川場所」における印刷物 豊川市桜ヶ丘ミュージアム

**昭和40年茨城県馬渡遺跡A地点埴輪窯全掘状況** 馬渡埴輪製作遺跡発掘60周年記念クリアファイル いばらき古墳旅まっぶ編集部

**岩宿Ⅰ石器文化の石器（約35,000年前）（岩宿博物館HPの画像）** 『陽光子 祈言集 解

説』株式会社L・H陽光出版

**青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶** 『1・2年の入試総復習 社会』塾用テキスト 株式会社学書

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他** 河合塾ONE 日本史『基本事項解説』（映像授業）河合塾

**岩宿遺跡の発掘調査時に撮影された写真 他** 「出張！岩宿博物館 西鹿田中島遺跡ガイダンス施設内展示」展示パネル、リーフレット、各種広報 岩宿博物館

**福島県南御山遺跡出土資料・発掘調査風景 他** 『企画展「発掘ふくしま00（ゼロ）―ふくしま考古学事始め―」展示パネル、図録 福島県立博物館

**茨城県馬渡埴輪製作遺跡発掘調査写真** 全国埋蔵文化財法人連絡協議会関東ブロック協議会主催の関東考古学フェアスタンプラリーの景品カレンダー 全国埋蔵文化財法人連絡協議会関東ブロック協議会

**千葉県江原台遺跡出土山形土偶** 令和7年度ミニ企画展「いちのへ土偶総選挙」展示パネル 御所野縄文博物館

**岩手県雨滝遺跡出土石鏃** 2025年度冬期テキスト「共通テスト日本史探究」代々木ゼミナール

**埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器** 「段階突破テスト」株式会社ビーコン

**博物館展示風景写真** 『教科書とあるく―東京都の史跡と文化財』（仮）株式会社山川出版社  
**埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他** デジタル教材『大学入試対策デジタル実践問題集歴史総合、日本史探究』株式会社帝国書院

**埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他** 『図説日本史通覧』高等学校地歴科 日本史探究 副教材（資料集）株式会社帝国書院

**置戸安住遺跡出土石器の実測図** 『安蒜将雄先生傘寿記念論文集』（仮称）雄山閣

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他** 『2026年度（高校・高卒生対象）「日本史写真資料集」』 学校法人 河合塾

**岩手県雨滝遺跡出土石鏃 他** 2025年度3学期テキスト「共通テストファイナル（歴史総合、日本史探究）」 代々木ゼミナール

**栃木県篠山貝塚縄文式深鉢形土器** 『Ⅲ期ゼミテキスト&テスト 小6社会』（塾用問題集、テスト含む） 株式会社学書

**茨城県玉里舟塚古墳出土馬形埴輪** 茨城新聞文化プラス面『いばらきの歴史と文化』（仮） 茨城新聞社

**愛知県豊橋市五貫森貝塚出土磨製石器** 『さなる式 歴史Ⅰ』 塾用問題集 株式会社学書

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧** 『2026年度中学（中1生対象）「歴史Ⅰ」』 河合塾

**茨城県馬渡埴輪製作遺跡発掘調査写真** 展示「はにわ道」冊子「発掘60周年馬渡埴輪製作遺跡」 ひたちなか市教育委員会

**京都府深草遺跡出土石包丁** 河合塾HP（河合塾指導者POTAL） 河合塾

**2005年4月5日NHK教育テレビ「高校講座・日本史」第1回「日本のあけぼの 旧石器時代と環境」でナイフ形石器（黒曜石製・黒曜石以外）計2点を撮影した映像** NHKオンデマンドでの番組配信「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪長野県立歴史館」 日本放送協会（NHK）

**伝上野国綿貫古墳群金銅龍文透彫製品** 朝日小学生新聞 朝日学生新聞社

**高知県不動ヶ岩屋遺跡出土石鏃** 高等学校向け問題集『Winning COM.-PASS資料読解 日本史＜前近代編＞』 東京法令出版株式会社

**伝群馬県綿貫古墳群出土金銅龍文透彫製品解説シート（頸甲の模式図） 他** 上毛新聞（2025年12月18日） 上毛新聞社

**伝群馬県綿貫古墳群出土金銅龍文透彫頸甲一式** 『朝日新聞』「国宝級？龍門の金具 よろい飾り

か、群馬の古墳より出土」 朝日新聞社

**岩手県雨滝遺跡出土石鏃 他** 2026年度1学期テキスト『ハイレベル日本史問題演習』 代々木ゼミナール

**神奈川県夏島貝塚貝層断面画像** 敬文舎刊〈ヒスカルセクション〉シリーズ『縄文時代』 株式会社敬文舎

**伝福岡市東区八田出土中細形銅戈鋳型** 展覧会図録『特別展 魔法の歴史スコープ』 福岡市博物館

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他** 河合塾教材『2026年度基礎シリーズ（高卒生対象）「完全習得タイム日本史」』 河合塾

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他** 河合塾教材『2026年度プライムステージ地理歴史「日本史」』 河合塾

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他** 塾生専用WEBサイト『2026年度基礎シリーズ（高卒生対象）「完全習得タイム日本史」』 河合塾

**群馬県岩宿遺跡出土石斧 他** 『サクセスガイド日本史探究 まとめ・演習・資料読解』 株式会社山川出版

**島根県出雲市知井宮多聞院遺跡 調査画像（大塚初重先生撮影分） 他** 研究紀要第14集『出雲市地井宮多門院遺跡の出土動物遺存体・骨角器の再整理調査報告』 出雲弥生の森博物館

**前場コレクション千代廃寺軒丸瓦（申請者撮影画像）** 『からさわ古窯跡群調査報告書』「第4章 考察第3節 消費遺跡への供給」 高橋香

**「石器 NHK for school」（群馬県岩宿遺跡出土石斧 他 計4点を撮影した映像）** テレビ番組「今どきの「社会科」NHK for schoolで学び直し（仮）」 NHK Eテレ

**舟塚古墳埋葬施設全景** 『小美玉市文化財ガイドマップ』 小美玉市教育委員会

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧** 『2026年度 考える力・プラス中学受験講座 5年生 中学入

試授業テキスト／8月号／共通』ベネッセコーポレーション

**神奈川県夏島貝塚出土サメ歯加工品** 『茨城県考古学協会誌』第38号所収「東のサメ歯 関東編」 鈴木素行

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他** 「河合塾基本解説映像日本史」(塾生マイページ) 河合塾

**岩宿遺跡発掘調査風景** リーフレット 特別企画「ビフォー縄文 旧石器時代発見80周年」 東京国立博物館

**群馬県武井遺跡出土槍先形尖頭器** 『中1 5科一問一答をひとつひとつわかりやすく』 株式会社Gakken

### ③商品部門

**時田昌瑞ことわざコレクション II ことわざ関係資料 2刷物31 人ころ浮世乃たとへ 他** 『Bruegel's Moral Message (仮題)』 Mercatorfonds

## 5. 図書

### (1) 蔵書数

|    |              |         |
|----|--------------|---------|
| 図書 | 全所蔵冊数 (冊)    | 136,115 |
|    | 和 (冊)        | 102,622 |
|    | 洋 (冊)        | 1,258   |
|    | 製本雑誌 (冊)     | 32,235  |
| 雑誌 | 全所蔵冊数 (タイトル) | 3,068   |
|    | 和 (タイトル)     | 3,012   |
|    | 洋 (タイトル)     | 56      |

### (2) 購入・寄贈数

#### ①図書受入数

| 総受入冊数              |    |   | 1,089 |
|--------------------|----|---|-------|
| 図書受入冊数<br>*製本雑誌を含む | 購入 | 和 | 71    |
|                    |    | 洋 | 0     |
|                    | 寄贈 | 和 | 1,003 |
|                    |    | 洋 | 15    |

#### ②雑誌継続タイトル数

| 総受入種類数 |   | 240 |
|--------|---|-----|
| 雑誌受入種数 | 和 | 239 |
|        | 洋 | 1   |

# VI 統計・資料・規定

## 1. 入館データ

### (1) 入館状況

#### ①開館日数・時間

##### ア 休館日

8月10日～16日（夏季休業）、12月25日～2026年1月7日（冬季休業）

臨時休館日：2026年2月4日、5日、16日（入学試験にともなう入構制限により休館）

##### イ 開館時間

月曜～金曜：10:00～17:00、土曜：10:00～16:00

##### ウ 月別開館日数

|      | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計   |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 開館日数 | 26 | 24 | 25 | 27 | 16 | 23 | 28  | 24  | 21  | 19 | 19 | 25 | 277 |

##### エ 月別入館・利用者数

|       | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月    | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    | 計      |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 常設展示室 | 3,927 | 3,611 | 3,957 | 4,629 | 5,465 | 3,243 | 5,895  | 4,273 | 3,987 | 2,685 | 2,625 | 4,405 | 48,702 |
| 特別展示室 | 2,067 | 1,397 | 2,514 | 2,044 | 3,704 | 1,783 | 4,786  | 1,741 | 2,799 | 0     | 1,902 | 2,817 | 27,554 |
| 図書室   | 327   | 487   | 419   | 427   | 158   | 339   | 470    | 504   | 488   | 269   | 133   | 168   | 4,189  |
| 教室等利用 | 143   | 144   | 200   | 197   | 485   | 192   | 128    | 146   | 206   | 180   | 141   | 188   | 2,350  |
| 計     | 6,464 | 5,639 | 7,090 | 7,297 | 9,812 | 5,557 | 11,279 | 6,664 | 7,480 | 3,134 | 4,801 | 7,578 | 82,795 |

#### 《参考》年度別入館・利用者数

|       | 2018   | 2019    | 2020  | 2021   | 2022   | 2023   | 2024    | 2025   | 2004～2025 |
|-------|--------|---------|-------|--------|--------|--------|---------|--------|-----------|
| 常設展示室 | 64,379 | 65,118  | 2,553 | 10,360 | 30,098 | 41,773 | 69,544  | 48,702 | 938,714   |
| 特別展示室 | 18,649 | 41,855  | 1,052 | 8,138  | 21,854 | 22,135 | 83,495  | 27,554 | 481,468   |
| 図書室   | 5,730  | 5,057   | 1,183 | 3,069  | 3,414  | 3,914  | 4,595   | 4,189  | 102,574   |
| 教室等利用 | 3,780  | 3,084   | 0     | 0      | 350    | 1,349  | 1,783   | 2,350  | 36,767    |
| 計     | 92,538 | 115,114 | 4,788 | 21,567 | 55,716 | 69,171 | 159,417 | 82,795 | 1,559,523 |

#### ②特別展入館者数

2025年度は開催なし

### ③主催・共催展・その他の展覧会入館者数

| 名称                    | 期間            | 開館日数 | 入館者数   |
|-----------------------|---------------|------|--------|
| 進化する信楽焼の「伝統」          | 3月26日～ 5月20日  | 45日間 | 3,585名 |
| 明治大学商品陳列館企画展の軌跡       |               |      |        |
| 瓦が語る歴史・前場幸治瓦コレクションの名品 | 5月29日～ 7月16日  | 42日間 | 4,363名 |
| 明治大学図書館所蔵 エジプト学貴重書展 2 | 7月28日～ 8月29日  | 20日間 | 4,219名 |
| 名刀繚乱ーくろがねの美ー          | 9月20日～11月 4日  | 38日間 | 6,452名 |
| 新収蔵品展2025             | 11月14日～12月14日 | 34日間 | 4,421名 |
| 弥生時代の再葬墓              | 2月 6日～ 3月26日  | 38日間 | 4,719名 |

## (2) 団体見学

### ①月別集計一覧

#### ア 学校団体

|     | 4月 | 5月 | 6月  | 7月  | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月 | 3月 | 合計    |
|-----|----|----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|-------|
| 団体数 | 4  | 4  | 14  | 12  | 0  | 3  | 19  | 8   | 7   | 5   | 3  | 1  | 80    |
| 人 数 | 48 | 53 | 752 | 382 | 0  | 76 | 751 | 223 | 264 | 156 | 68 | 13 | 2,786 |

#### イ 一般団体

|     | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計  |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 団体数 | 3  | 3  | 2  | 3  | 2  | 3  | 11  | 8   | 9   | 1  | 0  | 0  | 45  |
| 人 数 | 65 | 83 | 37 | 45 | 59 | 39 | 269 | 155 | 176 | 3  | 0  | 0  | 931 |

### ②団体一覧

#### 2025年4月

穂積株式会社、神奈川県立鶴嶺高等学校3年生、NHK学園、かたばみ会、福島県郡山市立行健中学校、小石川淑徳学園高等学校、國學院大學栃木高等学校歴史部

#### 5月

袖ヶ浦市郷土博物館、花巻東高等学校1年生、考古学・古代史・探訪サークル、Fairleigh Dickinson University、ネバダ大学リノ校、保善高等学校地歴部、柏シルバー大学院

#### 6月

明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部グローバルマネジメント専攻教授吉田成利ゼミ、横須賀市立横須賀総合高等学校2年次、昌平高等学校1年生、明治大学国際日本学部長尾ゼミ、近江八幡市立八幡東中学校3年生、明治大学付属中野中学校2年生、水戸啓明高等学校1,2年生、中央学院高等学校2年生、土浦ウォーキングクラブ、埼玉栄中学校1年生、東京しごとセンター「東京ミドルワークチャレンジ」、桐陽高等学校3年生、専修大学法学入門ゼミナール、白梅学園高等学校2年生、茨城県立下館第一高等学校、栃木県立今市高等学校1年生

#### 7月

十文字高等学校、神田女学園高等学校2年G組、NPO法人東京シティガイドクラブ・歴史研究探索グループ、神田女学園高等学校2年E組、神田女学園高等学校2年B, C組、神田女学園高等学校2年D組、東京学

館浦安高等学校1年生、大田区郷土の会、武相高等学校1年生、神奈川学園中学校高等学校、明治大学付属八王子中学校、江戸川女子中学校3年生、さいたまふるさと塾、東京都立小台橋高等学校、保善高等学校

## 8月

川崎の歴史と文化を識る会、ことぶき・さぎのみや

## 9月

中山大学生団体、武蔵野の意味を探る、明治学院中学校、金山町立金山中学校、東村山年金者組合 小さな旅、早稲田慶応八千代OB会

## 10月

千葉県立佐原高等学校PTA、茨城県立日立第一高等学校1年生、NPO法人東京シティガイドクラブ・歴史研究探索グループ、福岡県立八幡高等学校、埼玉県立本庄高等学校、中村学園女子高等学校2年生、群馬県立高崎北高等学校1年次、函館ラ・サール高等学校1年生、東京都立小松川高等学校PTA、ふなぼり日本語クラブ、前橋育英高等学校1年生、富山県立滑川高等学校2年生、千葉県立市川東高等学校1年生、清和大学今井ゼミ、東京風景印歴史散歩の会、富士宮西高等学校PTA、千葉県立千城台高等学校1年生、長野県岩村田高等学校1年生、千葉県立成田国際高等学校PTA、大妻多摩中学高等学校、NPO法人あおぞらin国分寺、群馬県立太田東高等学校1年生、真和高等学校1年生、埼玉県立朝霞高等学校1年生、東京しごとセンター「東京ミドルワークチャレンジ」、埼玉県立川口高等学校1学年、翔洋学園高等学校1～3年生、茨城県立つくばサイエンス高等学校1年生、育秀国際語学院

## 11月

茨城県立土浦第三高等学校1年3組、育秀国際語学院、韓国大学生訪日団JENESYS引率職員、明治大学文学部授業「歴史時代の考古学」受講者、埼玉県立大宮光陵高等学校1年生、好古会、東京都立神津高等学校1年生、横浜清風高等学校、板橋退職教職員の会、柏シルバー大学院、梅光学院高等学校2年生、東京散策の会、長野県中野西高等学校、専修大学法学入門ゼミナールⅡ、京進ランゲージアカデミー新宿校狭山歴史クラブ Uグループ

## 12月

雪花きもの学院アリオ橋本教室、明治大学の歴史受講者、細田学園中学校2年生 探究学習、相洋高等学校文理コース1学年、京進ランゲージアカデミー新宿校、阪急交通社たびコトツアー、淑徳大学人文学部歴史学科、行知学園日本語学校高田馬場校、沖縄県立南風原高等学校1年生、二松学舎大学附属高等学校、浦和高等学園小中学部、在日米陸軍座間キャンプ法務部、一般社団法人監査懇話会・K2研究会

## 2026年1月

沖縄県立那覇西高等学校2年生、三原市立第三中学校、飛鳥未来きずな高等学校お茶の水キャンパス、リフレッシュ東京22、中央大学法学部基礎演習ゼミ、日本大学豊山女子高等学校

## 2月

上海師範大学附属官渡実験学校、品川翔英中学校、専門学校デジタルアーツ東京

## 3月

明治大学付属明治高校歴史研究部

### (3) 図書閲覧サービス

#### ①図書開室時間

月～金曜日10：00～16：30 土曜日10：00～16：00

#### ②閲覧者数

|             | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月  | 9月   | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月  | 3月  | 合計    |
|-------------|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|------|-----|-----|-------|
| 学部生・大学院生    | 203  | 361  | 318  | 303  | 73  | 224  | 319  | 366  | 356  | 186  | 59  | 62  | 2,830 |
| 明大教職員       | 16   | 14   | 9    | 16   | 9   | 12   | 20   | 18   | 18   | 13   | 7   | 12  | 164   |
| 友の会         | 11   | 10   | 5    | 12   | 9   | 10   | 10   | 8    | 13   | 8    | 9   | 10  | 115   |
| リバティアカデミー会員 | 1    | 0    | 0    | 2    | 1   | 5    | 6    | 5    | 1    | 1    | 0   | 1   | 23    |
| 聴講生         | 0    | 0    | 1    | 0    | 0   | 4    | 0    | 0    | 2    | 0    | 0   | 1   | 8     |
| 校友          | 19   | 22   | 18   | 20   | 10  | 18   | 11   | 18   | 15   | 13   | 17  | 22  | 203   |
| 他大学学生       | 36   | 35   | 43   | 31   | 24  | 29   | 54   | 56   | 47   | 15   | 18  | 21  | 409   |
| 一般          | 37   | 37   | 23   | 37   | 27  | 33   | 41   | 28   | 32   | 30   | 18  | 34  | 377   |
| 明大その他       | 4    | 8    | 2    | 6    | 5   | 4    | 9    | 5    | 4    | 3    | 5   | 5   | 60    |
| 合計          | 327  | 487  | 419  | 427  | 158 | 339  | 470  | 504  | 488  | 269  | 133 | 168 | 4,189 |
| 開室日数        | 26   | 24   | 25   | 27   | 16  | 23   | 27   | 23   | 22   | 19   | 19  | 25  | 276   |
| 1日平均（人）     | 12.6 | 20.3 | 16.8 | 15.8 | 9.9 | 14.7 | 17.4 | 21.9 | 22.2 | 14.2 | 7.0 | 6.7 | 15.2  |

### (4) 視察・研修受入

#### ①受入団体数・参加人数

|     | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計  |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 団体数 | —  | 1  | 1  | 1  | —  | 1  | 2   | 3   | 1   | 2  | —  | 2  | 14  |
| 人数  | —  | 17 | 3  | 2  | —  | 20 | 24  | 41  | 6   | 20 | —  | 83 | 216 |

#### ②団体名一覧

佐野市立出流原小学校（5月23日）、田園調布学園中等部職場訪問（6月6日）、東京都立大泉高等学校附属中学校職場体験（7月8日～9日）、明治大学刑事手続・量刑法研究会（9月17日）、共立女子大学博物館（10月16日）、東京都立桜修館中等教育学校職場体験（10月23日～24日）、曹洞宗保護司連合会埼玉県第二支部（11月6日）、東京都立白鷗高等学校附属中学校職場体験（11月11日～13日）、文化学園大学学芸員過程（博物館展示論授業）（11月25日）、天童市 異業種交流プラザ（12月1日）、和洋女子大学博物館学芸員課程（2026年1月14日）、陸上自衛隊幕僚監部（2026年1月27日）、葛飾区立東金町中学校第2学年校外学習（2026年3月13日）、明治大学中小企業診断士紫紺会（2026年3月14日）

## 2. 組織・構成

### (1) 博物館構成員

#### ①館長・副館長

任期：2024年4月1日～2026年3月31日

| 役職  | 氏名   | 所属              | 専門                    |
|-----|------|-----------------|-----------------------|
| 館長  | 石川幹人 | 情報コミュニケーション学部教授 | 認知科学、科学基礎論、科学技術社会論    |
| 副館長 | 堀田秀吾 | 法学部教授           | 法言語学、心理言語学、コミュニケーション論 |

#### ②専任職員

| 役職        | 氏名              | 担当   | 専門         |
|-----------|-----------------|------|------------|
| 学術・社会連携部長 | 桐原正樹            |      |            |
| 博物館事務長    | 市川園子            |      |            |
| 庶務担当      | 福田厚史<br>武井大貴    |      |            |
| 学芸員       | 外山 徹            | 商品部門 | 博物館学／地域文化論 |
| 学芸員       | 島田和高<br>(～6/30) | 考古部門 | 考古学        |
| 学芸員       | 日比佳代子           | 刑事部門 | 日本近世史      |
| 学芸員       | 忽那敬三            | 考古部門 | 考古学        |

#### ③非常勤職員

|        | 氏名              | 担当         |
|--------|-----------------|------------|
| 短期嘱託職員 | 織田 潤            | 庶務部門担当     |
| 短期嘱託職員 | 石井浩美            | 庶務（図書）部門担当 |
| 短期嘱託職員 | 戸部瑛理<br>(～5/30) | 商品部門担当     |
| 短期嘱託職員 | 河井彩乃<br>(8/1～)  |            |
| 短期嘱託職員 | 矢口結菜            | 刑事部門担当     |
| 短期嘱託職員 | 長谷川あずみ          | 考古部門担当     |
| 短期嘱託職員 | 古宮葉月            |            |

### (2) 博物館運営委員会

#### ①運営委員会委員

博物館規程第7条（3）委員の任期：2025年4

月1日～2027年3月31日

| 役職   | 氏名              | 所属                 |
|------|-----------------|--------------------|
| 委員長  | 石川幹人            | 館長／情報コミュニケーション学部教授 |
| 副委員長 | 堀田秀吾            | 副館長／法学部教授          |
| 委員   | 小林史明            | 法学部准教授             |
| 委員   | 町田一兵            | 商学部教授              |
| 委員   | 落合弘樹            | 文学部教授              |
| 委員   | 駒見和夫            | 文学部教授              |
| 委員   | 野尻泰弘            | 文学部教授              |
| 委員   | 若狭 徹            | 文学部教授              |
| 委員   | 本多貴之            | 理工学部准教授            |
| 委員   | 薩摩秀登            | 経営学部教授             |
| 委員   | 宮本真也            | 情報コミュニケーション学部教授    |
| 委員   | 桐原正樹            | 学術・社会連携部長          |
| 委員   | 外山 徹            | 博物館学芸員             |
| 委員   | 島田和高<br>(～6/30) | 博物館学芸員             |
| 委員   | 日比佳代子           | 博物館学芸員             |
| 委員   | 忽那敬三            | 博物館学芸員             |

#### ②資料評価分科会

任期：2025年6月26日～2027年3月31日

| 役職 | 氏名           | 所属     |
|----|--------------|--------|
| 座長 | 野尻泰弘         | 文学部教授  |
| 委員 | 町田一兵         | 商学部教授  |
| 委員 | 若狭 徹         | 文学部教授  |
| 委員 | 薩摩秀登         | 経営学部教授 |
| 委員 | 外山 徹         | 博物館学芸員 |
| 委員 | 島田和高 (～6/30) | 博物館学芸員 |
| 委員 | 日比佳代子        | 博物館学芸員 |
| 委員 | 忽那敬三         | 博物館学芸員 |

### (3) 研究調査員

任期：2025年4月1日～2026年3月31日

| 氏名   | 所属                     |
|------|------------------------|
| 高橋昭夫 | 商学部教授                  |
| 上原義子 | 商学部兼任講師<br>高千穂大学商学部准教授 |
| 牛米 努 | 文学部兼任講師                |
| 山路直充 | 市立市川考古博物館学芸員           |
| 金子 智 | 株式会社乃村工藝社              |

### (4) 作業部会

#### ①博物館・大学院商学研究科・商学部連携

「伝統的工芸品の経営とマーケティング・プロジェクト」推進部会

| 役職 | 氏名   | 所属                           |
|----|------|------------------------------|
| 座長 | 高橋昭夫 | 商学部教授（商品学）                   |
| 委員 | 町田一兵 | 商学部教授（国際交通論）                 |
| 委員 | 上原義子 | 商学部兼任講師 高千穂大学商学部准教授（マーケティング） |
| 委員 | 外山 徹 | 博物館学芸員                       |

### (5) 明治大学博物館友の会2025年度役員

| 役職       | 氏名                                        |
|----------|-------------------------------------------|
| 相談役      | 石川幹人 堀田秀吾                                 |
| 顧問       | 熊野正也 杉原重夫                                 |
| 会長       | 橋本秀夫                                      |
| 副会長      | 村井孝行（会計・総務兼務）<br>林 信雄（総務・広報兼務）            |
| 理事       | 鈴木 弘 野口 淳                                 |
| 運営委員（総務） | 奥田孝之（IT兼務）                                |
| 〃（会計）    | 川村俊也                                      |
| 〃（行事）    | 松村裕安（IT兼務） 川村親弘<br>小林修二 佐藤 茂 川岸孝雄<br>川上晴美 |
| 〃（広報）    | 桜井美代子                                     |
| 〃（IT）    | 松村祐安 古川 孝 奥田孝之                            |
| 図書室管理員代表 | 鈴木 弘                                      |
| 展示解説員代表  | 林 信雄                                      |
| 監事       | 支倉紀代美 松本慶三                                |

|     |               |      |
|-----|---------------|------|
| 分科会 | 古文書を読む会       | 橋本秀夫 |
|     | 平成内藤家文書研究会    | 中村光子 |
|     | 工芸の会          | 平井孝雄 |
|     | 旧石器・縄文文化研究会   | 杉山 昭 |
|     | 弥生文化研究会       | 岡本直和 |
|     | 古文書の基礎を学ぶ会    | 平井孝雄 |
|     | 前方後円墳研究会      | 生野 裕 |
|     | 「倭国から大和」を学ぶ会  | 松永義則 |
|     | 古代東北アジアと日本研究会 | 遠藤典夫 |
|     | 飛鳥・奈良の会       | 荒木 茂 |

### (6) 各種会議開催日

#### ①博物館運営委員会

##### ア 第1回（オンライン）6月26日

##### 審議事項

- (1) 2026年度教育・研究に関する年度計画書等の提出について
- (2) 博物館運営委員会資料評価分科会委員の委嘱について

##### 報告事項

資金に係る2024年度事業報告及び会計報告について

##### イ 第2回（メール審議）7月24日付議（8月1日審議期限）

##### 審議事項

2026年度全学共通総合講座【機関企画講座（タイプB）】の開講申請について

##### ウ 第3回（メール審議）9月24日（9月29日審議期限）

##### 審議事項

博物館アルバイト労務時間単価の改正について

##### エ 第4回（オンライン）10月22日

##### 審議事項

2026年度博物館予算編成資料について

##### オ 第5回（メール審議）2025年12月1日（12月9日審議期限）

##### 審議事項

私立学校法の改正に伴う博物館規程の一部  
改正について

**カ 第6回（オンライン）2026年3月1日**

**審議事項**

- (1) 2025年度事業報告について
- (2) 2026年度事業計画について
- (3) 2026年度博物館研究調査員の委嘱に  
ついて

**報告事項**

- (1) 刑事部門常設展示室の新展示につい  
て
- (2) 常設展示刷新記念セレモニー及び特  
別観覧の実施について
- (3) 明治大学デジタルアーカイブの国立  
国会図書館サーチ・ジャパンサーチ  
との連携について

**⑤博物館運営についてご意見を伺う会**

日 時 2026年3月31日

招待者 博物館友の会会員4名

学生広報アンバサダー4名

内 容

- ・常設展刑事部門新展示について
- ・博物館広報について
- ・その他博物館運営全般についての意見交換

**②博物館運営委員会資料評価分科会**

第1回 7月14日（刑事部門）

第2回 12月12日（商品部門）

**③「伝統的工芸品の経営とマーケティング・プロ  
ジェクト」推進部会**

臨 時 4月21日

第1回 7月7日

第2回 10月10日

第3回 11月17日

第4回 2026年1月23日

※いずれもオンライン会議により開催

**④博物館・友の会連絡会議**

第1回 5月23日

第2回 9月26日

第3回 11月21日

第4回 2026年2月20日

### 3. 予算・決算

#### (1) 2025年度事業費予算・決算

##### ①予算

| 科目         | 目的<br>博物館費 | 基金<br>事業費 | 特定課題推進費         |                  |           |              | 合計          |
|------------|------------|-----------|-----------------|------------------|-----------|--------------|-------------|
|            |            |           | 近代鍋島・<br>柿右衛門研究 | ONLINE<br>ミュージアム | 常設展刷新     | 図書室の<br>書架増設 |             |
| 兼務職員人件費    | 802,000    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 802,000     |
| 福利費        | 14,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 14,000      |
| 修繕費        | 50,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 50,000      |
| 旅費交通費      | 684,000    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 684,000     |
| 業務委託費      | 3,006,000  | 0         | 0               | 1,836,000        | 2,384,000 | 0            | 7,226,000   |
| 保険料        | 187,000    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 187,000     |
| 準備品        | 390,000    | 0         | 0               | 0                | 234,000   | 0            | 624,000     |
| その他の消耗品費   | 2,374,000  | 0         | 0               | 100,000          | 127,000   | 0            | 2,601,000   |
| 印刷製本費      | 860,000    | 0         | 506,000         | 0                | 0         | 0            | 1,366,000   |
| 通信費        | 88,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 88,000      |
| 郵便費        | 22,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 22,000      |
| 運搬費        | 40,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 40,000      |
| 広告費        | 60,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 60,000      |
| 支払手数料      | 375,000    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 375,000     |
| 会合費        | 96,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 96,000      |
| 公租公課       | 34,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 34,000      |
| 教育研究用機器備品費 | 2,221,000  | 0         | 0               | 0                | 2,731,000 | 0            | 4,952,000   |
| 合 計        | 11,303,000 | 0         | 506,000         | 1,936,000        | 5,476,000 | 0            | 19,221,000  |
| 前年度予算額     | 11,426,000 | 0         | 506,000         | 1,936,000        | 5,476,000 | 5,000,000    | 24,344,000  |
| 増・減 (▲)    | ▲ 123,000  | 0         | 0               | 0                | 0         | ▲ 5,000,000  | ▲ 5,123,000 |

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算追加、振替は反映していない

※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

## ②決算

| 科目         | 目的<br>博物館費 | 基金<br>事業費 | 特定課題推進費         |                  |           |              | 合計          |
|------------|------------|-----------|-----------------|------------------|-----------|--------------|-------------|
|            |            |           | 近代鍋島・<br>柿右衛門研究 | ONLINE<br>ミュージアム | 常設展刷新     | 図書室の<br>書架増設 |             |
| 兼務職員人件費    | 787,350    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 787,350     |
| 福利費        | 0          | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           |
| 修繕費        | 9,240      | 0         | 0               | 0                | 281,600   | 0            | 290,840     |
| 旅費交通費      | 237,973    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 237,973     |
| 業務委託費      | 3,272,377  | 875,799   | 0               | 1,881,000        | 5,610,941 | 0            | 10,764,318  |
| 保険料        | 195,570    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 195,570     |
| 準備品        | 1,019,970  | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 1,019,970   |
| その他の消耗品費   | 3,304,115  | 125,694   | 0               | 0                | 0         | 0            | 3,304,115   |
| 印刷製本費      | 555,930    | 56,660    | 372,190         | 0                | 0         | 0            | 928,120     |
| 通信費        | 87,120     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 87,120      |
| 郵便費        | 3,145      | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 3,145       |
| 運搬費        | 840        | 1,430     | 0               | 0                | 0         | 0            | 840         |
| 広告費        | 0          | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 0           |
| 支払手数料      | 550,314    | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 550,314     |
| 会合費        | 49,325     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 49,325      |
| 公租公課       | 30,000     | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 30,000      |
| 教育研究用機器備品費 | 1,030,908  | 0         | 0               | 0                | 0         | 0            | 1,030,908   |
| 合 計        | 11,134,177 | 1,059,583 | 372,190         | 1,881,000        | 5,892,541 | 0            | 19,279,908  |
| 前年度決算額     | 11,435,427 | 888,208   | 364,851         | 1,932,150        | 5,631,804 | 4,997,150    | 24,361,382  |
| 増・減 (▲)    | ▲ 301,250  | 171,375   | 7,339           | ▲ 51,150         | 260,737   | ▲ 4,997,150  | ▲ 5,081,474 |

※予算額を超える執行は年度途中に予算追加、振替の措置を取っている

※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

※基金事業費は、籠谷典子「知の公開」ミュージアム資金による

## (2) 2025年度収入

| 科目：その他の雑収入  | 予算額       | 決算額       |
|-------------|-----------|-----------|
| 博物館発行資料売上代  | 600,000   | 452,045   |
| 文献複写・資料代    | 80,000    | 45,740    |
| 撮影・掲載料      | 300,000   | 498,300   |
| 特別展入場料      | 0         | 0         |
| ミュージアムグッズ売上 | 600,000   | 771,600   |
| その他         | 50,000    | 45,794    |
| 合 計         | 1,630,000 | 1,813,479 |
| 前年度予算決算額    | 1,630,000 | 2,573,285 |
| 増・減 (▲)     | 0         | ▲ 759,806 |

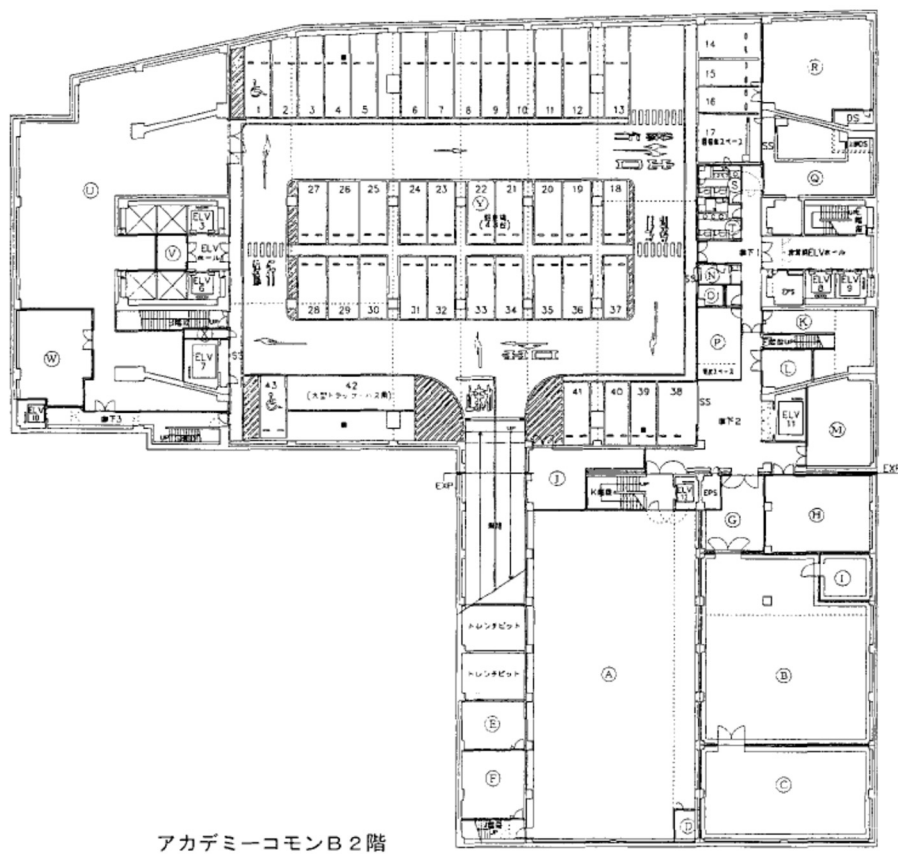
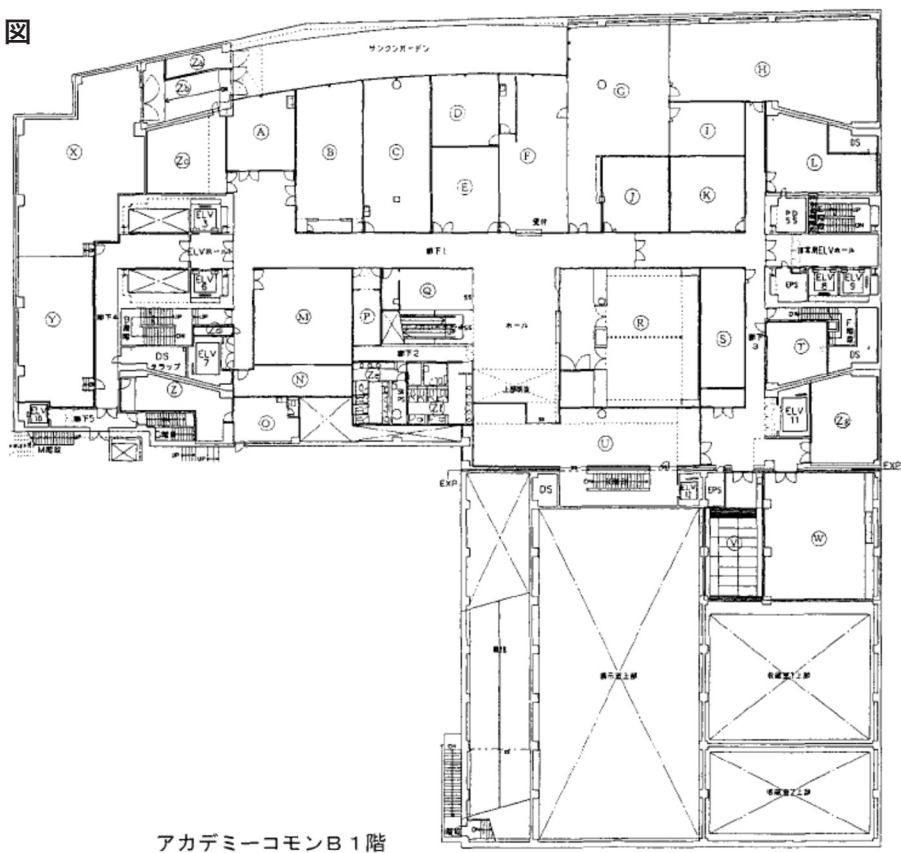
## 4. 施設概要・見取り図

### (1) 施設概要

(単位 m<sup>2</sup>)

|        |            | 階  | 記号 | 面積        | 延べ面積    |
|--------|------------|----|----|-----------|---------|
| 管理部門   | 館長室        | B1 | D  | 42.86㎡    | 243.90㎡ |
|        | 事務室        | B1 | F  | 94.06㎡    |         |
|        | 会議室        | B1 | J  | 45.12㎡    |         |
|        | 倉庫         | B1 | L  | 61.86㎡    |         |
| 教育普及部門 | 図書室        | B1 | G  | 145.04㎡   | 523.22㎡ |
|        | 書庫         | B1 | H  | 176.03㎡   |         |
|        | 閲覧室        | B1 | I  | 35.95㎡    |         |
|        | 博物館教室      | B1 | B  | 87.94㎡    |         |
|        | 体験学習室      | B1 | A  | 44.31㎡    |         |
|        | ミュージアムショップ | B1 | Q  | 33.95㎡    |         |
| 展示室    | 常設展示室      | B2 | A  | 497.19㎡   | 785.73㎡ |
|        | 大学史展示室     | B1 | U  | 115.20㎡   |         |
|        | 特別展示室      | B1 | R  | 173.34㎡   |         |
| 調査研究部門 | 学芸研究室      | B1 | C  | 92.03㎡    | 332.76㎡ |
|        | 作業室 1      | B1 | V  | 60.80㎡    |         |
|        | 作業室 2      | B1 | W  | 129.70㎡   |         |
|        | 展示準備室      | B1 | K  | 50.23㎡    |         |
| 収蔵部門   | 前室         | B2 | G  | 38.90㎡    | 649.11㎡ |
|        | 一時保管室      | B2 | H  | 77.35㎡    |         |
|        | 収蔵室 1      | B2 | B  | 271.46㎡   |         |
|        | 収蔵室 2      | B2 | C  | 147.37㎡   |         |
|        | 特別収蔵室      | B2 | I  | 23.28㎡    |         |
|        | 写真保管室 1    | B1 | S  | 56.68㎡    |         |
|        | 写真保管室 2    | B1 | T  | 34.07㎡    |         |
| 合 計    |            |    |    | 2,534.72㎡ |         |

## (2) 施設見取り図



## 5. 規程

### 明治大学博物館規程

1991年10月31日制定

1991年規程第2号

(趣旨)

**第1条** この規程は、明治大学学則第64条第2項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

**第2条** 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学（以下「本大学」という。）の学生、教職員、校友及び一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

(事業)

**第3条** 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
  - (2) 前号に関する調査、研究及び開発
  - (3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
  - (4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
  - (5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
  - (6) 本大学における教育・研究の成果を発信する展示会、講演会、シンポジウム等の開催
  - (7) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
  - (8) 生涯教育の振興及び学習支援
  - (9) 分館の設置及び運営
  - (10) その他必要と認められる事業
- (館長)

**第4条** 博物館に、館長1名を置く。

- 2 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。
- 3 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により理事会が任命する。
- 4 館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 館長は、再任されることができる。
- 6 館長は、学部、大学院、付属学校又は附属機関の長を兼ねることができない。

(副館長)

**第5条** 博物館に、副館長1名を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、

学長の同意を得て、理事会が任命する。

- 4 副館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 副館長は、再任されることができる。

(事務及び職員)

**第6条** 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

- 2 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職1名並びに学芸員及び職員若干名を置く。
- 3 学芸員は、第3条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。

(研究調査員)

**第6条の2** 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

- 2 研究調査員は、本大学の教職員及び学外の有識者から、館長が次条に規定する博物館運営委員会の同意を得て委嘱する。
- 3 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。

(博物館運営委員会)

**第7条** 博物館の運営に関して、次に掲げる事項について審議するため、博物館に博物館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 第3条に掲げる事業及びその事業計画に関する事項
  - (2) 博物館の管理・運営に関する事項
  - (3) 予算及び決算に関する事項
  - (4) その他委員会が必要と認めた事項
- 2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
    - (1) 館長
    - (2) 副館長
    - (3) 博物館の運営に関して専門知識を有する専任教職員の中から館長が推薦する者若干名
    - (4) 第6条第2項に規定する学芸員
    - (5) 学術・社会連携部長

3 前項第3号の委員は、学長が委嘱する。

4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。

7 委員長は、第2項第1号の委員をもって充て、副委員長は、委員の中から委員会の同意を得て、委員長が指名する。

8 委員長は、会務を総理し、委員会の議長となる。

9 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会議)

**第7条の2** 委員会は、必要に応じ、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を

開き、議決することができない。

- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
- 5 委員会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。
- 6 分科会に関し必要な事項は、委員長が委員会の同意を得て、これを定める。

(規程の改廃)

**第8条** この規程を改廃するときは、委員会の議を経なければならない。

(雑則)

**第9条** この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、委員会の議を経た後、学長の承認を得て、別に定める。

**附 則** (1991年規程第2号)

(施行期日)

- 1 この規程は、1991年(平成3年)10月31日から施行する。

(明治大学刑事博物館規程等の廃止)

- 2 次に掲げる規程は、廃止する。
    - (1) 明治大学刑事博物館規程(昭和56年規程第72号)
    - (2) 明治大学商品陳列館規程(昭和56年規程第73号)
    - (3) 明治大学考古学博物館規程(昭和56年規程第74号)
- (通達第669号)

**附 則** (1996年度規程第16号)

この規程は、1997年(平成9年)4月1日から施行する。

(通達第893号)(注 博物館協議会の設置に伴う改正)

**附 則** (2001年度規程第14号)

この規程は、2002年(平成14年)4月1日から施行する。

(通達第1143号)(注 商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正)

**附 則** (2003年度規程第8号)

(施行期日)

- 1 この規程は、2004年(平成16年)4月1日から施行する。

(改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例)
- 2 改正前の明治大学博物館規程第6条第1項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第8条第1項の規定にかかわらず、2004年(平成16年)3月31日をもって満了するものとする。

(通達第1232号)(注 刑事博物館、考古学博物館及

び商品博物館の統合に伴う改正)

**附 則** (2006年度規程第13号)

この規程は、2006年(平成18年)11月16日から施行する。

(通達第1490号)(注 事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正)

**附 則** (2007年度規程第21号)

この規程は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。

(通達第1562号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

**附 則** (2008年度規程第4号)

この規程は、2008年(平成20年)5月20日から施行する。

(通達第1689号)(注 研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正)

**附 則** (2009年度規程第7号)

この規程は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1807号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

**附 則** (2017年度規程第3号)

(施行期日)

- 1 この規程は、2017年(平成29年)4月20日から施行する。

(委員の任期の特例)

- 2 この規程の施行後、改正後の第7条第2項第3号の規定により最初に委嘱される委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、2019年(平成31年)3月31日までとする。

(通達第2462号)(注 博物館の事業の追加、博物館協議会の博物館運営委員会への改組等に伴う改正)

**附 則** (2025年度規程第42号)

(施行期日)

- 1 この規程は、2026年1月22日から施行する。

(任期の特例)
- 2 この規程の施行後、最初に選任される館長の任期については、第4条第4項の規定にかかわらず1年とする。
- 3 この規程の施行後、最初に選任される副館長の任期については、第5条第4項の規定にかかわらず1年とする。

(通達第3191号)(注 私立学校法の改正に伴い委員等の任期を役員等に対応させるための改正)

## 博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994年9月26日制定

1994年度例規第7号

(趣旨)

**第1条** この要綱は、明治大学博物館規程（1991年規程第2号）第9条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品（以下「資料等」という。）の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

**第2条** この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 撮影 資料等の写真又は動画の撮影を行うことをいう。
- (2) 熟覧 営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

(申請)

**第3条** 資料等の撮影及び掲載（以下「撮影・掲載」という。）を希望する者（以下「申請者」という。）は、所定の資料撮影・掲載申請書（以下「申請書」という。）を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長（以下「館長」という。）に提出し、許可を受けなければならない。

(許可)

**第4条** 館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

2 前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。

- (1) 撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。
- (2) 掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。
- (3) 撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。
- (4) 撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。
- (5) 前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。

3 博物館が所有する資料等の写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ若しくはそれらの複製物又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することができると明らかに認められる場合は、掲載のみを許可する。

(撮影・掲載を許可しない場合)

**第5条** 次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載を許可しない。

- (1) 撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合
- (2) 撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合
- (3) 撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると

認められる場合

- (4) 博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合
- (5) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないと認められる場合

(料金)

**第6条** 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別表第1に定める料金を、速やかに、学術・社会連携部博物館事務室に納付しなければならない。

2 料金は、資料等1点当たりの金額とする。

3 いったん納付された料金は、原則として、還付しない。

(料金の免除)

**第7条** 前条第1項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

- (1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関する事業（次号において「教育等事業」という。）の用途に供することを目的とするとき。
- (2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。
- (3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。
- (4) 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。
- (5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。
- (6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。
- (7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

2 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、1部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めたときは、この限りでない。

(準用規定)

**第8条** 資料等の熟覧並びに写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ又はそれらの複製物の利用による掲載及び転載（以下「貸出掲載・転載」という。）については、第3条から前条までの規定を準用する。

2 前項の場合において、第6条第1項中「別表第1に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあつては別表第2に定める料金を、貸出掲載・転載にあつては別表第3に定める料金を」と読み替えるものとする。

(その他の諸経費)

**第9条** この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸経費は、申請者の負担とする。

(意匠使用)

**第10条** 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、

館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

- 2 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。

(申請者の責務等)

**第11条** 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

- 2 申請者は、撮影・掲載により著作権法にかかわる問題が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。

(許可の取消し等)

**第12条** 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

- 2 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。

(雑則)

**第13条** この要綱に定めのない事項については、館長が博物館運営委員会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

**附 則** (1994年度例規第7号)

この要綱は、1994年(平成6年)9月27日から施行する。

**附 則** (1997年度例規第7号)

この要綱は、1997年(平成9年)12月16日から施行し、改正後の第1条及び第13条の規定は、同年4月1日から適用する。

(通達第922号)(注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正)

**附 則** (2004年度例規第7号)

この要綱は、2004年(平成16年)10月1日から施行する。

(通達第1312号)(注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフィルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正)

**附 則** (2007年度例規第9号)

この要綱は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。

(通達第1563号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

**附 則** (2009年度例規第9号)

この要綱は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1808号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

**附 則** (2015年度例規第13号)

この要綱は、2016年(平成28年)4月1日から施行する。

(通達第2363号)(注 デジタル化に即した規定に改めること及び撮影・掲載料金等の改定に伴う改正)

**附 則**

この要綱は、2017年(平成29年)4月26日から施行する。

**別表第1** (第6条関係)

撮影・掲載料金(消費税は含まない。)

|         |        |
|---------|--------|
| 写 真・動 画 | 10,000 |
|---------|--------|

(単位:円)

**別表第2** (第8条関係)

熟覧料金(消費税は含まない。)

|     |       |
|-----|-------|
| 熟 覧 | 5,000 |
|-----|-------|

(単位:円)

**別表第3** (第8条関係)

貸出掲載・転載料金(消費税は含まない。)

1 写真フィルム原版

|        |              |                      |       |
|--------|--------------|----------------------|-------|
| サイズ    | 4×5<br>(インチ) | 6×8 (cm)<br>6×6 (cm) | 35mm  |
| カラー    | 7,500        | 6,000                | 2,000 |
| モノクローム | 5,000        | 2,000                | 1,000 |

(単位:円)

2 デジタル写真

|            |       |
|------------|-------|
| カラー・モノクローム | 4,000 |
|------------|-------|

(単位:円)

3 動画及びデジタルコンテンツ

|               |        |
|---------------|--------|
| 動画及びデジタルコンテンツ | 20,000 |
|---------------|--------|

(単位:円)

**明治大学博物館特別展示室の利用に関する取扱要綱**

2005年10月4日制定

2005年度例規第7号

(趣旨)

**第1条** この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程(昭和46年規程第38号)第1条第3項の規定に基づき、明治大学博物館(以下「博物館」という。)内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ(以下「特別展示室」という。)の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(管理責任者)

**第2条** 特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。

(利用範囲)

**第3条** 特別展示室は、博物館が実施する特別展等(以下「特別展等」という。)に利用するものとし、特別

展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

- (1) 学内関係機関による展示活動
  - (2) クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動
  - (3) 本学公認サークルによる展示活動
  - (4) 本学の専任教職員が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
  - (5) 本学の校友が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
  - (6) その他特に管理責任者が許可した展示活動
- (利用日及び利用時間)

**第4条** 特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

- 2 利用時間は、午前10時から午後4時30分までとする。
- 3 利用期間は、原則として2週間を限度とする。ただし、前条第1号及び第2号に該当する場合は、この限りでない。

(利用申込み)

**第5条** 特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の6週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

(利用許可)

**第6条** 管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の3週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

- (1) 特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
  - (2) 付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
  - (3) その他利用が不相当と認められる場合
- 2 前項により、管理責任者は、利用を許可したときは、利用許可書を申請者に交付する。

(利用の中止)

**第7条** 利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の2週間前までに管理責任者に申し出て、交付された利用許可書を返却しなければならない。

(利用の取消し等)

**第8条** 次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることがある。

- (1) 本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じたとき。
  - (2) 利用申請書に虚偽の記載があったとき。
  - (3) 特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。
  - (4) その他特別展示室の利用が不相当と管理責任者が認めたとき。
- 2 前項により、利用者に損害が生じて、本学は、そ

の責を負わないものとする。

(遵守事項)

**第9条** 利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

(利用料等)

**第10条** 利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、2週間前までに利用料を納入しなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、第3条第1号、第2号及び第3号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。
- 3 第3条第4号及び第5号に該当する場合の利用料は、1日につき2,700円（消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額）とする。
- 4 第3条第6号に該当する場合の利用料は、1日につき5,400円（消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額）とする。
- 5 いったん納入された利用料は、第7条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第8条第1項第1号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。

(権利の譲渡及び転貸の禁止)

**第11条** 利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。

(損害賠償)

**第12条** 利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

- 2 前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することがある。
- 3 盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じて、本学は、その責を負わないものとする。

(主管部署)

**第13条** 特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(要綱の改廃)

**第14条** この要綱を改廃するときは、博物館運営委員会の議を経なければならない。

**附 則** (2005年度例規第8号)

この要綱は、2005年（平成17年）10月5日から施行する。

(通達第1397号)

**附 則** (2007年度例規第9号)

この要綱は、2007年（平成19年）9月10日から施行

する。

(通達第1563号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

#### 附 則 (2009年度例規第9号)

この要綱は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1808号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

#### 附 則

この要綱は、2017年(平成29年)4月26日から施行する。

### 明治大学博物館友の会会則

1988年6月25日制定  
1993年4月1日改定  
2004年4月1日改訂  
2006年4月1日改訂  
2010年4月1日改訂  
2014年4月1日改訂  
2018年4月1日改訂

(名称)

**第1条** 本会は、明治大学博物館友の会という。

(事務所)

**第2条** 本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台1-1明治大学(以下「大学」という)に所在する明治大学博物館(以下「博物館」という)内に置く。

(目的)

**第3条** 本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。

(事業)

**第4条** 本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- ①講演会・研修会・見学会などの開催
- ②会報、ニュース、図書の発行
- ③会員による自主研究分科会活動
- ④博物館事業への協力活動
- ⑤その他目的達成に必要と認められた事業

(入会)

**第5条** 本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人および法人を賛助会員とする。

2 会員には会員証を発行する。

(会員の特典)

**第6条** 会員には、次の特典がある。

①本会および博物館の行事などの情報提供

②大学並びに博物館主催行事への優待参加

③大学図書館の書籍閲覧

(退会)

**第7条** 会員の資格は、次の場合に消滅する。

①退会の申し出があった場合

②死亡した場合

③会員証記載の有効期限が過ぎた場合

④本会の趣旨に違背した行為があったと認められる場合

(役員)

**第8条** 本会に、次の役員を置く。

①会長 1名

②副会長 2名以内

③理事 7名以内

④運営委員 若干名

⑤監事 2名以内

(役員の選出)

**第9条** 役員は、次のとおり選出するものとする。

①会長および監事は、総会で選出する。

②副会長および理事は、会長が任命する。

③総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は理事会において選任し、会長が任命する。また、博物館図書室ボランティア・展示解説ボランティアからそれぞれ互選された運営委員を、会長が任命する。

④上記②、③について、会報で報告する。

⑤監事は、他の役員を兼務することができない。

(役員職務)

**第10条** 役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。

①会長は、本会を代表し、会務を総理する。

②副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ないときは、その職務を代行する。

③理事は、本会の総務、会計、広報、行事などの会務を行う。

④運営委員は、理事と共に会務を行う。

⑤監事は、会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べることができる。

(役員任期)

**第11条** 役員の任期は、2年とする。ただし、役員の再任を妨げない。

2 補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(相談役・顧問)

**第12条** 本会に、相談役および顧問を置くことができる。

2 相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。

3 相談役および顧問は、本会への必要な助言を行う。

(総会)

**第13条** 本会は、年1回総会を開き、事業報告・会計報告を行い、事業計画・予算案を出席会員の過半数により議決する。

なお、理事会の議決、又は会員過半数の請求があった場合は、会長は臨時総会を招集しなければならない。

(理事会)

**第14条** 理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、会長が招集し、次の事項を審議・決定する。

①総会に付議する重要な事項。

②その他、本会の運営に関する重要な事項。

なお、理事会構成員の過半数の請求があった場合、会長は理事会を招集しなければならない。

(運営委員会)

**第15条** 運営委員会は、会長、副会長、理事、運営委員を以て構成し、会長が招集し本会の業務運営を行う。

また、必要に応じて分科会代表者などを含めた拡大運営委員会を開催する。

なお、運営委員会構成員の過半数の請求があった場合、会長は運営委員会を招集しなければならない。

(会費)

**第16条** 本会の年会費は、次のとおりとする。ただし、その年度の下半期入会者は、賛助会員を除き半額とする。なお、納められた年会費は返還しない。

①一般会員 3,000円

②家族会員 1,500円 (同居の家族)

③学生 1,500円

④賛助会員 (1口) 10,000円

(経費)

**第17条** 本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもって充てる。

(事業年度)

**第18条** 本会の事業年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。

(会則の変更)

**第19条** 本会の会則は、総会の議決なくして変更することはできない。

(付則)

1. 本会則は、改訂年4月1日から発効する。
2. 本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

## 6. 2025年度博物館事業計画

※2025年度学務担当常勤理事の所管業務に関する年度計画書より抜粋

### (1) 最重点項目 (3項目)

#### ア 常設展示の刷新 (刑事部門)

アカデミーコモンに博物館が開館してから20年、常設展示は前回の展示替えから約10年が経つことから、関連する学術情報の更新と共に、SDGs (持続可能な17の開発目標) の理解や国際化教育への活用、学びのコミュニティ形成や教育のバリアフリー化 (社会的包摂) といった今日的課題を見据えた教育リソースとして常設展示を刷新する。3ヶ年計画による常設展示 (刑事・考古・商品) 刷新の3年目として刑事部門の展示改修を行う。

#### イ 「明治大学博物館ONLINEミュージアム」におけるデジタルコンテンツの拡充

博物館資料のデジタルアーカイブと情報発信の推進に関する文化庁の方針をうけ、いつでもどこでも学べる博物館の「知の拠点」としての機能を向上させるために、「明治大学博物館ONLINEミュージアム」(2020年7月～) を公開している。

2022～2026年度の5ヶ年計画で特色ある画像 (研究利用が可能な高精細・3次元画像等) ・動画コンテンツ及び収蔵品データベースを開発し公開する。「ONLINEミュージアム」のコンテンツを継続的に拡充することで、インターネット環境における収蔵品情報発信の量と博物館が提供する学びの質を向上する。

#### ウ 収蔵資料及び関連学術分野の特色ある共同研究の推進

質の高い博物館事業を持続的に展開し、本学のブランディング形成に貢献するため、収蔵資料に関連する特色ある研究を学内外の研究者を交えて推進する。

2015～2020年にかけて受贈した陶磁資料を研究対象とする「近代鍋島焼及び十二代柿右衛門初期作品の研究」の2年目。研究史上において、佐賀藩廃藩以降の鍋島焼や、後に国指定重要無形文化財に指定される柿右衛門様式復興以前の十二代柿右衛門の動向は、あまり関心が払われてこなかったが、近代以降の陶磁史に対する関心は近年高まりを見せつつある。将来における資料の活用促進を見通し、写真及び現時点で収集可能な関連情報を公開する。

### (2) 重点項目 (10項目)

#### ① 展覧会の開催 (収蔵資料の公開)

特別展示室の利用は、博物館における「共同利用機能の拡充」の主要な役割を担う。学内団体に利用機会を幅広く提供するため、引き続き利用の周知を図る。

#### ア 博物館主催展覧会等の開催

- a 新収蔵品展 (前年度収集資料の公開)
- b 収蔵資料の研究成果の社会還元、学術的価値の発信を目的とした企画展

#### イ 博物館以外の機関・組織が主催する展覧会への会場提供・開催支援

- a 学内組織による展示、教職員による研究成果の公開
- b 外部機関による展示

#### ウ 常設展示の充実、その他の展示

- a 明治大学コレクション展（収蔵資料紹介のコラム展示）

### ② 各種教育普及プログラムの実施

学芸員の専門的知識や技能を活用した在学生教育・生涯学習プログラム・研究発表会等を実施する。また、学外での教育・研究機関が主催する市民講座等へも積極的に出講し、本学と博物館の研究成果を社会に還元し、地域連携の推進に努める。

**ア 在学生対象の教育事業（学芸員資格課程における博物館館務実習、全学共通総合講座、商学部・商学研究科連携特別講義、バックヤード特別イベント）**

**イ 博物館公開講座、入門講座等 ※リバティアカデミー講座として開講**

**ウ 校外学習・職場体験等中学生・高校生による学習活動への対応**

**エ 校友・父母・一般を対象とした博物館主催企画展の関連イベントや常設展ギャラリートーク等のイベントの開催**

### ③ 学生支援

学生広報アンバサダーの活動に対する支援・指導

### ④ 調査・研究活動

博物館の展示は、博物館における調査・研究活動の成果報告として開催される。2025年度は2026年度以降の特別展・企画展に向けて調査・研究を継続する。

**ア 各部門の収蔵資料にかかわる調査・研究**

- a 黒曜石遺物にかかわる研究
- b 伝統的工芸品産業のマーケティング研究
- c 譜代大名内藤家文書の研究
- d 前場幸治瓦コレクションの研究と活用
- e 大英博物館所蔵ガウランド寄託資料関係の貸出運用、展示における活用及び研究の推進
- f 栃木県佐野市米山東古墳出土資料の研究
- g 2026年度以降に予定される常設展ガイドブック制作・展覧会開催等に関連する調査・研究の実施

**イ 学内外の研究者・機関と連携した共同研究・教育事業の実施**

- a 文学部・文学研究科と共同で収蔵コレクションに関する調査・研究を実施し、在学生による古文書整理作業への指導・助言をおこなう。
- b 収蔵資料原所在地の資料保存機関、企業等諸団体の調査を通じて収集した関連情報を研究、展示、公開講座などのリソースとして蓄積する。
- c 博物館所蔵毛利家旧蔵書と関係の深い科研費研究「中近世毛利家における知的体系の復原的研究—明治大学図書館所蔵毛利家旧蔵書を起点に」（基盤研究(B)、代表文学部牧野淳司教授）

の分担研究の推進

- d 茨城県玉里舟塚古墳出土資料の研究（茨城県、文学部史学地理学科考古学専攻と共同）

#### ウ 国際・国内学術交流

- a 日本博物館協会、日本考古学協会、日本旧石器学会、日本第四紀学会、考古学研究会、その他

### ⑤ 社会貢献及び社会連携

**ア 博物館友の会への支援**

友の会活動や博物館ボランティアは、2022年4月の博物館法改正に伴い盛り込まれた、地域の多様な主体との連携・協力の促進策に位置付けられる。日頃から館運営にあたって協力関係(各種ボランティア活動等)にある博物館友の会の活動を支援する。

- a 各種講演会・講座の運営支援・共同開催
- b 博物館友の会によるボランティア活動（展示解説・図書室受付）の受け入れ
- c 学習サークルの運営に対する会場の提供、指導・助言
- d 現地研修会等への学芸員の講師派遣
- e 定期的な連絡会議の開催

**イ 地域連携**

- a 長野県長和町との黒曜石研究に関する連携事業の実施
- b 茨城県との古墳出土資料整理・報告書刊行に関する連携事業の実施
- c 佐賀県伊万里市教育委員会による鈴桶遺跡保存活用への協力
- d 佐賀県多久市教育委員会による多久三年山遺跡保存活用への協力
- e 茨城県ひたちなか市による虎塚古墳保存活用への協力
- f 宮崎県延岡市への内藤家文書活用支援及び『延岡市史』編纂事業への協力
- g 福島県いわき市への内藤家文書活用支援
- h 都内の文化財公開事業「東京文化財ウィーク」への参画
- i 講演会等への学芸員の講師派遣

**ウ ホームカミングデーや父母交流会などでのイベント開催**

**エ 「明治大学デジタルアーカイブ」の利用促進及びコンテンツ拡充**

新規画像の追加と刊行物を対象とした新規コンテンツの追加

### ⑥ 情報発信

過年度事業について、出版掲載利用・入館者動向・各種委員会・施設概要・規程類等と合わせ『博物館年報』を年次刊行し、ホームページ上で公開する。ワイド報等本学の広報媒体やX・Facebook等のSNS、ミュージアム・ショップ、博物館・学会等とのネットワークを活用して展覧会や講演会等の当該年度事業の

広報に努め、来館者増に結びつける。

**ア 『博物館年報2024年度』** ※ホームページ上で公開する。

**イ 『ミュージアム アイズ』の発行**（企画展に合わせて発行）

**ウ 『展覧会案内2026』**

**⑦ 資料収集と整理・保存・利活用促進**

刑事・考古・商品の三部門の専門性に応じ、特色ある博物館コレクションの構築を進める。刑事部門では、法制史関連資料、収蔵する古文書（内藤家文書・近世農村文書等）・絵図・古地図類の関連資料、考古部門では、黒曜石研究、東アジア青銅器、化石人類の関連資料、商品部門では、伝統的工芸品産業関連資料を収集の基本方針とする。また、寄贈資料の受入れも、収蔵資料としての適性を評価しつつ積極的に推進する。

**ア 資料の購入・受贈と資産登録、収蔵**

**イ 図書(文献資料・博物館図書室に排架)の充実**

- a 博物館に排架する新収図書の選書 ※購入及び資産登録の主管は図書館
- b 蔵書点検の実施
- c 重複雑誌等の除籍

**ウ 収蔵資料の整理と修復**

- a 収蔵資料の再整理（考古資料、古文書資料、研究者旧蔵の学術資料）
- b マイクロフィルム等2次資料の構築と整理
- c 絵図・古文書等の補修
- d 金属器の錆・腐損対策処置

- e 記念館前遺跡出土漆器・木器の修復・保存処理

**エ 収蔵資料の利活用促進**

- a 資料の写真撮影及びデジタルデータ変換
- b 閲覧調査受入れと古文書資料マイクロフィルムのプリントサービス（有償）
- c 外部機関主催展覧会への収蔵資料貸出
- d 収蔵資料写真の掲載利用受け付け  
ホームページやSNS、「明治大学デジタルアーカイブ」での画像データ公開を通じて収蔵資料情報の発信を活発化させ、有償利用の促進を図る。

**⑧ 収蔵スペースの確保**

多量の資料を受贈してきたことから、収蔵室の収容能力が限界に近い。80平方メートル程度の新たな収蔵スペースの確保に向けて検討・交渉を継続する。

**⑨ 明治大学ミュージアム「文化発信」資金の運用**

全ての人々に等しく教育の門戸を開く場として、一層の充実を図るためには、学内予算だけでなく、積極的に外部資金を獲得することが必要である。博物館、大学史資料センター及び阿久悠記念館の展示施設を「ミュージアム」と総称し、積極的な寄付の呼びかけを行い、各事業の助成を実施する。

**⑩ 登録博物館申請**

現在、博物館は東京都の審査を経て「博物館相当施設」となっているが、2022年の博物館法改正により、「登録博物館」への申請が可能となった。2024年度に申請手続きを行っており、2027年までの登録を目指す。

## 7. 明治大学博物館のあゆみ

|             |     |                                                                                                                             |
|-------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1881（明治14）年 | 1月  | 明治法律学校開校                                                                                                                    |
| 1929（昭和4）年  | 4月  | 刑事博物館を記念館5階に開設                                                                                                              |
| 1931（昭和6）年  |     | 大学創立50周年記念刑事展覧会開催                                                                                                           |
| 1933（昭和8）年  | 9月  | 刑事博物館初代館長に大谷美隆法学部教授が就任<br>『刑事博物図録』を刊行<br>（第2次世界大戦）                                                                          |
| 1949（昭和24）年 |     | 新制大学へ移行                                                                                                                     |
| 1951（昭和26）年 | 4月  | 刑事博物館の運営を再開 館長に島田正郎法学部教授（後、明治大学総長）<br>林久吉商学部教授（初代商品陳列館長）らの商品研究所が資料室を開設                                                      |
| 1952（昭和27）年 | 4月  | 考古学陳列館が2号館4階に開館 初代館長に後藤守一文学部教授が就任                                                                                           |
| 1954（昭和29）年 | 2月  | 刑事博物館が2号館4階へ移転 6月に一般公開開始                                                                                                    |
| 1955（昭和30）年 | 5月  | 刑事博物館が博物館相当施設に指定される（2004年3月廃館にともない指定解除）                                                                                     |
| 1957（昭和32）年 |     | 商品陳列館が2号館4階に開館<br>（この頃には3館とも一般公開 3館共通の入館案内を作成）                                                                              |
| 1960（昭和35）年 |     | 考古学陳列館長に杉原荘介文学部教授が就任                                                                                                        |
| 1963（昭和38）年 |     | 譜代大名内藤家文書を和泉校舎図書館に収蔵後、刑事博物館に移管                                                                                              |
| 1966（昭和41）年 | 4月  | 小川町校舎へ移転（考古2階・刑事3階・商品4階）<br>商品陳列館長に三谷茂商学部教授が就任<br>（大学紛争）                                                                    |
| 1976（昭和51）年 | 4月  | 刑事博物館長に鍋田一法学部教授が就任                                                                                                          |
| 1977（昭和52）年 | 4月  | 商品陳列館が一般公開再開 同館「講演と映画の会」開催（年1回～2003）                                                                                        |
| 1981（昭和56）年 |     | 1号館（刑事1階・考古3階）、11号館（商品4階）へ仮移転<br>商品陳列館長に刀根武晴商学部教授が就任                                                                        |
| 1983（昭和58）年 | 9月  | 考古学陳列館長に大塚初重文学部教授が就任                                                                                                        |
| 1985（昭和60）年 | 11月 | 3館大学会館へ移転（刑事・商品3階・考古4階）「考古学博物館」に名称変更                                                                                        |
| 1987（昭和62）年 | 5月  | 公開講座「考古学ゼミナール」開講                                                                                                            |
| 1988（昭和63）年 | 6月  | 考古学博物館友の会結成                                                                                                                 |
| 1991（平成3）年  | 4月  | 3博物館の事務所管部署一元化のため博物館事務室設置                                                                                                   |
|             | 10月 | 「明治大学博物館規程」制定                                                                                                               |
| 1995（平成7）年  | 4月  | 考古学博物館長に戸沢充則文学部教授が就任<br>刑事博物館長に川端博法学部教授が就任                                                                                  |
|             | 10月 | 博物館入門講座を開講                                                                                                                  |
| 1997（平成9）年  | 4月  | 刑事博物館にて「ヨーロッパ拷問展」開催（～12月）                                                                                                   |
| 2001（平成13）年 | 4月  | 刑事博物館が文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託                                                                                                  |
| 2002（平成14）年 | 4月  | 商品博物館に名称変更 商品博物館長に澤内隆志商学部教授が就任                                                                                              |
| 2004（平成16）年 | 4月  | 「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館<br>博物館長に小嶋尚文学部教授が就任、「明治大学博物館規程」改正施行（刑事博物館・商品博物館・考古学博物館を統合）、国外から資料を借用しての特別展「韓国スヤング遺跡と日本の旧石器時代」開催（～5月） |
|             | 10月 | 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（～2005年3月）                                                                                              |
| 2006（平成18）年 | 4月  | 博物館長に杉原重夫文学部教授が就任                                                                                                           |
|             | 8月  | 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（～2007年3月）                                                                                              |
|             | 10月 | 特別展「掘り出された子どもの歴史」にて国指定重要文化財を借用・展示                                                                                           |

|             |     |                                                                                                                       |
|-------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2007（平成19）年 | 11月 | 明治大学黒曜石研究センターが博物館分館となる（～2010年3月）                                                                                      |
| 2009（平成21）年 | 10月 | 事務所管部署が学術・社会連携部社会連携事務室となる                                                                                             |
| 2010（平成22）年 | 4月  | 事務所管部署が学術・社会連携部博物館事務室となる<br>巡回特別展「海のシルクロードの出発点“福建”」展開催 中国国家一級文物を展示（～5月）                                               |
| 2012（平成24）年 | 3月  | 南山大学人類学博物館と交流協定締結                                                                                                     |
|             | 4月  | 博物館長に風間信隆商学部教授が就任                                                                                                     |
| 2013（平成25）年 | 2月  | ギロチンとニュルンベルクの鉄の処女が名古屋へ 南山大学人類学博物館・名古屋市博物館との合同特別展「驚きの博物館コレクション展」開催（～3月）                                                |
|             | 3月  | 南山大学人類学博物館との合同シンポジウム成果刊行物『博物館資料の再生—自明性への問いとコレクションの文化資源化—』を岩田書院から刊行                                                    |
|             | 7月  | 岩宿遺跡出土石器（重文・29点）他記録類をはじめて海外へ出展（～9月）、韓国公州市石壮里博物館・群馬県岩宿博物館と共催で「日本旧石器の始まり“岩宿”」展開催（～2014年2月）                              |
| 2014（平成26）年 | 5月  | 開館10年を記念して、これまでの来歴を検証し将来を展望した「明大博物館クロニクル」開催（～6月）                                                                      |
|             | 7月  | 大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定にもとづき、明治大学博物館のコレクションを紹介した「明治大学コレクションの世界：氷河期から昭和まで」を大船渡市立博物館で開催（～8月）                             |
| 2016（平成28）年 | 3月  | 常設展示を改修し新装オープン、東京都教育庁から博物館相当施設に指定される                                                                                  |
|             | 4月  | 博物館長に村上一博法学部教授が就任                                                                                                     |
| 2017（平成29）年 | 4月  | 明治大学博物館規程の一部改正が承認され、博物館協議会を博物館運営委員会に改組                                                                                |
| 2018（平成30）年 | 3月  | 年度の入館・利用者数が初めて10万人を超える                                                                                                |
|             | 4月  | 博物館長に井上崇通商学部教授が就任                                                                                                     |
|             | 8月  | 2004年の開館以来の入館・利用者数が100万人を超える                                                                                          |
|             | 10月 | 大英博物館所蔵資料を借用・展示した特別展「ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究」開催（～12月）                                                                     |
| 2019（令和1）年  | 9月  | 特別展「見えているのに見えていない！立体錯視の最前線」が入場者2万人を超える                                                                                |
| 2020（令和2）年  | 2月  | 年度の入館・利用者数が初めて11万人を超える                                                                                                |
|             | 3月  | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～10月）                                                                                         |
|             | 4月  | 博物館長に千葉修身商学部教授が就任                                                                                                     |
|             | 10月 | 新型コロナウイルス感染症による行動制限下で特別展「氷河期の狩人は黒曜石の山をめざす—明治大学の黒曜石考古学—」を開催                                                            |
| 2021（令和3）年  | 7月  | 大学史資料センターとの共同企画特別展として、明治大学創立140周年記念事業「校友山脈—明治大学の教育と人材—」と特別展校友山脈第Ⅱ部 明治大学×SDGs 神田学生街—140年の今⇄昔—を開催                       |
| 2022（令和4）年  | 10月 | 特別展「新しいお殿様—所替・その後—」を開催                                                                                                |
| 2024（令和6）年  | 3月  | 連続テレビ小説「虎に翼」展（NHK財団主催）、「女性法曹養成機関のパイオニア—明治大学法学部と女子部—」展（明治大学大学史資料センター主催）を開催（～10月）、入場者が7万人を超える。<br>常設展示室商品部門展示を刷新、新規オープン |
|             | 4月  | 博物館長に石川幹人情報コミュニケーション学部教授が就任                                                                                           |
|             | 12月 | 東京都教育庁に申請を行い、改正博物館法による登録博物館となる                                                                                        |
| 2025（令和7）年  | 3月  | 常設展示室考古部門展示を刷新、新規オープン<br>年度の入館・利用者数が初めて約16万人に達する                                                                      |
| 2026（令和8）年  | 3月  | 常設展示室刑事部門展示を刷新、新規オープン<br>ショップスペースを館の来歴を紹介する展示に改修                                                                      |

伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.17

## VII 陶磁器のプロデューサー —京焼・清水焼卸売商社の事業展開—

「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会

### I 基調報告

熊 谷 隆 慶

株式会社熊谷聡商店代表取締役社長

最初に弊社について紹介させていただきます。私の祖父が京都で創業し、今年で90年目になります。京都の山科の地で京焼・清水焼の製造・卸、小売をしております。私は京都で生まれ、歴史が好きだったので、京都の大学で中国をはじめ世界史を学びました。大学を卒業した後、すぐには現在の会社に入らなかったのですが、家電量販店に就職し、エアコンや洗濯機といったものを販売していました。3年後ぐらいに、父親から戻ってきてくれないかと言われ、1999年に入社しました。営業活動をしていましたが、2010年の1月に社長を交代して、現在に至るということになります。

今は山科に会社があるのですが、以前は七条、つまり三十三間堂のある東山の方にありました。その頃は間口が非常に狭く、奥に長い、いわゆるうなぎ床と言われているような建物で、私も小さい頃はよくこの会社に行っていたのですが、本当に奥に行くと薄暗く、長く続いているような店舗でした。その後、山科に移りました。本社の社屋の1階は包装場で、日々お客さまから注文があれば、ここで箱に入れて、梱包をして、出荷をしており、検品作業もここで行っています。検品は全部しますので、何百、何千、何万個という数を、一個一個、目で確認しながら作業をしています。在庫置き場はアイテムごとに商品が分類されており、早見表が各棚の側面に貼



ってあります。商品名を見て、何番の何、Hの5、Hの6にそれがありますよ、というのを確認して、そこから品出しをします。注文は毎日来ますので、営業の各担当者がそこから商品を品出ししていくことになっています。以前、阪神大震災など大きな地震があった際、棚が倒れてしまったので、紐を渡して落ちにくいようにしたり、金具で留めたりという地震対策もしています。

本社の向かいにはショールームがあります。1階、2階は「ギャラリー洛中洛外」という展示場になっており、3階が工房です。2階は陶芸作家の個展なども時々行います。2階にはこのギャラリーの象徴となってる『洛中洛外図屏風』の陶板があります。屏風の絵を手描きで写して焼いた、薄さ2ミリほどの陶板が壁に設置してあります。こうして（写真製版ではなく）手で描いたものは、恐らくここだけではないかと思われます。3階は絵付けの工房になっ

ています。今は絵付け職人が2人おり、箸置きの型を抜いたり、窯もありますので、焼く作業もする場所になっています。

つづいて、京焼・清水焼とは何かという、歴史についてお話ししたいと思います。「京焼」とは京都で焼かれた陶磁器の総称です。「清水焼」とは、清水寺周辺で焼かれた陶磁器のことを言います。歴史上は地名などを冠した栗田焼、音羽焼、清閑寺焼など、多くの窯場があったのですが、今は「京焼・清水焼」と、間に中点があるのですが、その名称で国の伝統的工芸品に指定されています。よく「シミズ焼」と間違った言い方をされる方もおられますが、正しくは「キヨミズ焼」になります。キヨミズ寺から来ていますので、キヨミズ焼です。京焼の始まりは諸説ありますが、大体、17世紀初頭ぐらいから、お茶の道具や食器などが盛んに作られてきました。

中でも、野々村仁清は華麗で雅な色絵陶器を作り、京焼のさまざまな窯に大きな影響を与えています。17世紀後半には尾形乾山。紅葉の絵付けが有名ですが、独創性のある色絵の器を作っていました。この2人が今も続く京焼の流れをつくり、仁清写し、乾山写しという形で彼らをお手本とし、今もなお形や絵柄が引き継がれています。また、清水寺には仁清・乾山の記念碑が建立されていて、毎年、10月4日の陶器の日には陶祖として法要が営まれています。

江戸後期からは、磁器製造で呉須赤絵の文様を得意とした奥田潁川。その影響を受けた青木木米がさらに芸術性を高めました。磁器というのは、高温で焼かれていて、白く、吸水性がなく、叩いた時に金属音がする器のことです。先ほどの仁清・乾山は陶器だったのですが、京焼には陶器と磁器と両方があり、京都を中心として窯元が発展してゆきました。透明釉の上に色絵、金彩、銀彩など、多彩な装飾技法が発達し、伝統を踏まえつつも、陶芸作家の創意工夫により、色とりどりの美しい絵柄が施されるようになりました。

明治時代に入ると、皇居が東京に移って京都の人口が激減し、従来の顧客層の喪失、外国文化の流入という背景から、京焼は海外に販路を求め始めます。錦光山宗兵衛の大きな飾りのある作品など、神戸の外国商館での試売会を経て、フィラデルフィア、ウィーン、パリといった万国博覧会への出品など、積極的に海外へPR活動を展開しました。輸出を目的として、港のある横浜に窯を築くなど、隆盛を極めた時代もありました。明治の一時期、絢爛豪華なものが日本から輸出されていた、一つの大きな産業であったということです。

大正時代の終わりに、手仕事によって生み出される日常使いの雑器の中に美を見い出そうとする民藝運動が起こります。京都では河井寛次郎ら民藝作家が作陶に励みました。第2次世界大戦後は、文化的な活動が盛んになる中、京焼には日展や、日本工芸会、走泥社など美術作家の団体に所属して芸術的な高みに上げようとする個人作家と、伝統技術を継承して京焼としての優美な器を提供しようとする窯元の、二つの流れがあると言えます。近代に入り急速な工業化が進み、陶磁器の多くが機械による量産品となる中でも、京焼・清水焼はあくまでも手作り、手描きにこだわり、職人による伝統技法を守り続けています。

それでは、現在、弊社が扱っている京焼・清水焼がどういったものか。一般的なものには、例えば、陶器に富士山(①)や桜(②)を描いた和風柄の湯呑みや飯碗。また、花柄(③)のものは、「印花」と言いまして、花びらの形の手作りのハンコを連続的に器のボディに押しあててゆき、装飾をしていく技法があります。釉薬の“流れ”で表現した柄もあります(④)。楽置物(⑤)などもあり、低温で焼く楽焼という焼き物で表現します。箸置き(⑥)も1個ずつ手作り・手描きです。伝統的な柄を用いた湯呑み、飯碗といったものは、贈答に使われることが多いです。



①



②



③



④



⑤



⑥

## II 討論

ゲ ス ト

熊谷 隆慶

パネリスト

町田 一兵 明治大学商学部教授

上原 義子 明治大学商学部兼任講師

高千穂大学商学部准教授

進 行

外山 徹 明治大学博物館学芸員

**進行** 最初に、経営を引き継がれた2010年前後からの、いろいろと試行錯誤をされた様子などについてご紹介いただけますでしょうか。

**熊谷** 先代の頃は全国の百貨店と陶器専門店が売り上げの大部分を占めていました。トラックに京焼を積んで全国各地に赴いて京焼展を開催するなどしてきました。ただ、ITバブル崩壊の2000年頃から地方の百貨店が閉店したり、和食器売り場の縮小があったり、後継者不足によって陶器専門店が廃業するなどして売り上げが減少し始めました。リーマンショックの2008年から2009年にかけての頃、さら

に売り上げが落ちてしまった後、2010年に事業承継をしました。そこから売り上げを拡大していかなければならなかったのですが、まず私が動いたのは、ギフトを専門とする会社へ営業をかけたことです。結婚式の引き出物や葬儀の香典返しにはギフトカタログという冊子を使用することが多かった時代です。結婚式に行って引き出物を持って帰るのではなく、本のようなものをもらって帰って、そこから好きなものを選んで注文するというスタイルが増えていた時代ですが、価格帯別にコースが分かれた冊子に、順次、京焼・清水焼を掲載していただきました。カタログギフト会社の売り上げランキングを調べまして、上から順番に営業をかけてゆきました。恐らく6位か7位ぐらいまでは新規営業をしていったのですが、取引条件の厳しい所が多く、その辺りで営業はやめたように記憶しています。ボリュームは減っているのですが、それらの会社とは現在も取引を継続しており、その時に開拓した販売先が売り上げに貢献してくださっています。

その時分に、弊社のショールームをお訪ねいただ

いた、京都の日本酒メーカーの担当者からお話をいただき、オリジナルの徳利とぐい呑みを作りたいということで、いくつか試作をしました。その中から1種類を採用いただき、日本酒と酒器をセットにされて、現在も成田空港の免税店で海外向けの土産物として販売いただいています。新しいこととしては、九谷焼の同業他社の社長から東京の大手葬儀会社を紹介いただきました。先方の要望を聞きながら、骨壺を抱えて何度か京都と東京を車で往復して、ようやくいくつか採用いただいたということがありました。その後、京都の葬儀会社とも取引ができて、そちらは西日本を中心に販売いただいています。骨壺のほかに仏具についても、これも卸売りの大手の商社にサンプルを作り、現在も定番品として取り扱っていただいています。こうした新たな取引をいろいろと積み重ねて、何とか少しずつ数字のほうは上向きになっていったということになります。

**進行** 以前は百貨店、専門店という、割とシンプルな流通だったものが、この十数年はさまざまなチャネルを開発してゆかねばならないという状況があるようです。

**上原** 商業学という、流通がまず基本になるところなのですが、いわゆるマルチチャネル化が起きていることは、以前から伺っております。御社の場合は具体的にどのような販路をお持ちか伺ってもよろしいですか。

**熊谷** 今申し上げましたギフトカタログの会社であったり、百貨店、陶器専門店に加え、業務用卸しがあります。ホテルや旅館。それから通信販売サイトへの卸しですね。仏具卸しは全国の仏具店や葬儀会社。小売店へ直接の卸しもあるので、そこは一般の消費者ともつながっています。

**上原** 「京焼・清水焼は伝統的工芸品です」と聞くと、正直なところそれほど身近には思えないですが、食器として見るとかなり身近に感じます。それから、興味深いのは先ほどの骨壺ですね。どうしても死後の世界のようなところは避けて通りがちですが、きちんとそうしたところもフォローされていることを

考えると、実は最先端にいるのがこうした陶磁器関係なのかなと感じます。

学生の目線からすると、百貨店やオンライン通販あたりが気になると思いますが、それらの動向は何か特徴的なことはありますか。

**熊谷** 百貨店に関しては、先ほど地方の百貨店が閉店した話をしましたが、昨今では都市部に関してはインバウンドの影響が色濃く出ており、東京、大阪や京都も多くの外国人客が来られているので、売り上げは好調に推移しています。オンライン販売に関しては、当初の20年ほど前には、斬新な販売スタイルとしてよく分からないこともあり、先代も焼き物は実際に手に触れてこそ初めて良さが伝わるというような考えがあり、お断りしていた時期もありました。その中でも何軒かはお付き合いしていたのですが、私の代になってネット販売をする所は急速に増えていった流れにあります。最近では、国外へ越境ECを行う会社も増えてきていますので、オンライン販売という中でも多種多様になってきていると思います。

**上原** 私も食器を買う時は持って帰るのは重いし、割れたら残念なことになりますので、ほぼネット通販です。ただ、当初は通販というのはなかなか難しいシチュエーションだったわけですが、その後、消費者にどのような変化があって、普通に利用するようになったのか、何か感じられることはありますか。

**熊谷** やはり便利さだと思います。人間は便利さを知ってしまうと、そちらに流れてしまうことがあると思います。ネット販売というのは20年ほど前から始まっていますが、利用する方が増えていくに従って、便利さに気づいて何度も使うようになったのではないかと思います。特に10年か15年ほど前から、スマートフォンを使って手で注文ができるようになってくると、より加速していったということかと思います。

**上原** ギャラリーでの直販もチャネルとしてお持ちですが、来店するファンをつなぎ留める工夫などがありますか。

**熊谷** ファン層の獲得というのは、本来、小売り側の仕事なので、卸し先の小売りが顧客に向けて情報発信を行っています。弊社としてもInstagramなどで季節商品や新商品の発信をしていますが、あくまで小売り側ということになります。今おっしゃった弊社の小売り部「ギャラリー洛中洛外」は顧客リストを持っていますので、SNSやDMハガキで個展や陶器祭りの開催予定について直接連絡をしています。

**上原** 最終消費者が何を欲しているのか、なかなか卸売商には伝わってこないのが、どうしても小売店が強くなりがちだと言いますが、こういう直販のルートを持っているというのは、消費者の動向も分かりやすいので、すごく有効な組織なのだと思います。

**町田** 私の専門が国際交通論、物流ということもありますが、近年におきましては、やはり海外からの観光客が増えていることが注目されます。まして、御社のある京都は外国人観光客が非常に増え、京都駅では多くの外国人観光客がお土産を買っています。インバウンドを意識した商品開発などの取り組みについてご紹介いただけますでしょうか。

**熊谷** 現在は、例えば、東京の浅草や京都の清水寺周辺にある販売店、全国の主要な観光地で多店舗展開をされている会社が販売チャネルとなっています。訪日外国人に人気がある富士山、また、桜や紅葉というのは、日本の方はその季節にしか買わない傾向があったのですが、現在は季節に関係なく日本のイメージとして成立していますので、インバウンドにはさまざまな季節のものが年中売れています。例えば、インバウンド客に向けて抹茶をたてる体験を提供されている企業からお茶道具の要望があったりということがあります。お抹茶に対して興味を示される外国の方も増えていますので、抹茶碗というアイテムについては、季節の花柄を含めた新商品の開発を積極的に進めている状況にあります。

**町田** これからさらにインバウンドが増えるということからすると、日本を象徴するような土産が買わ

れることが引き続き増えていくと思います。一方、海外にしながら日本的なものを求める需要も増えていると思いますが、物流を研究する者としてよく理解しているのは、輸送手段、保険、通関などの手続きがあり、海外に物を売るというのは簡単ではないということです。そして、何よりも大変なのが、いかに海外の方にその良さを知ってもらうか、品物自体を知ってもらうことが重要だと思います。御社として海外を含めての販路拡大にあたり、積極的に取り組まれている具体例をご紹介しますでしょうか。

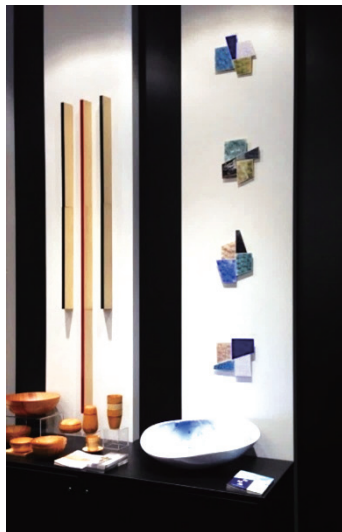
**熊谷** 海外展開は国内と同じく重要なことと以前から考えており、海外への輸出は直送、また、現地の取りまとめ業者、貿易会社を経由する場合とあります。海外へ出始めたのは2012年からになります。最初に取り組んだのが中国でした。地理的に近いということと、現在もそうなのですが、非常に大きな市場を持っています。行政の支援を得ながら上海で、また、北京だったり、深圳に行ったり、各都市の展示会に出かけてゆき、中国で何が売れるのかを探っていたのが2012年からとなります。その時は、「天目（てんもく）」というお茶道具類への反応が良く、興味のないものは全く出ないのですが、興味を持たれたものは大きな反応があることが分かってきました。

その後、中国にも行っていますが、ヨーロッパの展示会に行くようになりました。それは、7年ほど出展したのですが、フランスのパリのメゾン・エ・オブジェ (MAISON & OBJET) という展示会です。1年目は本当に小さいブースで、50センチ四方ぐらいの小さなスペースしかなく、そこに商品を並べてということでした。当然、それだけでは全然反応がなく、5日間何も得るものがないのはどうかと思い、いろいろ会場内を歩いて回りました。大手の紅茶メーカーや、イタリアのタイルメーカーなど、ビッグブランドの中を歩いて回り、向こうのインテリアマーケットが巨大なマーケットであるということがわかりました。5日間だけのイベントのためにお

城のような店舗が建っていたり、マイセンでは入り口に黒服の方が2人立っていて、中に入るとシャンパンをふるまいながら営業の方が案内をしてくれる、というような、ちょっと私らでは考えられないような展示会が繰り広げられていたのがすごく印象的でした。こういうインテリアの世界に、モノを作って持っていないといけないと感じたのが1年目でした。

2年目からはインテリア商品の開発を始め、風車をイメージして陶板を4枚組み合わせ壁面に飾るもの（写真）を作ったり、3年目は花結晶というデザインの陶板を壁面にデコレーションしていったり。4年目には、現地のフランスのデザイナーとコラボした陶板装飾を持っていったのですが、1年がかりで作って渡航する5時間前によく準備が完了し、そのまま70キロの荷物を持って飛行機に乗ったりと、大変だった思い出があります。そうして現地の方にPRしてゆきました。

5年目には、施工事例を見たいということが多くて、CGをパネルにして壁面に張り、一緒に食器も並べ、食器は食器でまた反応が出たりしました。その間に、パリのいろいろなインテリアデザインの事務所に営業をかけに行きまして、情報を集めました。6年



花結晶



目には壁面に飾るインテリアとともに並べた食器のほうもレストランなどからのオーダーが結構ありました。アメリカのレストランからも注文があり、すぐ買っていただけるようなところだったので、アメリカにも興味を持ちました。ドイツのフランクフルト・アンビエンテ（Ambiente）も1回だけ出たのですが、あまり反応がありませんでした。デミタスカップはパリではすごく人気があったのですが、ドイツではあまり反応がなく、国によって違いがあるのかと思います。その後、ニューヨーク・ナウ（NEW YORK NOW）という展示会にも出ましたが、ここは非常に反応が良かったです。気に入られたらすぐ買っていただけるような、全米からバイヤーが来ていたので、PRができたし、卸売商ともつながるなど成果が出ました。

**町田** 日本の伝統的な工芸プラス、海外の需要に合わせてオリジナルなものを作っていく。日本の伝統を保ちつつ、新しいマーケットを開拓するため試行錯誤され、行かれたところ全てで成功されたわけではないけれども、引き続き拮据してゆく努力をされていることがよく分かりました。

**外山** フランスで人気のあったデミタスカップがドイツではあまり受けなかったということでしたが、それぞれのお国柄として趣向性の違いに関するエピソードをお聞かせいただけますか。

**熊谷** フランスのパリで一般客に向けた展示会を開いたのですが、デミタスカップを並べたところ、非常に反応があつてよく売れました。追加で日本から送るくらいよい反応がありました。向こうのコーヒ



ーショップで、普通にコーヒーを頼むとデミタスカップに入ってくるというのが分かって、アメリカンと言わないと大きい普段私らが飲んでいるコーヒーが出てこない。なるほど、こういうことかと思いました。アメリカの展示会に出た時に、日本のマグカップは大体250から300mlぐらい。普段、皆さんが使われるようなマグカップは、バイヤーの方に小さい小さいと言われ、本当かなと思って向こうの百貨店やいろいろな商業施設に見に行きました。確かにかなり大きいですね。450から500mlぐらいありそうなサイズのものがたくさん売られていまして、なるほど、サイズ感が違うんだなと感じました。それで現在のグランデマグという500ml弱のマグカップを開発し、インバウンド向けに国内でも販売しています。

中国に関しては、茶器類が非常によく売れていました。だいたい種類も増えて、中国での販売もありますし、国内のインバウンドにも茶器類がよく売れています。現地に行って初めてそうしたニーズが分かるということがありました。

**外山** その中国での茶器というのは、具体的には煎茶器なのか、それとも日本風の茶道の道具なのでしょうか？

**熊谷** 煎茶器になります。茶道という抹茶碗は中国ではほとんど売れずに、日本で使っている「宝瓶（ほうびん）」と言うのですが、急須に手の付いていないタイプの煎茶道具が向こうで使われる傾向にあります。

**外山** もともと茶器というのは中国で発達したものであったのですが、こういう形で日本風のテイストの

ものが受け入れられるというのは、なかなか興味深い傾向だと思います。

**上原** つづいて商品開発について伺いたいのですが、もともと京都の卸売商は、オリジナル商品の製造、販売を行っていたと伺いました。具体的にはどのようなケースがあるのでしょうか。

**熊谷** 京都の同業他社が同じ窯元に依頼をする時は、それぞれにオリジナルの商品を作ることになります。他社が扱っていない形、絵柄。同じモチーフであっても構図を変えるなどして、商品のバッチングがないよう窯元も含めて工夫をしているのがずっと続いています。生地と絵付けを別の職人に依頼すること多いので、それぞれの産地卸しがお付き合いのある生地屋や絵付け屋に依頼するということから、また違った商品が出来上がってくるという背景がありました。すなわち、窯元が一つの商品を作って、それをいくつかの卸しが仕入れて販売するというよりは、卸しが独自性のあるものを作り出してゆくという流れがあったことになります。

**上原** 職人というと自分のポリシーがしっかりしていて頑固な面もあるかと思いますが、その辺りの差配でご苦労されたことはありますか。

**熊谷** こちらの指示通りしていただけるところと、なかなかしていただけないところと、人によってあります。腕が良くて仕事が早いとその分コストも落ちますので、そういう職人は人気があって仕事が集中してゆきます。仕事がちょっと遅いとどうしても値段が高くなってしまいますので、人気のある職人がある程度決まってくるということがあります。

**上原** 宇宙飛行士のリーダーも、オーケストラの指揮者も、メンバーの個性が強く、かつ各方面の専門家をまとめるので、すごくリーダーシップをとるのが難しいと聞いたことがあります。その点、卸売商もプロデューサーの立場としてのご苦労がいろいろあるのかなという印象を受けております。

OEMの動向はいかがですか。差し支えない範囲で構いませんが、例えばどういうところから、どのような仕事がくるのか伺えますか。

**熊谷** O E Mの事例ではキャラクターをデザインしたのがあります。例えば、ハローキティを手描きで全部描いています。ひげの角度など厳格に決まっています。あと、スヌーピーなどの抹茶碗を作って、専門のショップで販売していただいています。

京阪電車には、プレミアムカーという特別車両の車内で販売する特製の箸置きを作らせていただきました。全国展開されている簪（かんざし）の会社からの依頼では、簪に付属する玉に絵を施して納めさせていただきました。簪というのは和装だけではなく洋装でも挿されることがあり、そういった需要もあります。最初にお話しした骨壺は、関東は大体、7号、8号と結構大きいのですが、関西・西日本は4号、5号とちょっと小さいという、地域によってサイズの違いがあります。仏具は、最近、仏壇のサイズがすごく小さくなってきて、小さいものの開発を今はしています。マグカップは「生涯を添い遂げるマグ」と言いまして、割れたとしても1回目は無料で代わりがもらえ、2回目以降は2000円から4000円くらい払うと新しいマグカップが届くというようなシステムを作って販売されている会社もあります。毛糸を作っている会社からは、その会社のキャラクターをあしらったヤーンボウルという、編み物の時に毛糸の玉を入れる容器を作ってほしいというご依頼を受け、創業者の生誕100年記念で作ったのがあります。

インテリアにつきましては、日本酒のメーカーに、海外の展示会でインテリアを出していたことを知っていただき、東京に事務所をつくるということから、その洗面所の壁面に飾るものを作らせていただいたりもしました。大阪のホテルでは、「花結晶」のデザインで薄さ2ミリほどの陶板に、LEDの光を透かせて柱状の照明を使っています。京都のホテルではフロントの背後の壁一面に花結晶の陶板を使って照明としています。アメニティー用の陶板やティッシュ入れのボックスといったもの、洗面ボウルもあります。住宅メーカーとも、三井ホームには新築の分譲住宅にタイルを採用いただいたりも

しました。海外での初めての施工事例として、花結晶のタイルを850枚ほどモザイク状に張ったところがあります。VIPルームに、もともと絵か何かを飾ろうとされていたのが、花結晶がすごくきれいだということで使っていただきました。ホテルやマンションでちょっと変わったものが欲しいというご要望があって、そうしたものを作っています。O E Mはお客さまのご要望に応じて、物作りをしているということになります。

**上原** ところで、先ほどのハローキティの抹茶碗はどこで販売していますか？

**熊谷** 京都の錦市場にハローキティのグッズを販売するお店があり、そこで販売されていましたが、今はSNOOPY茶屋となっています。観光地にそういうキャラクターものの店舗展開をする会社があり、そこが企画して弊社が作って提案するという流れになります。

**上原** 主に購入者は外国人ですか？

**熊谷** 外国人は多いと思います。

**上原** どうしても伝統工芸と聞くと、年齢層の高い消費者像を思い浮かべてしまいます。現在、いろいろな業界で消費者の若返り、新陳代謝が必要だと言われています。ハローキティもそうですが、その辺りの活動、アプローチ方法について伺えますか。

**熊谷** 若い世代に向けた具体的な商品開発というのは行っていないですが、顧客の趣向に応じた商品としては、例えば、ネコ好きな方であったり、ハート柄が好きな方に向けた商品開発を行っています。かわいいモチーフの器は、年齢を問わず、女性に反応がよい商品があります。若年層に向けては手作りゆえの高価格がネックになっているので、箸置きなどの価格を抑えた商品があります。

**上原** そういったものは、主にどのような場所で売られていますか。例えば、「私の部屋」であるとか、「KEYUCA」といったライフスタイルショップに行けば、そうした若者向けの、かつ、伝統工芸によるものが買えるのかと思いますが、販路としてはどの辺りになりますか。

**熊谷** 百貨店であったり、渋谷のヒカリエでは弊社の商品を販売していただいているところがありますが、ネットのほうが商品の数は一番多く見ていただけるのではないかと思います。京焼で「はし置き」と検索すればたくさん出てきて、選んでいただけるかなと思います。

**上原** そのときは、熊谷聡商店という社名ではなく、京焼・清水焼として出ていますか？

**熊谷** そうですね。

**上原** 商品開発の時、最近では外部のデザイナーとコラボする例も増えてきていると思いますが、御社のブランド戦略として、何か取り組みはされていますか。

**熊谷** 「＝K＋（イコールケープラス）」という独自のブランドを2014年から立ち上げております。「＝K＋」というのは、デザイナーであったり、シェフであったり、芸術家であったり、いろいろな方とコラボして、モノ作りをしてゆく弊社のブランドになります。国内外のデザイナーとコラボし始めたのは、行政の支援プロジェクトに参加したのがきっかけで、2013年頃からはなります。京都で和傘製造をしている日吉屋代表の西堀耕太郎さんがコーディネーターを務めておられました。デザイナーがデザインするものは、ありそうでなかったデザインであったり、言葉でやりとりしたものを形にしたり、また、海外のデザイナーとコラボする際は、その国の需要に応える器をその国のデザイナーにデザインしていただいて開発、展示するという形をとりました。食器や茶器、インテリアなど、幅広く商品展開をしています。Kというのは、熊谷、京都のK、京都ウエア、清水ウエアのKであり、それにプラスしてデザイナー、アーティストという意味なのです。

具体的には三宅一成（みやけ かずしげ）さん。この方が一番お付き合いしているのが長く、デミタスカップをデザインしていただいた方です。これは、ソラフォンと言いまして、スマートフォンを挿し込んでスピーカー代わりにしようということで作ったものです。ペット用のボウルは弊社のお客様が自分

のペットに自分の使っているボウルに餌を入れてやっていたのですが、食べる時に跳んで行ってしまいうということから、ちょっと重さのあるものをペット用として開発しました。Paws Bowl 2という



に相談をしたところ高さというのが非常に重要で、下を向いて食べると、嚥下障害で吐き戻したりするので、高さはなるべく合わせたほうがいいと言っただき、燕三条（新潟県）のステンレスのフレームを、大型犬用、中型犬用、小型犬用という形で、高さを変えて作ってもらいました。



「涼の音」という風鈴は、風鈴の音が近所迷惑になっているという報道などがよくあった頃で、室内で窓を閉め切ってエアコンの風や扇風機の風で鳴る



風鈴を開発したらどうかということから始まったものになります。ボディは京焼・清水焼で、風受けの所は石川県の山中塗になります。舌（ぜつ）と言って鳴らす部品は岩手の南部鉄器になりますし、外側のフレームは新潟の燕三条と、いろいろな伝統工芸が凝縮されたものになっています。これは毎年いろいろな雑誌やテレビ番組からご依頼をいただいて、露出する機会は非常に多い商品になっています。お香をたく香炉に「きの香」があります。きのこの形をしたこれも三宅一成さんのデザインによるものです。



花結晶を使ったインテリアの開発ができないかということで、フランスのサントアントワヌ（Saint Antoine）というデザイナーのチームとコラボを行い、パリに行った時に彼らの工房で焼きあがった花結晶の陶板を組み合わせてミラーも作りました。

エリザベスさんというフランスのデザイナーとは、BLOW BOWLという、空気が膨らまして押したようなもので、中は空洞になっているのですが、サラダを入れたり、果物を入れたりという大きなものを作りました。あとは、胡椒入れ、塩入れ、小花生だったり。ひっくり返すとキャンドルスタンドで、また元に戻すとアロマキャンドルになるという、リバーシブルに使えるスタンドも作りました。



フランスのアーサーさんとはBEAK BOWLというものを作っています。彼と一緒に製造現場の窯元へ行ったのですが、その製造工程がすごくいいと言

いまして、赤土素地、それに白化粧をして、内側に釉薬をかけて、外側に釉薬をかけ、口元に金を塗るという形で5個組みにして、製造工程の順に時間の流れを表現したインテリアになると。飾れるし、食器として使うこともできるということでBEAK BOWLというものが出来上がりました。



アメリカのマシューさんという方はお酒が大好きな方で、アメリカで販売してゆくにあたって、ウイスキーだったり、日本酒、ワインといろいろなものが飲めるようにと開発したものがあります。注ぎ口や飲み口を斜めにカットして、特徴のあるものになっています。



イタリアのシェフの方とコラボした時はコンペに出すから作ってほしいという要望をいただきました。五種類の味、酸っぱかったり、甘かったりいろんな味がするソースに付けて食べ、最後に、器を傾けると窪みに入ったトマト水が反対側にセットされてい



るカップの中へ流れ込んで、カップを取り出して飲むという趣向になっています。これも本当にイタリアに行く前日ぐらいに出来上がって、何とか間に合って納品したという経緯があります。この方も賞を取られて、京都でお祝いをしました。

京都のデザイナーである山下順三さんと作ったティーセットは、8年ほど前にアメリカとドイツのホテルから鉄瓶に合うイメージの茶器を作ってほしいとご要望いただいたものです。鉄瓶というのは南部鉄瓶などが有名ですが、海外のホテルで鉄瓶を使ってお茶を出すことも多くなってきた時代です。最初は割れない焼き物を作ってほしいと言われたのですが、焼き物なので割れますよと言いながらも、陶器に磁器の成分を入れたり、焼く温度を高くしたりで、鉄の雰囲気のあるかなり硬いものに仕上がりました。これを鳴らしてみると、非常によい音がしたので、先ほどの涼の音という置き型風鈴の開発につながったということもありました。これも海外のレストランで使用いただいた実績があります。



梅野聡さんとは掛け時計、置き時計を作らせていただきました。記念品として時計というのはよく使われます。同じく花結晶で作りました。目盛りの部分は穴が開いているのですが、これはもともと香炉のふたの穴の開いているところからインスピレーションを得られたそうです。KOROMOというシリーズは、白地の磁器に衣のように釉薬をかけて色の違いを楽しんでいただくもので、漆器は京都の井助商店さんが同じデザインで作りました。漆器は木地の露出した部分と塗りの部分で違いを見ていただくと



いうものです。

馬淵晃さんとは蚊遣り器を作りました。まだ発表間もないものですが、蚊の生息域がかなり北上していることと、東南アジアなど赤道近くの所から来られるインバウンドも多く、蚊取り線香を使われる方も多いと聞きます。かき氷をイメージしてメロンやレモンのシロップの色を花結晶で施しました。ふたをして蚊取り線香入れとして使えるものです。こう



したものをコラボレーションで作ってきました。

**上原** 相当な人数の方とのお付き合いがありますが、こういう出会い、ご縁というのはどうやって結ばれるのですか。

**熊谷** 行政の支援が多いです。京都府であったり、市の商工会議所、また、国であったりというところのプロジェクトに参加すると、こうしたマッチングをしていただけます。

**上原** こうした行政のサポートは、かなりの的を射ている感じなのでしょうか？

**熊谷** 先ほどの西堀さんが動いてコーディネートしていただき、行政の側からは場所であったり、資金

面を手当てしてもらいました。実際にはコーディネーターがどういう方かによって大きく成果が違ってくのではないかと思います。

**外山** 行政の施策が特に海外展開ではうまく行っていない事例もありますが、キーパーソンになる方の手腕次第というところがありそうですね。一方で、マッチングがなされた後については、産地のプロデューサー的な方の力量次第ということになるかという印象でした。今日、会場に来られた皆さんは、もともと抱いていた京焼・清水焼のイメージとは、だいぶ違った印象を持たれたのではないかと思います。全くわれわれには想像もできないような器ながら、そこそこに和のテイストが生かされたものを、外国の方がよく考えられているというのも印象的でした。置き風鈴については、日本の伝統工芸が四つ組み合わせられているという点で、非常に画期的なアイデアだと思いながら聞いておりました。

例年、定点観測の意味で行っている質問について、京都の一般的な動向として教えていただければと思います。こうした手作りの焼き物というのは、価格の設定について、産地によって特有な習慣があります。例えば、作った陶芸作家の方が有名だと値段が高くて、そうではない人はそれなりの値段。あるいは、直売をする時には大幅に値引きがされる。また、価格は、あそこがいくらならばこちらはこのくらい、と他の産地の様子を見て相対的に決めたりと、普通の工業製品とは違った習慣があるようですが、京都の場合、これについてはいかがでしょうか。

**熊谷** 価格設定につきましては、原価積算が基本です。原価というのは、原材料費であったり、光熱費、人件費を指しますが、価格は流通の段階が増えるほどコストが上乗せされます。生産者はうまく焼きあがったかの歩留まりのリスクがありますし、卸しは在庫を積むリスク。小売店は人件費を払って販売するリスク。それぞれで分担することによってリスクが分散されています。メーカーや作り手による直売と言っても、結局、販売量が増えてゆけば増産しなければならず、歩留まりのリスクが出て、また、多

くの在庫も抱え、販売するために人も雇っていかなければいけません。伝統産業として維持・発展させてゆくためには、価格というのは自然と定まってゆくものだと思います。基本的な考えとしては、価格というのは購入者にとって商品の価値に見合うものでなければならないということです。いつもそのことを考えながら価格は決めています。

**外山** 御社ではかなりバラエティーに富んだ商品を扱っておられたり、流通の経路が確立されていることを考えると、あまりイレギュラーな値段の付け方というのはなくて、オーソドックスにコストの積算という形で対応されているということですね。あと、どこの産地でも言われる課題が、やはり後継者育成の問題なのですが、京焼・清水焼では、どのような形で職人が養成されるのでしょうか。

**熊谷** 京都では、京都府立陶工高等技術専門校、通称、訓練校と呼んでいます。TASKと呼んでいる京都伝統工芸大学校などいくつかの学校があります。一般の方も入れますし、窯元の後継者もそうした学校に通って家業を継がれます。そうした育成機関で1年、2年と訓練を受けて卒業されるということになります。ただ、最近では職人を志望されるより、作家を志望する方が多くなっていて、窯元が職人を募集してもなかなか応募がないというのが現状だそうです。ここ何年も、求人は出すのですが、3年も5年も応募がないという状況があります。

**外山** 京都ならではの訓練機関はきっちり整備されていますが、職人として後継を志望する方が少ないというのは、どこの産地も同様な傾向のようです。製造の過程が全て1人でできて経営規模が小さい所だと、そうした作品作りができるのですが、分業によって一定程度数をこなして、世の中に広く商品を提供していこうというところでは、何かまた違ったモチベーションで人を集めていく必要が出てきているようです。ただ、伺った事業展開のお話などを聞いていると、昔ながらの職人仕事とはまた少し違った職業上の魅力が感じられるようになってゆくのではないかという気がしております。そろそろまとめ

の時間となりました。今日のテーマはプロデューサーということでしたが、まさにその役割を担う卸売商社。今、とかく流通の中抜きということが盛んに言われているのですが、この卸売商社の存在意義という点についてお考えを伺えればと思います。

**熊谷** 伝統産業となり得るには…、産業ですのである一定の規模が必要となってきます。職人が多くの商品を効率よく生産し、出来上がった商品を卸しが在庫として抱えてゆく。それを、小売店が良いところをPRしながら販売してゆくという流れがあって、現状、産業としては成り立っています。たくさん生産することで完成度も上がって、また、歩留まりも上がると結果的に価格も抑えられる。ブランド価値も高められるということにつながってゆきます。われわれ産地卸しは単に右から左に商品を流すということではなく、商品の企画開発、一から企画開発することも多いですし、また、全数検品をわれわれが行っています。品質検査も食品衛生法に基づいて全部やっています。あとは、上絵加工であったり、在庫管理、カタログ作成、包装・梱包ですね。そうい

った日常業務であったり、営業活動、展示会の出展など京焼・清水焼の良いところをアピールするPR。そのように多くの業務をこなしています。個人もしくは家族で京焼・清水焼を生産されている窯元も多いので、市場に商品を出してゆく役割をこの卸しが担っています。それが存在意義だと考えています。また、バイヤーに対しては、弊社ならではの京焼・清水焼の提供も心がけています。商品開発一つとっても、半年や1年、時間をかけて何度も商品会議をして、試作を繰り返して、形や絵の細かいところまでブラッシュアップして商品化してゆきます。こうした努力がアドバンテージとなって弊社を選んでいただけるのかなと考えております。

#### 註

基調報告および討論は、2025年11月27日、商学部「商品学B」「国際交通論B」、商学研究科「商品学特論B」「国際交通論特論B」の公開特別講義として実施された。本講義録では、文体を整えるため、発言の意図を変えない程度に当日の録音記録を手直ししている。なお、文頭に掲げた肩書は開催時のものである。

## VIII 牢屋からの手紙

日 比 佳代子\*

### はじめに

明治大学博物館刑事部門の「吟味筋」のコーナーでは、小伝馬町牢屋敷に入牢中の僧侶が、別件で訴訟中の知り合いに送った〈牢屋からの手紙〉二点を展示している。その訴訟とは、弘化三年（1846）～安政五年（1858）に争われた出羽国村山郡山口村での山林訴訟である。展示品の二点の手紙は、かつて、当館初代学芸員の荃田佳寿子氏が山口村で起きた本訴訟を分析する中で、翻刻紹介した史料である\*<sup>1</sup>。荃田氏は本史料について「たまたま紅花代金一件で揚屋入り中の慈恩寺密蔵坊宗賢は、牢中から揚屋牢名主との手づるを指示し、入牢を恐れず、大丈夫に申立てるよう声援している」とするだけで、詳しい事には触れていない。そこで、前後の史料や山林訴訟の動向を補足して、この史料について説明を加えることとする\*<sup>2</sup>。

### 1、山林訴訟の概要

まず、先行研究によりながら\*<sup>3</sup>、出羽国村山郡山口村での山林訴訟について簡単に整理しておく。山口村は寛保二年（1742）の村高が1988石余、奥羽山脈沿いの山附きの村で、沢沿いに生成した集落は上組、中組、下組に分かれており、それぞれの組に名主などの村役人がいた。十九世紀には幕府領で、訴訟の起きた時期は、上組は阿部吉郎兵衛、中下組は伊藤儀左衛門が名主であった。

山口村の周辺には幕府の御林があったが、百姓の

利用は認められており、肥料用の草や木の枝などを採取することができた。御林のうち「隔間山」と呼ばれる場所は、各組が四ヵ所ずつ割り当てを持ち、各組で毎年一ヵ所ずつ利用して、利用後は三年休めるという四年周期で使用していた。

本一件は、弘化三年八月に、上組が御林隔間山の狐原山の裾野を開墾したいと幕府代官石井勝之進に駕籠訴をしたことに端を発する。狐原山の場所は上組に近かったが、割り当ては中組の隔間山だったから、中下組はこれに異議を申し立てた。しかし、上組は、狐原山は村の入会地だからと主張し引かなかった。同年十月に東根代官所に上組名主による新開願と、中下組名主による新開反対の願書が提出され、同じ村の中での山林訴訟が本格的に始まる。狐原山の開墾から生じた一件だが、争点は山林の利用方法に移っていき、駕籠訴から四年七ヵ月たっても結論はでなかった。

嘉永四年三月、代官所だけでは判断が難しいとして、本件は江戸の勘定奉行所へ送られる。上組、中下組の関係者は江戸に向かい、上組は大黒屋長右衛門宿、中下組は池田屋利右衛門宿を公事宿として、勘定奉行所での吟味を受ける事になる（上組の公事宿は、その後大黒屋から上総屋に変わったとみられる）。勘定奉行所では厳しい吟味を行い、内済を強く求めたが、双方が夫々の立場で主張しあい、一向に話がまとまらなかった。最終的に安政四年に幕府は、従来の分割利用慣行を認める方向で裁許を下した。上組が求めた山野利用の拡大は認められず、従

\* 明治大学博物館刑事部門

来の利用方針が認められるという結果であった。狐原山の開墾も認められなかったとみられる。翌年、寒河江代官所に、双方から判決を受諾する請書が提出され、約十二年続いた争いは終了する。

## 2、手紙の内容

展示品の牢屋からの手紙は、嘉永五年五月二十九日と六月五日にだされたものである。この時期の訴訟の動きをもう少し詳しく見ておこう。江戸の勘定奉行所で吟味が始まったのは嘉永四年で、翌年の二月に奉行所から、国元扱人による中下組十四ヵ所、上組七ヵ所の立入伐取りを基準に示談するように指示がでた。三月に掛留役が屋代増之助に交代し、屋代も示談を命じたが、示談は成立しなかった。中下組の儀左衛門が受け入れられない事情を訴えると、「大威張精急之方」「意地悪第一」と噂される屋代は命を奪わんばかりの恫喝を加える。出入筋でも内済の承認などを強制するために入牢させることがあったから、この時点で中下組の者達は「入牢いたし候は夫々支度も有之」と、入牢の可能性を意識していた。三月二十七日に国元に送った書状の中に、慈恩寺密蔵坊宗賢が小伝馬町牢屋敷の「名主共」（牢名主のこと）とつてがあるので内々に牢内の様子を聞いたこと、万一の時には慈恩寺密蔵坊宗賢に頼んで牢屋敷の揚屋に入る算段をしているから（「万一候節ハ同人共江申入揚屋詰ニ相成候積ニ付」）心配する必要はないことを、書き送っている。小伝馬町牢屋敷には複数の牢があり、身分によって入る牢が異なる。百姓であれば大牢に入るものだが、僧侶は揚屋に入る。つてを使って、大牢ではなく揚屋に入れるように手配してもらっているというのである。

さらに、四月十二日付の慈恩寺密蔵坊宗賢差出の手紙では、自身が四月六日に揚屋入になったことを伝え、儀左衛門へ「一、儀左衛門様へ申上候、万々一御吟味ニ付而当方参り候様ニも相成候ハ、可相成者一日も早く御知らせ被下候得者、鍵役衆へ御頼申入候而、貴公様一音も不申候而も当揚屋入可申候、左も成兼候ハ、先達而之案内書之通可被致候、其節

ハ此方共々願申上候間、左様御心得可被下候」「一、拙子義、奥揚屋宥長師之御世話ニ相成居申候、上座之隠居、此上もなき上座仕居候間、当方ハ少茂御安事被下間敷候、宥長様、本戒様、栄吉様、皆々御安泰ニ御座候間、此段御安心可被下候」と書き送っている。入牢となったらすぐ知らせてくれ、小伝馬町牢屋敷の鍵役衆に頼んで、揚屋入に入れるようにする、自分は揚屋の「宥長」という人物の世話になっていて、上座の隠居という待遇を得ている、というのである。小伝馬町牢屋敷の役人である鍵役が囚人と癒着していることが分かる。

その後、五月十二日の吟味で上組吉郎兵衛が長時間の白洲での吟味の末に入牢になった（「十二日之吟味ニ而、吉郎兵衛儀ハツ時ハ夜之五ツ時迄御白洲留、再応書面差上宿并惣八応対之上歎願いたし候由ニ候得共、御聞済なく同夜五ツ半時入牢相成申候」）。この後に出されたのが、展示品の五月二十九日付の慈恩寺密蔵坊宗賢から儀左衛門らへの書状である。包紙には「松平豊前守様御腰掛ニ而認メ」とあり、寺社奉行松平豊前守の屋敷の腰掛（訴訟関係者の控室）で書状を認めている。入牢者にとって、腰掛が外の世界への接点になっていることが分かる。書状には、吉郎兵衛が大牢で若隠居になっており、若隠居は昼一枚を四人で使い、口を利くこともできないなど書いている。そして、上組吉郎兵衛の公事宿の上総屋は、鍵役衆を通じて牢名主に吉郎兵衛の処遇を頼んでいるが、ここは金次第の場所、役人衆を何人頼んでも無駄だと言い、大牢にくらべ揚屋の自由さ誇るように伝えている。

上組吉郎兵衛は、六月三日に出牢する。同じ日に儀左衛門は牢中の慈恩寺密蔵坊宗賢に「大急用」と包紙に認めて書状を出しており、六月五日に慈恩寺密蔵坊宗賢から儀左衛門らに返事が出されている<sup>\*4</sup>。六月五日付のこの書状が、もう一つの展示品である。書状には、「一昨日ハ定而御嚴重之御吟味御覚悟被致候而、死争被成候御様子、一件利運之印ト奉存候、御国元ハ出府被致候組頭徳助殿、格別之御覚悟神仏御加護難有拙子迄啼泣仕候」とある。三日に中下組

の徳助と喜三郎が勘定奉行所に呼び出されており、その際の吟味がかなり厳しかったようである。徳助は儀左衛門の身代わりに入牢することになっていたもので、入牢が現実味を帯びる中、中下組儀左衛門らは三日に慌てて慈恩寺密蔵坊宗賢に連絡をとったのだろう。それに対し、慈恩寺密蔵坊宗賢は、大牢と違い揚屋は楽なところだから大丈夫だ、入牢になったら揚屋の牢名主の宥長の名前を出してくれと念押しするのである。

果たして、慈恩寺密蔵坊宗賢はなぜこんなに親身になってくれるのだろうか。それは、世話に対する見返りがあるからである。勘定奉行所での吟味が小休止した七、八月にも慈恩寺密蔵坊宗賢から書状が来ており、そこには、縁者の固二を江戸の塾へ入れたいので世話をお願いしたいという趣旨のことが書かれている。金銭の面倒を見る事も含まれているのであろう。慈恩寺密蔵坊宗賢にとっても、儀左衛門に牢の情報を与え、牢での特別扱いを約束できるのは、見返りを期待できる貴重な機会なのである。その後、入牢の危機は落ち着いたようで、やり取りは間が空く。十二月三日に慈恩寺密蔵坊宗賢が儀左衛門らに出した書状では、一件はどうなったか、と尋ね、国元の牢屋に入れられるという事もあるだろうからと、揚屋の他の囚人から得た国元の牢屋の情報

を伝えている。何とか手持ちの情報をいかして関わろうとしているのである。その書状には、固二の世話をたのみ、国元で取れた小鴨を一羽頂戴したい、くださるときは毛を取って送ってくださいとも書き添えている。厚かましい願いだが、持ちつ持たれつである。牢からの手紙に記された生々しいやりとりは、お金と、それを活かせる「つて」を持つ者が、牢屋の周りにはうごめいていたことを私達に教えてくれる。

#### 註

- \*1 荃田佳寿子『幕末日本の法意識』（巖南堂書店、1982年）
- \*2 慈恩寺密蔵坊宗賢差出の手紙は全て「密蔵坊揚屋入并国元欠所ニ付他」（明治大学博物館所蔵出羽国村山郡山口村文書目録20状書簡49）より。この他、特にことわりのないものは、儀左衛門が国元に送った書状によっており、出典は嘉永4、5年「東都来状」（明治大学博物館所蔵出羽国村山郡山口村文書目録41冊X153）である。
- \*3 高木正敏「羽州村山地方における入会慣行と山論」（『法政史論』7号、1980年）、荃田佳寿子前掲書、渡辺尚志『江戸・明治 百姓たちの山争い裁判』（草思社、2017年）。
- \*4 六月五日の儀左衛門ら宛の書状の包紙は六月三日の書状の包紙を再利用している。

## IX 栃木県米山東古墳の形象埴輪配列の検討

忽 那 敬 三\*

### はじめに

かつて、栃木県佐野市関川町に所在した米山東古墳は、1960年代に消滅した後期古墳である。墳丘は畑として利用されていたため、すでになかなりの部分が破壊されていたが、佐野市の依頼を受けた明治大学考古学研究室の発掘調査により、横穴式石室と形象埴輪列の存在が明らかになった。調査の概要は『佐野市史資料編1』において、調査を担当した小林三郎氏により報告されているが（小林1975）、その中では墳丘、横穴式石室、石室からの出土遺物については詳しく述べられているものの、埴輪については出土状況の写真とわずかな記述にとどまっている。そのため、栃木県内でも貴重な配列状況の復元が可能な事例でありながら、これまで米山東古墳は検討の俎上に上がってこなかった。

現在、同古墳出土埴輪の再整理を行っているが、耕作等の破壊により残存状態は良好ではないものの、出土片の内容と原位置で出土した基底部の状況から、形象埴輪群の構成ならびに配列の様相が明らかになりつつある。

本稿では、これまでに公表されている図や写真に加え、当館で所蔵する調査時の写真や図面、整理中に得られた知見をもとに、現状で復元可能な米山東古墳の埴輪配列について述べ、本例が近年再び注目されている埴輪配列研究の一助となることを目指す。

なお、本稿の記述は現時点の観察や知見に基づいているため、今後整理作業の進展により変更が生じる可能性がある点をご承知おきいただきたい。

### 1. 米山東古墳の概要

JR・東武佐野駅の約1.5km北東に位置する。西側に

は米山古墳他数基の古墳が築かれている標高61mの米山があり、そこから延びる台地上に本古墳が築かれている。調査当時の墳丘の標高は28mで、南側に広がる水田との比高差は7mであり低地を一望する立地であったというが、現在は市営住宅が立ち並んでいる。本来、本古墳には名称はなく、現地の宅地開発のため佐野市から発掘調査を依頼された明治大学考古学研究室により「米山東古墳」と命名された。（小林1975）。

発掘調査は1965年5月21日～6月2日にかけて実施された。調査時において周辺はすでに畑となっており（図1）、墳丘の改変をかなり受けた状態であった（図2）。墳丘形状については、周囲を巡る溝の存在から、『佐野市史』では1辺33mの方墳としている。

埋葬施設は玄室長5.2m、玄室幅1.5m、残存する羨道長2.2mをはかり、南向きに開口し片袖式の平面プランをもつ横穴式石室1基が墳丘の東寄りの位置から検出されている（図2、3）。上部は破壊され、割石の石材のほとんどが失われており、奥壁と一部の基底石、羨道部の閉塞石がわずかに残存する程度であった。

副葬品もほとんどが持ち去られていたが、床面から玉類（瑪瑙製勾玉、水晶製切子玉、ガラス小玉）、鉄鏃（根挟み、長頸）、刀の茎片、馬具（鞍金具、辻金具、鉸具、花形飾鉾等。鉄地金銅張を含む）、須恵器片、人骨片（歯を含む）が検出されている。また、閉塞の外側から土師器が1点出土している。

さらに墳丘の各地点で埴輪が認められたが、特に南西側において約13mにわたり列状に出土した。このうち、石室寄り10mの範囲では埴輪の基底部が複数検出されており（図4の上の列。下の3点からなる列は円筒埴輪<sup>1)</sup>）、人物・馬・器財埴輪片を伴うことから、形象埴輪列であることが確実である。この埴輪列が本稿の主題であり、次項で詳述する。

\* 明治大学博物館考古部門

遺物等から、年代はおおむね6世紀後半に収まるものと考えられるが、再整理の過程で坏蓋や甕など複数の須恵器片が確認されており、今後さらに年代を限定できる可能性がある。

さて、ここで触れておきたいのが埴形の問題である。既に指摘されているように（佐野市博2017）、方埴とした場合、横穴式石室が埴丘の中心に位置しない点には疑問が残る。また、埴丘断面図を見る限り表土層と埴丘盛土の判別が困難であったとみられるほか、形象埴輪列が埴丘の南辺と並行せず、北東方向の石室開口部に向けてやや傾いて並んでいる点も含め、東西に主軸をもつ前方後円埴等の可能性も考慮する必要があるだろう<sup>2</sup>。

## 2. 形象埴輪列

### ①埴輪列の状況とこれまでの理解

では、本稿の主題である形象埴輪列について見ていこう。『佐野市史』では、形象は人物と馬、円筒は朝顔形と普通円筒があるとし、人物は美豆良がつくもの、首飾りや耳飾りをつけるものがあり、馬は飾り馬で頭を東に向けていると述べている。

埴輪列については図2を示し、原位置の埴輪は21点としている。図2の埴輪列部分を拡大したものが図4である。馬形埴輪の足についても1本ずつ点を落としていることから、この数がそのまま埴輪の個体数とはならず、各点が何の種類の埴輪であるかも明示されていない。そのうえで、埴輪列は石室に近い方から「朝顔花形円筒埴輪<ママ>・人物・人物・人物・馬・人物・馬・人物・馬・人物・馬・人物・人物・人物・馬・馬という順序の配列になる可能性が強い」として、朝顔形埴輪から始まり、人物9点、馬6点の合計16点での構成を推定している。

また、図5、6、7が掲載され、石室側から埴輪列が西へ延びる状況と、人物埴輪と馬形埴輪の基底（足）部が原位置で出土した状況を示している。

しかしながら、この図と記述のみでは配列の状況が不明であることから、当館に保管されている写真や出土状況図をもとに検討を試みたい。

### ②出土状況図に基づいた形象埴輪列の復元

まず、これまで述べてきたように本古埴は耕作等によりかなり破壊されているため埴輪についても残存状況が悪く、それぞれの埴輪の種類は周辺から出土している破片から推測せざるを得ない点を断っておく。ま

た動物については現時点で馬以外は確認されていないことから、足が4本ある個体については馬と仮定する。

出土状況図から新たに復元した配列が図12である。最も石室寄りの東端に位置する大型円筒（人1）は、これまで朝顔形円筒とされてきたが、周辺で朝顔形埴輪に類する破片は出土していない。また、本古埴の円筒埴輪の底部径が16cm程度であるのに対し、本例は2倍近い32cmに達するうえ、図10によれば、右に写る本例の周辺には人物埴輪の腕がみられるため、人物埴輪の台部と判断した。さらに、本例の外表面の一部には本古埴の形象埴輪にみられる白い塗料が付着する点もこの見解を首肯しよう。後述する馬曳（馬子）など他の人物埴輪の台部よりも大型であることから、儀礼シーンの主要人物である可能性が高い。

続く人2（女子？）は底径39cmをはかり、かつ楕円形を呈する特殊な台部で（図10）、栃木県下野市国分寺甲塚古埴の機織女子埴輪の台部に似る。最下段の突帯は高さ約4cmで、低位置の範疇に入る。突帯はさらにもう1条巡り、3段以上となることが確実である。また、黒色の塗料が上部から垂れ落ちてきたような状態で表面の一部に付着する。付近から女子の髷が出土している。

人3（女子？）も人2とほぼ同大の楕円筒の台部である。破片の残りが悪いが、同様に2条3段以上とみられる。塗料の付着はないが、こちらも付近から女子の髷が出土している。顔や体部が出土していないものの、黒・赤・白で彩色した破片（赤と白を混ぜたと思われるピンク色を呈する破片もわずかに存在する）が人2と人3の周辺に集中することから、盛装した女子の存在をうかがわせる。

大型の台部は以上の3個体のみで、ここから西はほぼ直径15cm程度の台部で占められる。人4も小型の個体である。付近で出土している体部は指を表現しない小型の腕を持ち、首飾りを付ける。現状で馬1の足とは65cm以上離れており、馬曳とは即断できない。

次に馬1が並ぶ。2本の足が南北に揃うが、前足または後足となるもう1組は失われている。周辺に頭と鞍の破片が集中することから前足の可能性が高い。

続く人5も小型の台部をもつ。馬曳であろうか。

人5から40cmほどの間隔をおいて馬2がある（図6）。こちらは4本すべての足が原位置で揃う。足の先端から後端までの幅は約55cm、前足と後足の間隔は約30cmとかなり狭い。馬1、2とも尾が西寄りか

ら出土しているので、これまでの見解の通り、馬の頭が石室方向を向くことを示しているのかもしれない。

馬2から30cmほど離れて、馬曳と思われる人6の台部がある(図6)。馬の頭が石室側を向くとすれば、人5と馬2の距離のほうが馬2と人6との距離よりも近いと考えたくなるが、実際は逆である。おそらく、馬の頭部が大きく尾よりも長い為、このような配置になると考えられる。

40cmおいて馬3となる(図7)。南西側の足1点を欠くが、頭部片が東寄りから出土しており、やはり東向きと思われる。

次の人?7は変則的で、馬3との間隔はわずか約15cmで、径も20cmとやや大きい(図7)。周辺の埴輪片が少なく、人物埴輪ではない可能性もある。

40cmおいて、馬4となる。東南の足1点を欠く。

30cm西に人?8がある。こちらは小型の台部である。破片は少ないが、馬曳とみられる。

40cmおいて、馬5となる。北東、南西の2足の足を欠く。『佐野市史』において、この2点は人物としているが、馬1～4の足の配置と周辺の埴輪片の状況から馬としてよいだろう。現状で、確実に原位置を保っている個体は馬5が最後である。

なお、馬5よりもさらに西に馬形埴輪片が集中する一帯があるが、原位置を保つ足がないことから、墳丘から滑り落ちたか、あるいは後世に廃棄された個体と思われる。今後、馬1～5との接合関係を確認する必要がある。

以上をまとめると、人物は人1～8がすべて人物と仮定すると最大で8体、馬は5体の計13体となり、栃木県内では国分寺甲塚古墳の24体(人物20、馬4)に次ぐ多さである。馬に限ると、国分寺甲塚古墳をしのぐ数となる。石室に近い人1～3は大型の台部や彩色から、女子を含む盛装した人物群による儀礼シーンの可能性がある。一方、それよりも西に連なる部分は、馬曳と石室側に頭を向けた馬が間隔を規則的に保って並んでいたと推測できる。馬の数がさらに増える可能性があるものの、およそその形象埴輪配列の様相が明らかになったといえよう。

なお、人物・馬のほか、盾・大刀・家の埴輪片を確認しているが、原位置ではないことから今回の検討からは除外している。小型の台部である人4～8

のうち、出土状況から明確に人物埴輪片を伴う人4、6を除く人5、7、8は器財埴輪の台部である可能性を残すが、人?7がやや例外的であるものの、馬と並んだ配置や底部径の大きさから器財埴輪とする積極的な理由は見いだせない。同時期の他の古墳の配列例から、器財埴輪は墳頂部からの転落と見るべきと考える。なお、家形埴輪片は石室付近からの出土で、墳頂部に配置されていた蓋然性が高い。

### 3. 配列から見た位置づけ

では、この米山東古墳の形象埴輪配列は、栃木県内の事例の中でどのように位置づけられるのであろうか。近年、集成と検討を行った秋元陽光氏によれば、横穴式石室出現期(TK10～TK43)以降の良好な事例は8例であり、「形象埴輪は原則として墳頂に家・器財が、墳丘第一段に開口する横穴式石室に向かって右あるいは左に人物・馬が列をなして配置される」(秋元2025)という。また、形象埴輪列については円筒埴輪列の内または外に配置されるものと、円筒埴輪列中に組み込まれる3通りのパターンがあるという。

米山東古墳で確認された形象埴輪列は、横穴式石室開口部の左側にあり(石室右側では原位置の埴輪は確認されていない)、墳頂に家や器財埴輪の配置が想定できることから、当該期の典型的なあり方を示しているといえる。また、円筒埴輪列との関係では、これまで朝顔形埴輪とされてきた最も石室寄りの個体が人物と考えられること、南辺の円筒埴輪3点が原位置を保っていないものの列状に出土していることから、形象埴輪列は円筒埴輪列の内側に配置されていた可能性が高く、こうした配置は全長48mの前方後円墳である宇都宮市瓦塚古墳に同様の例がある。

ここで注目されるのが、米山東古墳の人1～3の配置である。人1～3の列は、人4～馬5の並びから南に20cmほどずれる形となっており、直線状には連続しない。また、人2、3の楕円形台部の長軸は揃っておらず、人1も含めると、北側を内側にしやや弧を描くような配置にも見える(図5、12)。先述のように、人1～3は儀礼シーンと考えられるが、出土地点が不明な破片の中に椅子に座る人物のものと思われる小型の足が確認されており、中心的

な人物または琴弾きの存在が想定される。おそらくは、群馬県綿貫観音山古墳例と同様に、石室付近に儀礼シーンを設け、以降は各種人物や馬を列状に並べる配置であったとみることができよう。

秋元氏は、栃木県内の形象埴輪配置を一系列に並ぶ「列配置」とそれ以外の「隊配置」（「一定の範囲内において場面を表す配置」とする）に分類し、後者が先行するとした（秋元2019）。6世紀前葉の小山市飯塚31号墳（全長29mの造り出し付円墳）では、造り出し周辺に椅子に座る男子や琴弾き、器を捧げる女子などが集中する「隊配置」である。一方で、国分寺甲塚古墳では人物（機織りを含む）と馬が円筒埴輪列中に一系列に配置される「列配置」であり、儀礼シーンは独立していない。この考えに従えば、米山東古墳の形象埴輪配列は、国分寺甲塚古墳よりも古相を示しているといえよう。

## おわりに

以上のように、出土状況図の再検討と現状での出土埴輪の情報から、米山東古墳の形象埴輪配列の復元と位置づけを試みた。形象埴輪の配置状況が明らかかな例は栃木県内でも限られており、今回の検討により貴重な事例を加えることができた。本古墳の再整理作業は継続中であり、引き続き埴輪や須恵器の精査により年代や埴輪の供給、各地域との交流の様相の解明に努めたい。



図1 南西側からの墳丘遠景（人が立っている部分。当館蔵）

## 注

- 1：「埴輪列」の下の方筒埴輪列は、「いずれも遺存状態がわるくくママ」、本来の埴輪列かにわかに決したい」（小林1975）とあり、原位置ではない可能性がある。
- 2：国土地理院地図・空中写真閲覧サービスにて公開されている1948年に撮影された現地の空中写真では、墳丘はすでに調査時と同じ方形状となっている。周辺の畑作地や道路の状況からも、前方後円墳らしき痕跡は確認できない。

本稿を成すにあたり、秋元陽光、足立佳代、賀来孝代、米澤雅美の各氏および佐野市教育委員会から貴重なご教示とご高配を賜りました。記して感謝申し上げます。

## 参考文献

- 秋元陽光 2019 「栃木県における形象埴輪配置」『埴輪研究会誌』第23号 埴輪研究会 pp.50-61
- 秋元陽光 2025 「栃木県における形象埴輪配置—補遺—」『埴輪研究会誌』第28号 埴輪研究会 pp.78-85
- 小林三郎 1975 「米山東古墳」『佐野市史 資料編1』佐野市 pp.97-120
- 佐野市郷土博物館 2017 『佐野の古墳と埴輪』
- 鈴木一男 2009 「飯塚古墳群と出土埴輪」『国宝武人ハニワ、群馬に帰る！』群馬県立歴史博物館 pp.202-205
- 日高 慎 2014 「しもつけの埴輪群像—国分寺甲塚古墳を中心に—」『しもつけの埴輪群像—そのすがたをさぐる—』平成26年度栃木県しもつけ風土記の丘資料館第28回秋季特別展図録 栃木県教育委員会 pp.55-64

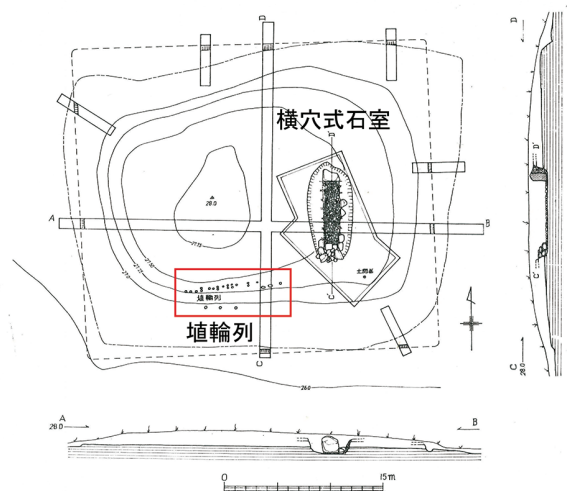


図2 墳丘及びトレンチ配置図（小林1975に筆者加筆）



図3 横穴式石室の検出状況（南から、当館蔵）

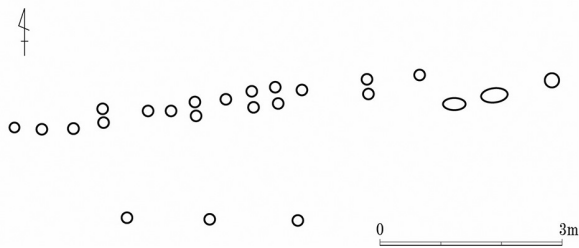


図4 図2の埴輪列部分の拡大（小林 1975 を再トレース）



図5 埴輪列出土状況（手前から人1～3。東から、当館蔵）



図6 馬2（右）、人6（左）の出土状況（南から、当館蔵）



図7 馬3（右）、人？7（左）の出土状況（南から、当館蔵）



図8 埴輪列出土状況（列の左奥が馬形埴輪片集中部、当館蔵）



図9 埴輪列出土状況（人2～人？7。南西から、当館蔵）



図10 人1（右）、人2（左）の出土状況（南から、当館蔵）



図11 人4（右）、馬1（左）の出土状況（南から、当館蔵）

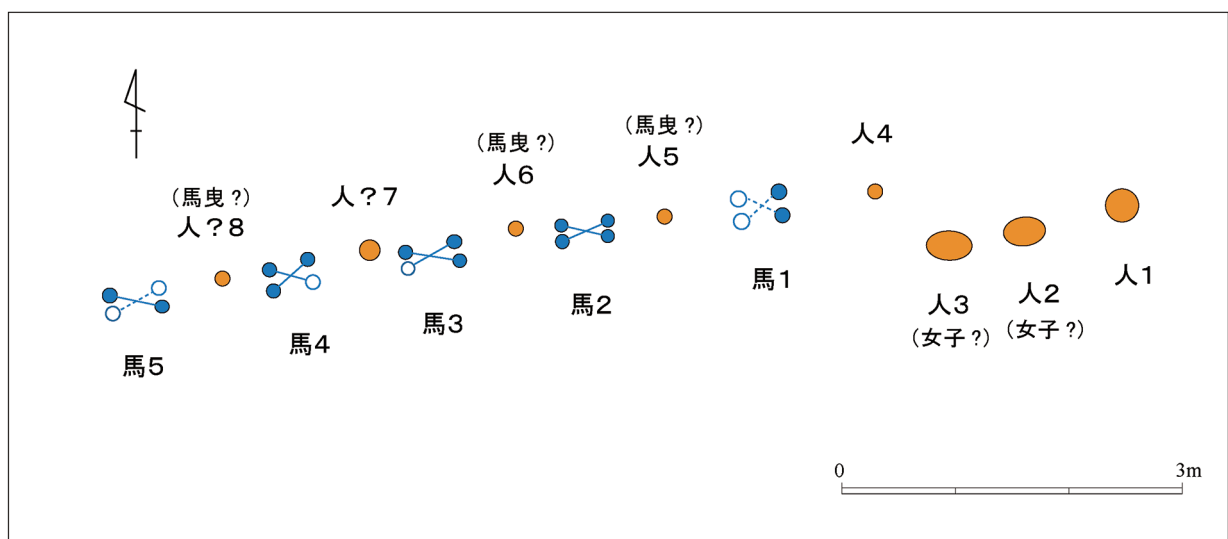
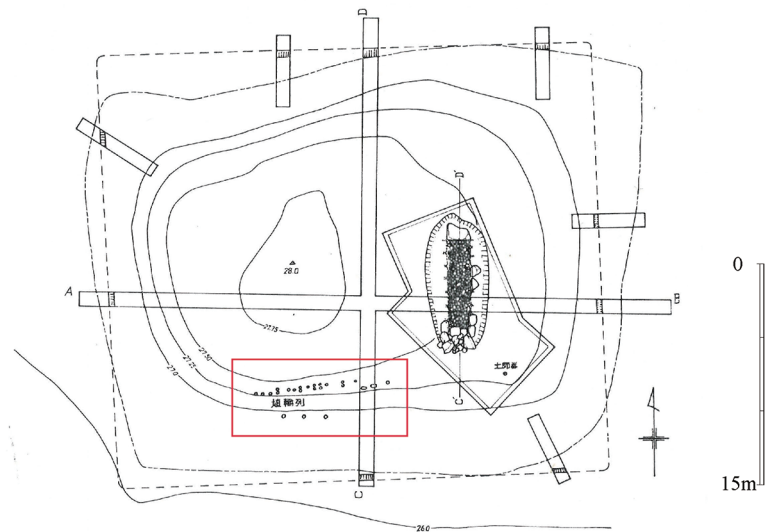


図12 形象埴輪列の配置復元案（円筒埴輪列は原位置でない可能性があるため図示していない。上の図は小林 1975 を一部改変）

表紙写真

広橋兼綱書状 応安4～永和2(1371～76)年(室町時代)  
龍文透彫金銅製品(部分)(伝綿貫古墳群出土)  
別府竹細工 四つ目折返し小判花籠

## 明治大学博物館年報 2025 年度

---

2026 年 9 月 30 日発行

編集 蒲生侑佳 明治大学博物館

発行 明治大学 学術・社会連携部 博物館事務室

〒101-8601 東京都千代田区神田駿河台 1-1

電話 03-3296-4448 FAX 03-3296-4635

URL <http://www.meiji.ac.jp/museum>

印刷 株式会社 白峰社

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 5-49-6

電話 03-3983-2312 FAX 03-3983-2307

---

